
男女共同参画に関する市民意識調査

報告書

令和元年 10 月

四日市市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	2
2	調査の設計	2
3	回収の結果	2
4	標本誤差	3
5	報告書の見方	4
6	自由回答	4
II	回答者の属性	5
1	回答者の属性	6
1-(1)	性別 (問 45)	6
1-(2)	年齢 (問 46)	6
1-(3)	家族構成 (問 47)	7
1-(4)	子どもの状況 (問 48)	8
III	調査の結果	9
1	男女平等について	10
1-(1)	男女の平等感について (問 1)	10
1-(2)	男女が平等になるために重要なこと (問 2)	23
2	結婚、家庭、子育てについて	25
2-(1)	婚姻の状況 (問 3)	25
2-(2)	配偶者又はパートナーの就労状況 (問 4)	26
2-(3)	配偶者又はパートナーの就労形態 (問 5)	27
2-(4)	家事の分担比率 (問 6)	28
2-(5)	結婚や家庭に対する考え方 (問 7)	29
2-(6)	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思う理由 (問 8)	31
2-(7)	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思わない理由 (問 9)	33
2-(8)	男性が家事育児に参加するために必要なこと (問 10)	34
3	職業生活について	36
3-(1)	現在の就業形態 (問 11)	36
3-(2)	管理職への昇格希望 (問 12)	39
3-(3)	管理職への昇格を希望する理由 (問 13)	40
3-(4)	管理職への昇格を希望しない理由 (問 14)	41
3-(5)	職場における男性の育児休業の取りやすさ (問 15)	42
3-(6)	女性活躍の取り組みの進捗状況 (問 16)	43
3-(7)	女性活躍の取り組みが進まない理由 (問 17)	44
3-(8)	女性が職業を持つことについての考え方 (問 18)	45

3-(9) 女性が職業を持ち続けていく上で障害と思うこと (問 19)	47
3-(10) 女性の再就職のために必要な施策・対策 (問 20)	49
4 ワーク・ライフ・バランスについて	53
4-(1) ワーク・ライフ・バランスの現状 (問 21)	53
4-(2) 仕事の時間の優先する際の課題 (問 22)	55
4-(3) 家庭生活の時間を優先する際の課題 (問 23)	56
4-(4) 個人の生活の時間を優先する際の課題 (問 24)	57
4-(5) ワーク・ライフ・バランスの実現のために重要なこと (問 25)	58
5 社会活動等について	61
5-(1) 地域活動等への参加状況 (問 26)	61
5-(2) 地域活動等に参加していない理由 (問 27)	66
5-(3) 地域活動等における現状 (問 28)	67
6 ドメスティック・バイオレンスなどについて	69
6-(1) 暴力の加害、被害の有無 (問 29)	69
6-(2) 暴力などをした際の相談先 (問 30)	75
6-(3) 暴力などをした際に相談しなかった理由 (問 31)	77
6-(4) 暴力などを受けた際の相談先 (問 32)	78
6-(5) 暴力などを受けた際に相談しなかった理由 (問 33)	80
6-(6) 暴力などを受けた際の対応 (問 34)	83
6-(7) 暴力などを受けた配偶者等と別れなかった理由 (問 35)	84
6-(8) 暴力などを受けた配偶者等と子どものことで別れなかった理由 (問 36)	86
6-(9) 暴力などを受けた際の相談先の認知 (問 37)	88
7 性の多様性について	89
7-(1) 「性的指向」「性自認」の認知 (問 38)	89
7-(2) 自分の恋愛対象に悩んだり、自分の性に違和感を覚えた経験 (問 39)	91
7-(3) 性の多様性を認め合う社会を作るために必要な施策・対策 (問 40)	92
8 男女共同参画社会について	93
8-(1) 政策の立案や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由 (問 41)	93
8-(2) 男女共同参画を推進するための力点 (問 42)	95
9 男女共同参画センターについて	97
9-(1) 四日市市男女共同参画センターの認知度 (問 43)	97
9-(2) 四日市市男女共同参画センターでの実施事業の認知度 (問 44)	98
参考資料	101
1 調査票	102

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、令和2年度に新たな男女共同参画基本計画を策定するにあたり、男女共同参画に関する市民の意識や生活について把握し、本市が取り組むべき施策等の検討及び進捗状況等の点検に資することを目的として実施した調査である。

2 調査の設計

調査対象：四日市市に居住する満18歳以上の住民
(令和元年8月1日現在)

標本数：3,000 サンプル

標本抽出法：住民基本台帳より無作為抽出

調査方法：郵送配布、郵送回収

調査時期：令和元年8月16日～8月31日

ただし、回収期限後にあった回答についても、9月17日到着分まで集計に反映させた

3 回収の結果

発送数 A	宛先不明等 B	有効配布数 C	回収数 D	無効回収数 E	有効回収数 F	回収率 F/C
3,000	13	2,987	1,168	1	1,167	39.1%

4 標本誤差

無作為抽出にて行った調査結果を基に全体を推計した値と、全体をもれなく調査した結果の値を比較した際に統計的に生じる差が標本誤差である。

今回の調査における有効回収数は1,167であり、ある設問で選択された回答が有効回収数の50% (回答率50%)であった場合の標本誤差は±2.9%となる(回答率50%で誤差が最大)。今回の調査を基に18歳以上の市民全体の意識を推計すると、回答率50%であった場合、標本誤差を含め47.1%~52.9%の回答があったと推計される。

ただし、性別、年齢別等の属性ごとにみる場合には、有効回収数が少数となることから標本誤差が大きくなるため、データの取扱いには注意が必要である。

無作為抽出の場合、標本誤差は次の式で計算される。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

N：母集団(調査の対象となる集団の総数)

n：比率算出の基数(有効回収数)

P：回答比率(ある選択肢の回答割合)

信頼水準：±1.96(標本誤差が目的とする誤差の範囲にある確率が95%の場合の係数)

各属性の標本誤差を次表に示す。

		回収数 n (人)	回答率P(%)									
			5又 は95	10又 は90	15又 は85	20又 は80	25又 は75	30又 は70	35又 は65	40又 は60	45又 は55	50
全体		1,167	1.2	1.7	2.0	2.3	2.5	2.6	2.7	2.8	2.8	2.9
性別	女性	632	1.7	2.3	2.8	3.1	3.4	3.6	3.7	3.8	3.9	3.9
	男性	523	1.9	2.6	3.1	3.4	3.7	3.9	4.1	4.2	4.3	4.3
年齢別	20歳未満	20	9.5	13.1	15.6	17.5	18.9	20.1	20.9	21.4	21.8	21.9
	20歳代	91	4.5	6.2	7.3	8.2	8.9	9.4	9.8	10.1	10.2	10.3
	30歳代	148	3.5	4.8	5.7	6.4	7.0	7.4	7.7	7.9	8.0	8.0
	40歳代	184	3.1	4.3	5.1	5.8	6.2	6.6	6.9	7.1	7.2	7.2
	50歳代	177	3.2	4.4	5.2	5.9	6.4	6.7	7.0	7.2	7.3	7.4
	60歳代	215	2.9	4.0	4.8	5.3	5.8	6.1	6.4	6.5	6.6	6.7
	70歳以上	326	2.4	3.2	3.9	4.3	4.7	5.0	5.2	5.3	5.4	5.4
性・年齢別	女性 20歳未満	9	14.2	19.6	23.3	26.1	28.3	29.9	31.1	32.0	32.5	32.6
	女性 20歳代	55	5.7	7.9	9.4	10.6	11.4	12.1	12.6	12.9	13.1	13.2
	女性 30歳代	84	4.6	6.4	7.6	8.5	9.2	9.8	10.2	10.5	10.6	10.7
	女性 40歳代	102	4.2	5.8	6.9	7.7	8.4	8.9	9.2	9.5	9.6	9.7
	女性 50歳代	101	4.2	5.8	6.9	7.8	8.4	8.9	9.3	9.5	9.7	9.7
	女性 60歳代	109	4.1	5.6	6.7	7.5	8.1	8.6	8.9	9.2	9.3	9.4
	女性 70歳以上	172	3.2	4.5	5.3	6.0	6.5	6.8	7.1	7.3	7.4	7.5
	男性 20歳未満	11	12.9	17.7	21.1	23.6	25.5	27.0	28.1	28.9	29.4	29.5
	男性 20歳代	35	7.2	9.9	11.8	13.2	14.3	15.2	15.8	16.2	16.5	16.6
	男性 30歳代	62	5.4	7.5	8.9	9.9	10.8	11.4	11.9	12.2	12.4	12.4
	男性 40歳代	82	4.7	6.5	7.7	8.6	9.4	9.9	10.3	10.6	10.8	10.8
	男性 50歳代	76	4.9	6.7	8.0	9.0	9.7	10.3	10.7	11.0	11.2	11.2
	男性 60歳代	104	4.2	5.7	6.8	7.7	8.3	8.8	9.1	9.4	9.5	9.6
	男性 70歳以上	152	3.5	4.8	5.7	6.3	6.9	7.3	7.6	7.8	7.9	7.9

5 報告書の見方

- (1) 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、合計が100%にならないこともある。
- (2) 基数となるべき実数は、件数として掲載した。したがって比率は、件数を100%として算出している。
- (3) 複数回答が可能な質問の場合は、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%なのかという見方をする。このため、各項目の比率の合計は通常100%を超える。
- (4) 本報告書中の文章、表、グラフ等の見出しの回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合がある。
- (5) 本報告書中の「前回調査」は、平成29年8月に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」をさす。なお、前回調査と共通する設問については、本報告書の各設問分の後に **前回共通** のマークを付けた。また、前回調査と共通するものの選択肢の数など一部変更のあった設問については、同様に **前回共通(一部変更)** のマークを付けた。

6 自由回答

男女共同参画に関することについて自由にご意見やご要望を書いていた自由回答について、147人の記述があった。

II 回答者の属性

1 回答者の属性

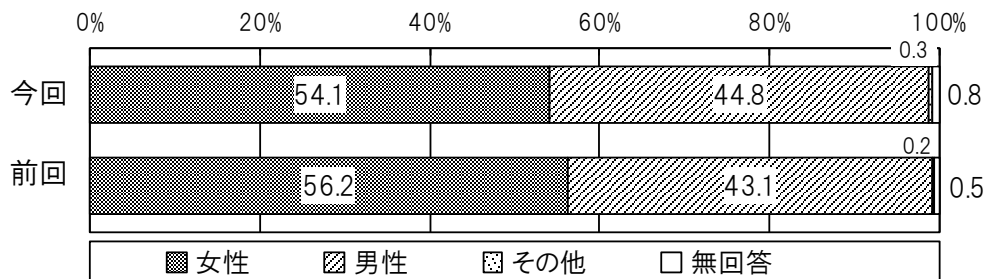
1-(1) 性別

[n=1,167] 前回共通

問45 【すべての方におたずねします。】

あなたの性別について、次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆性別の割合は、女性が54.1%、男性が44.8%となっており、女性が9.3ポイント多い。
- ◆なお、前回調査では女性が56.2%、男性が43.1%であり、回答者の傾向はほぼ同じとなっている。



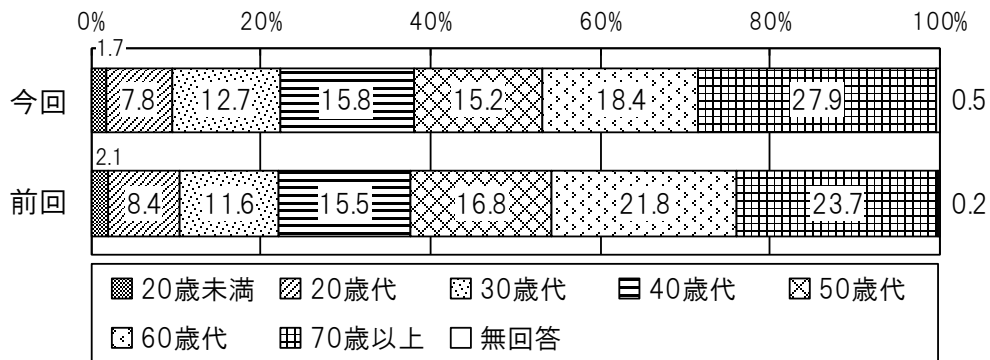
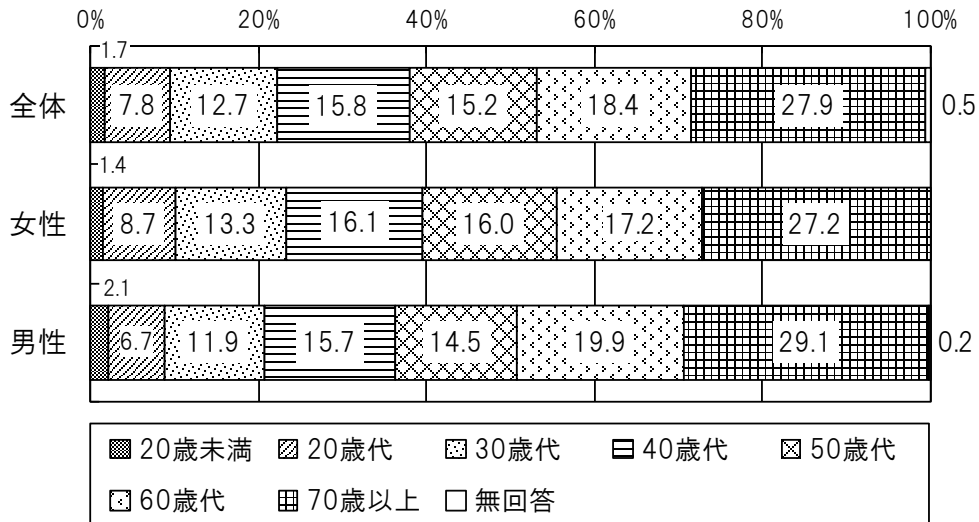
1-(2) 年齢

[n=1,167] 前回共通

問46 【すべての方におたずねします。】

あなたの年齢について、次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆年齢の割合は、「60歳代」が18.4%、「70歳以上」が27.9%と多くなっており、60歳以上の合計で46.3%となっている。
- ◆「60歳代」は前回調査から3.3ポイント、「50歳代」は1.6ポイント、それぞれ下がっている。一方、「30歳代」は1.1ポイント、「40歳代」は0.3ポイント、「70歳以上」は4.2ポイント、それぞれ上がっている。
- ◆「20歳代」は7.8%と低く、前回調査の8.4%、前々回調査の9.2%に比べると、わずかではあるが下がっている。



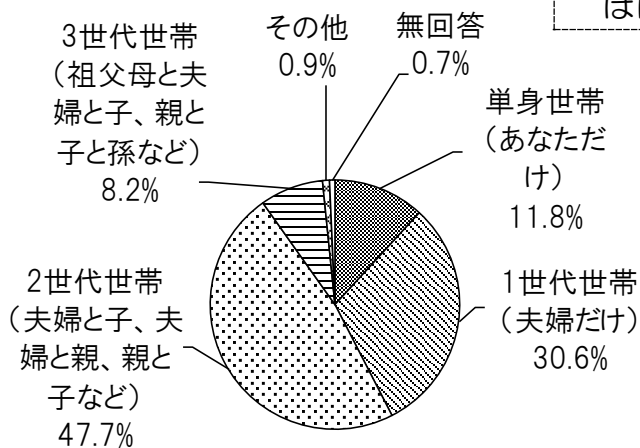
1-(3) 家族構成

[n=1,167] 前回共通

問47 【すべての方におたずねします。】

家族構成について、次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

◆家族構成は、「2世代世帯」が47.7%と約5割を占めており、前回調査でも47.1%とほぼ同じ傾向である。



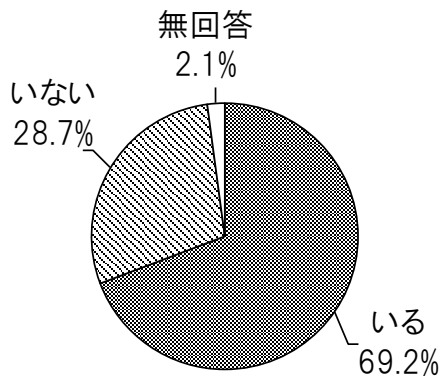
1-(4) 子どもの状況

[n=1,167] 前回共通

問48 【すべての方におたずねします。】

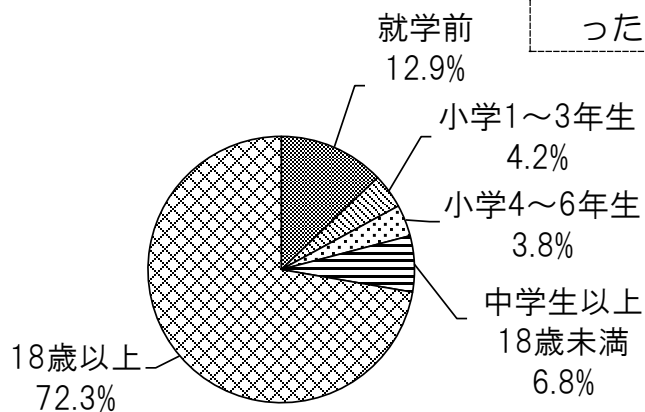
あなたには子どもがいらっしゃいますか。いる場合はどの年代の子どもがいらっしゃいますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。なお、子どもが2人以上いる場合は一番下の子どもの年代でお答えください。

◆子どもが「いる」方は69.2%であった。



<いる場合の年代> [n=808]

◆子どもがいる場合の一番下の子どもの年代としては、「18歳以上」が72.3%であった。



Ⅲ 調査の結果

1 男女平等について

1-(1) 男女の平等感について

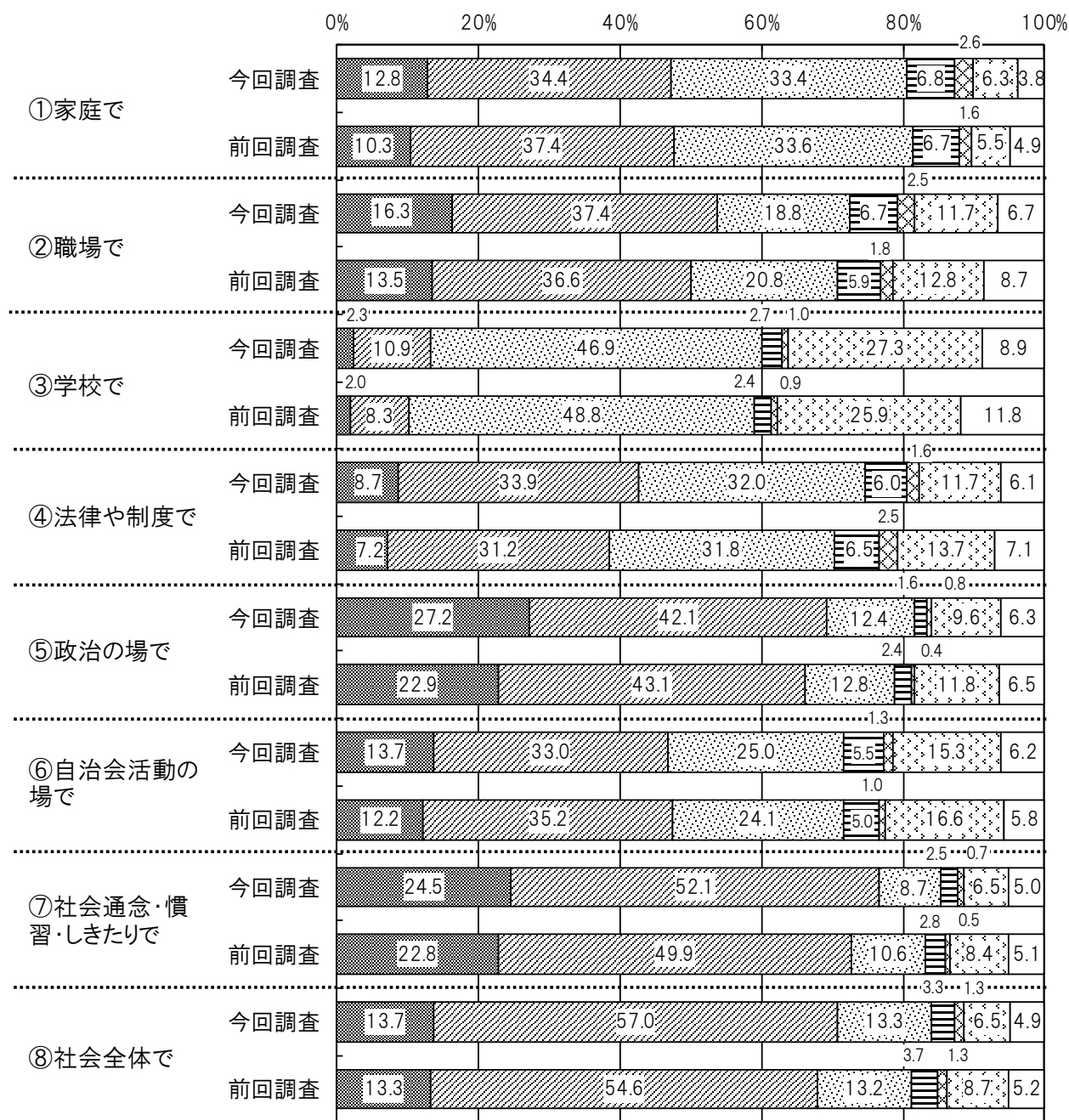
[n=1,167] 前回共通

問1 【すべての方におたずねします。】

あなたは次の各項目の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑧の各項目について、それぞれ1つずつ選んで○印をつけてください。

- ◆男女の平等感については、「⑧社会全体で」は『平等になっている』と答えた方が13.3%と、前回調査に比べ0.1ポイント増加しているものの、差はほとんどない。各分野においては、「④法律や制度で」「⑥自治会活動の場で」は増加しているものの、「②職場で」「③学校で」「⑦社会通念・慣習・しきたりで」などでは約2.0ポイントの低下であった。
- ◆『男性のほうが優遇されている』※1の割合は、前回調査に比べて「④法律や制度で」「⑦社会通念・慣習・しきたりで」「②職場で」「⑤政治の場で」「③学校で」「⑧社会全体で」で増加している。また、「②職場で」「⑤政治の場で」「⑦社会通念・慣習・しきたりで」「⑧社会全体で」では、依然として50%を超えており、特に、「⑦社会通念・慣習・しきたりで」「⑧社会全体で」では70%を超えている。

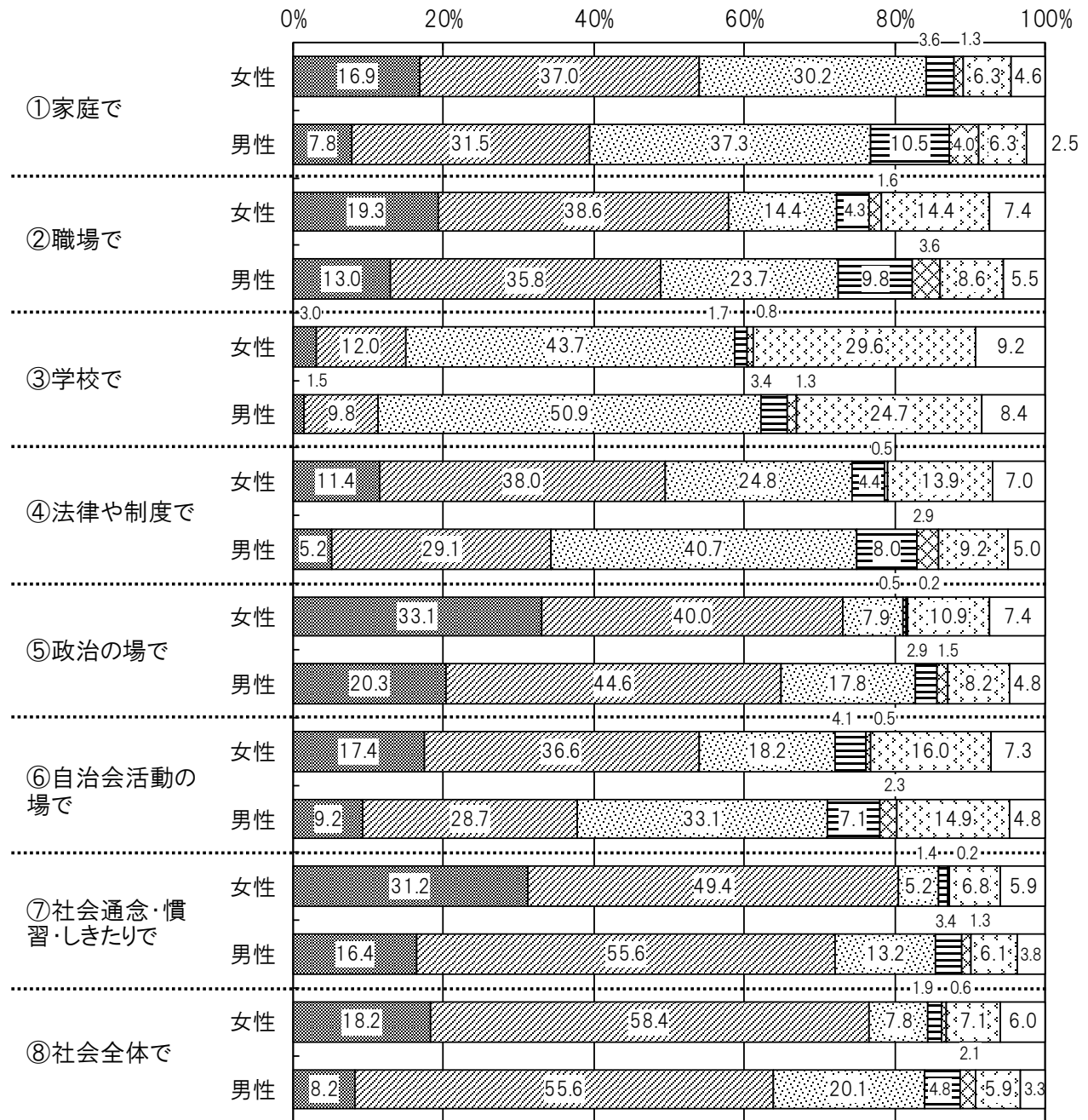
※1「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の計



■ 男性のほうが優遇されている	▨ どちらかといえば男性のほうが優遇されている
□ 平等になっている	▩ どちらかといえば女性のほうが優遇されている
▤ 女性のほうが優遇されている	□ わからない
□ 無回答	

- ◆性別で『男性のほうが優遇されている』の割合をみると、男女差が大きいのは「⑥自治会活動の場で」の16.1ポイント差、「④法律や制度で」の15.1ポイント差、「①家庭で」の14.6ポイント差、「⑧社会全体で」の12.8ポイント差などとなっている。
- ◆「平等になっている」の割合は、いずれの分野でも男性が女性を上回っているが、男女差が大きいのは「④法律や制度で」の15.9ポイント差、「⑥自治会活動の場で」の14.9ポイント差、「⑧社会全体で」の12.3ポイント差などとなっている。

性別

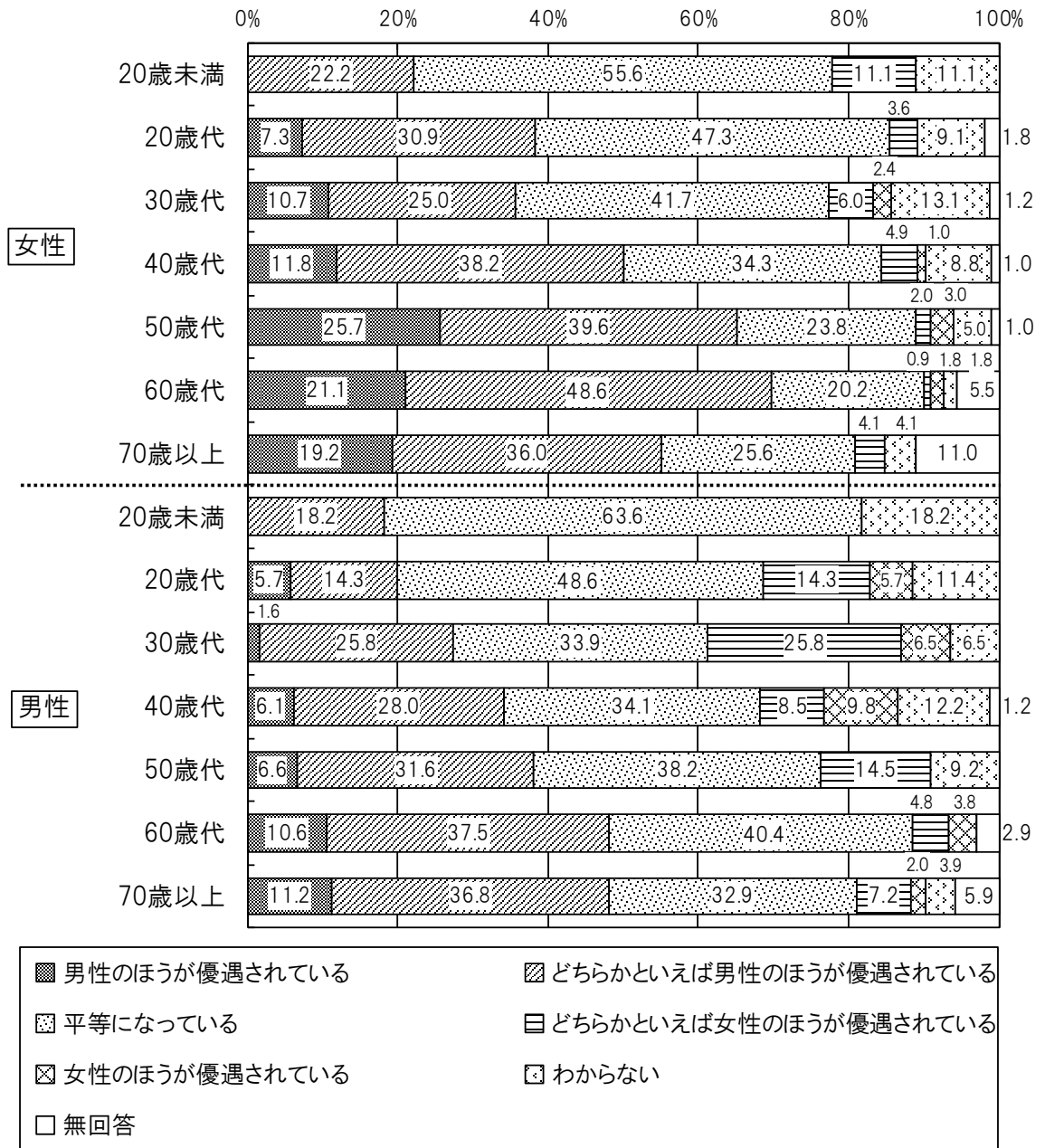


- 男性のほうが優遇されている
- ▨ 平等になっている
- ▩ 女性のほうが優遇されている
- 無回答
- ▤ どちらかといえば男性のほうが優遇されている
- ▥ どちらかといえば女性のほうが優遇されている
- ▧ わからない

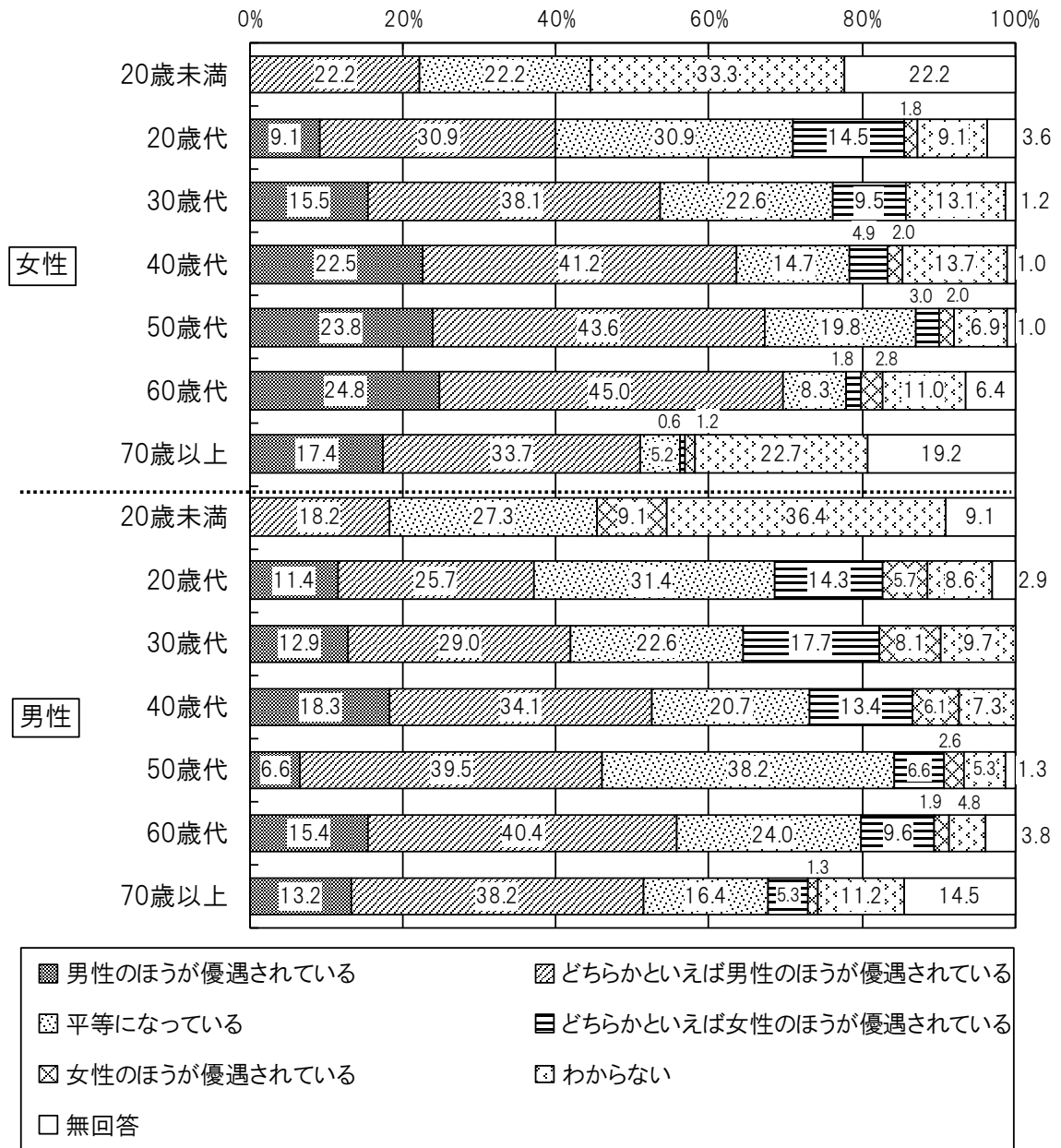
- ◆性・年齢別に、「①家庭で」をみると、男女とも年代が上がるにつれ『男性の方が優遇されている』の割合が増加する傾向にあり、女性の40歳代以上では50%以上を占める。特に60歳代女性では約70%を占めている。「平等になっている」の割合は、30～40歳代を除き、男性が女性を上回っている。
- ◆「②職場で」をみると、男性は年代が上がるにつれ『男性の方が優遇されている』の割合が増加する傾向にある一方、20～30歳代では約4割にとどまっている。女性は30～60歳代で『男性の方が優遇されている』の割合が半数以上を占め、他の年代でも70歳以上を除き男性を上回っている。特に、50歳代では男性を21.3ポイント上回っている。「平等になっている」の割合は、30歳代を除く年代で男性が女性を上回っている。
- ◆「③学校で」をみると、男性は30歳代、70歳以上を除く年代で「平等になっている」の割合が5割以上を占め、特に、20歳代以下では6割を占める。また、女性の20歳代以下でも「平等になっている」の割合は6割以上を占める。一方、『男性の方が優遇されている』の割合は女性の50～60歳代で2割を超え、他の年代に比べ多くなっている。
- ◆「④法律や制度で」をみると、男性は20歳代、40歳代を除き、「平等になっている」の割合が『男性の方が優遇されている』の割合より多い。一方、女性は20歳未満、40歳～60歳代では『男性の方が優遇されている』の割合が過半数を占め、20歳未満と50歳代では6割を超えている。
- ◆「⑤政治の場で」をみると、女性の『男性の方が優遇されている』の割合は、20歳代を除くすべての年代で男性を上回っている。特に、40～50歳代では『男性の方が優遇されている』と感じる女性が多く、8割を超えている。「平等になっている」の割合はすべての年代で男性が女性を上回っている。
- ◆「⑥自治会活動の場で」をみると、女性の『男性の方が優遇されている』の割合は20歳代を除くすべての年代で5割以上を占めており、男性を上回っている。「平等になっている」の割合はすべての年代で男性が女性を上回っている。
- ◆「⑦社会通念・慣習・しきたりで」をみると、女性は20歳代と70歳以上を除くすべての年代で『男性の方が優遇されている』の割合が8割前後を占めている。一方、「平等になっている」の割合は20歳代を除くすべての年代で男性が女性を上回っている。
- ◆「⑧社会全体で」をみると、『男性の方が優遇されている』の割合はすべての年代で女性が男性を上回っている。特に、20歳未満では52.5ポイント差、30歳代では22.9ポイント差、50歳代では27.0ポイント差と、男女間の差が大きい。

性・年齢別

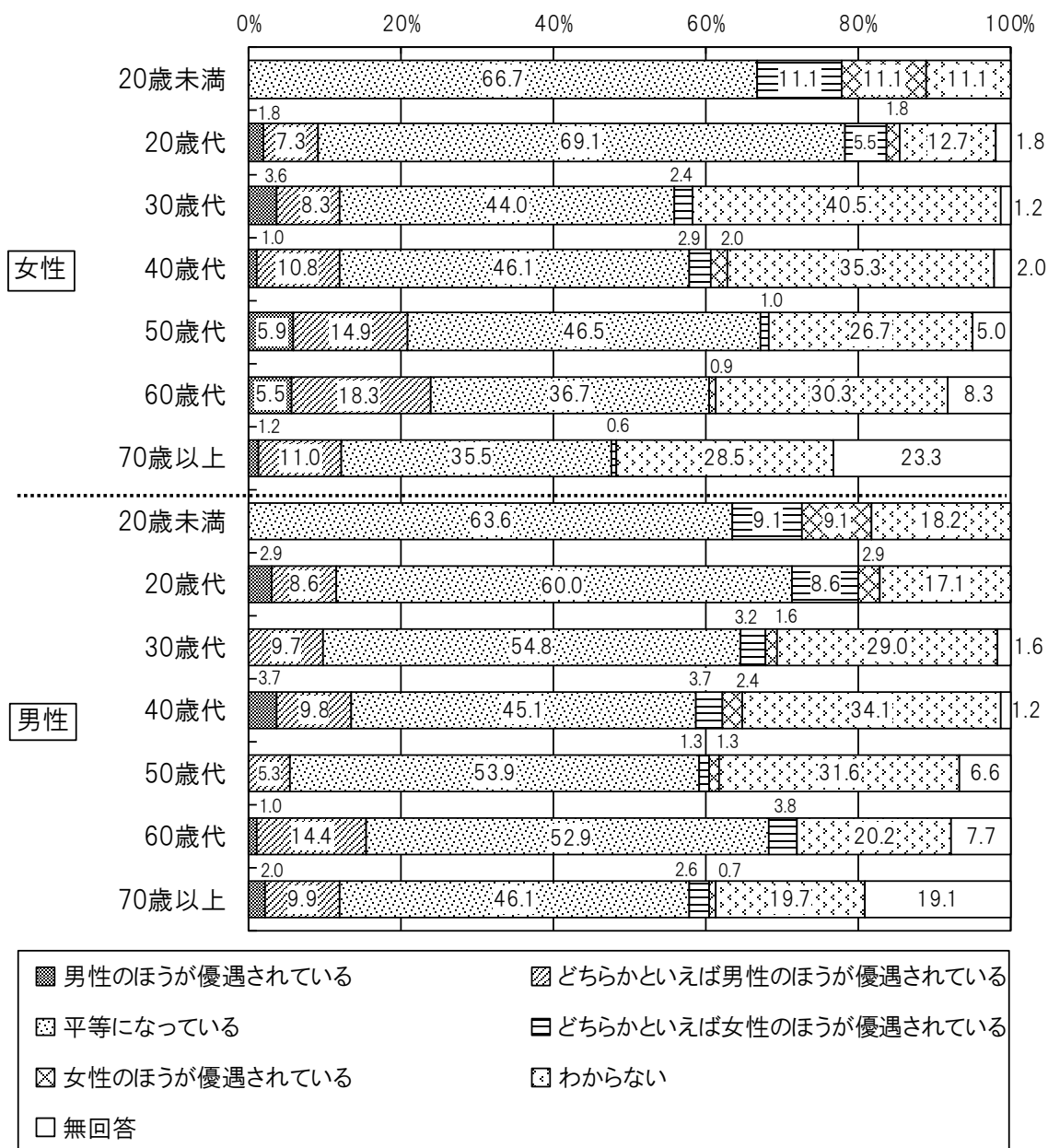
①家庭で



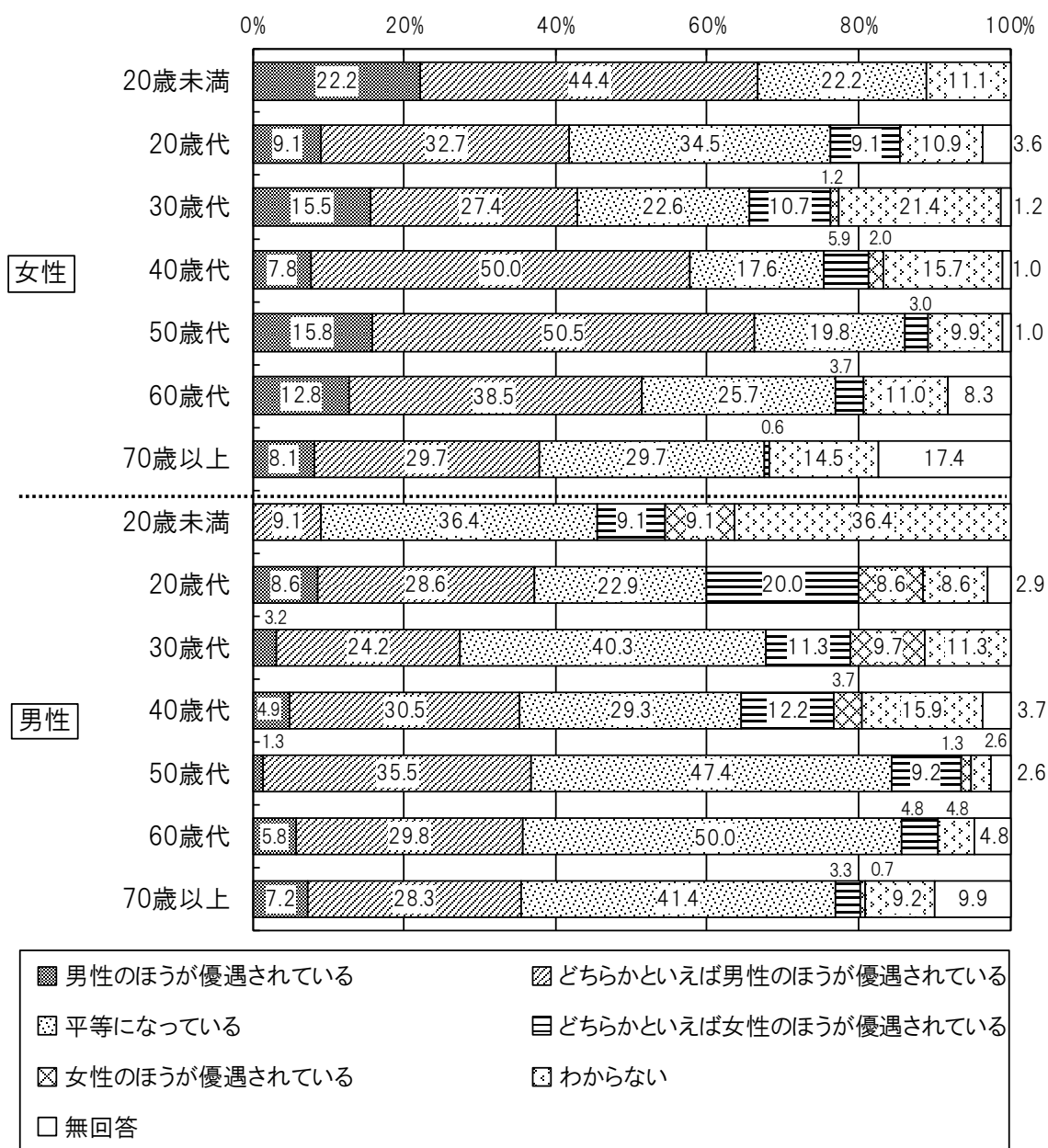
②職場で



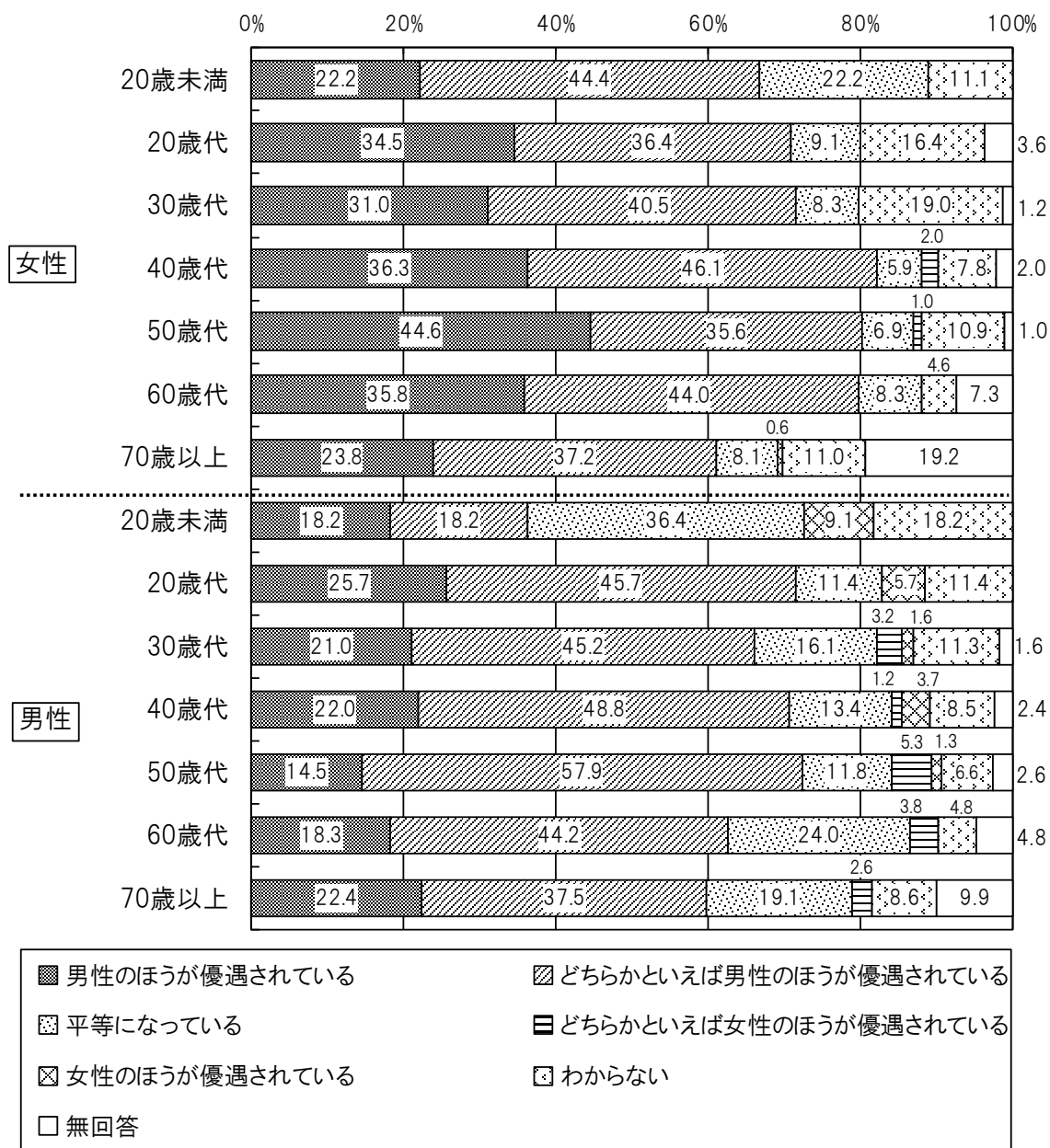
③学校で



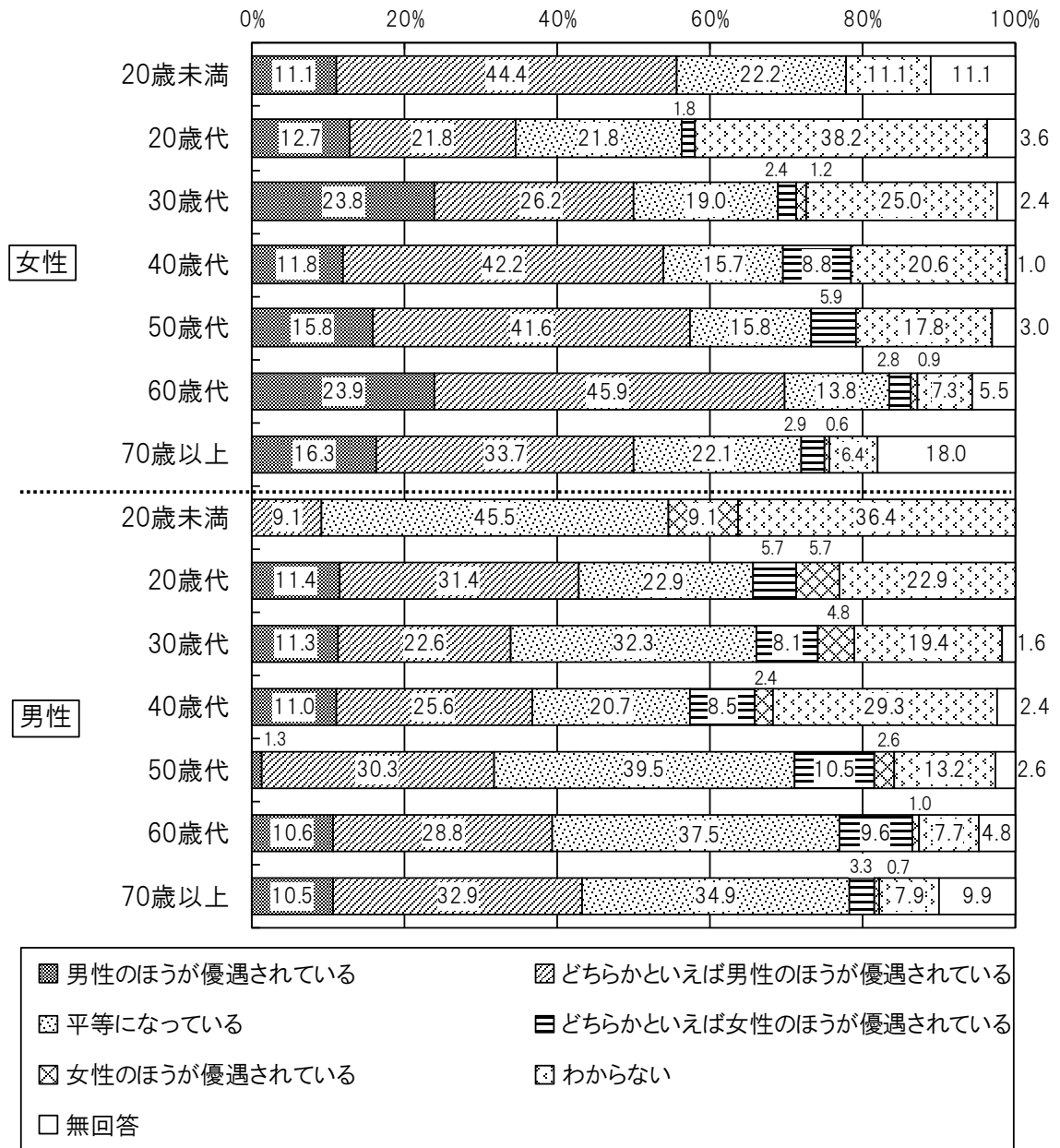
④法律や制度で



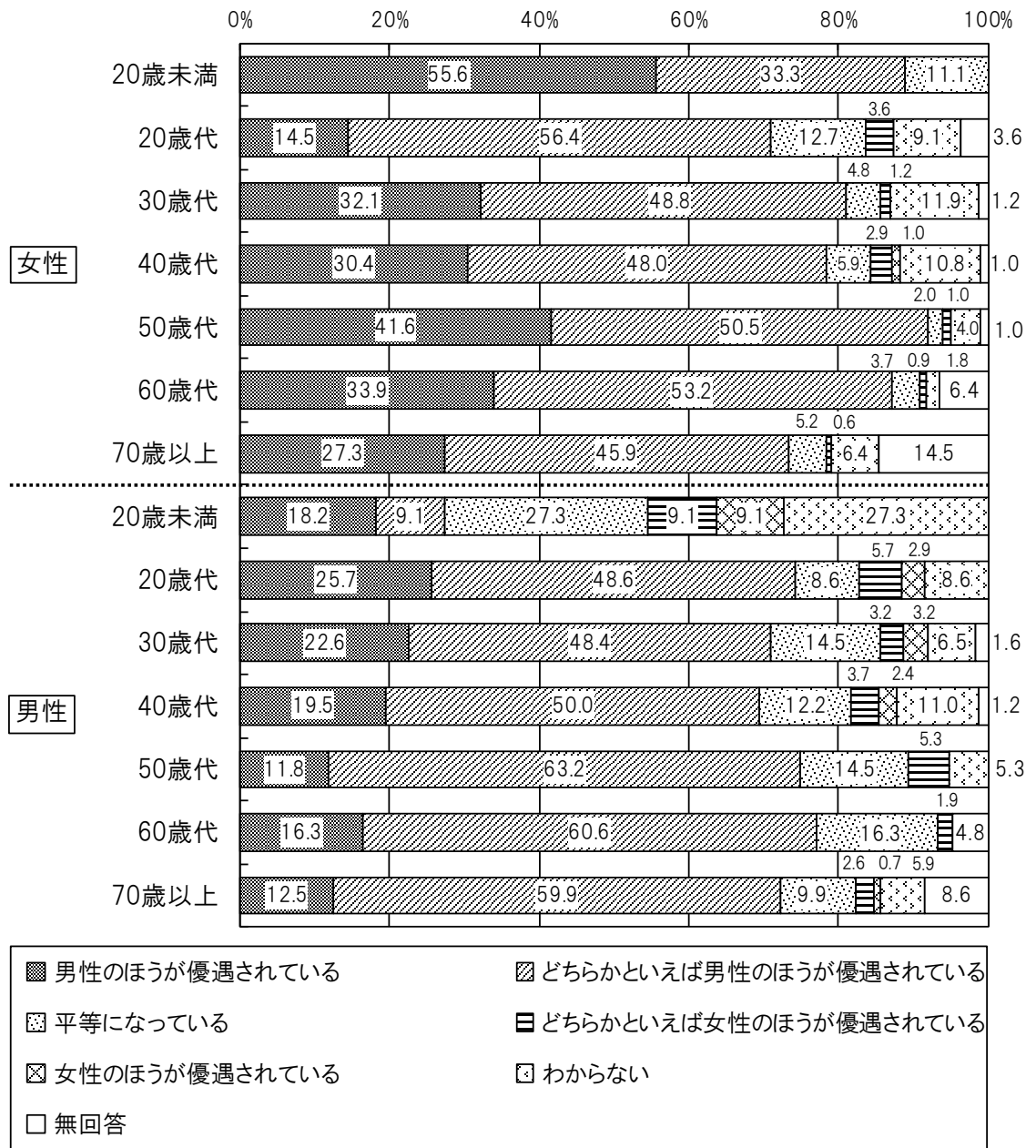
⑤政治の場で



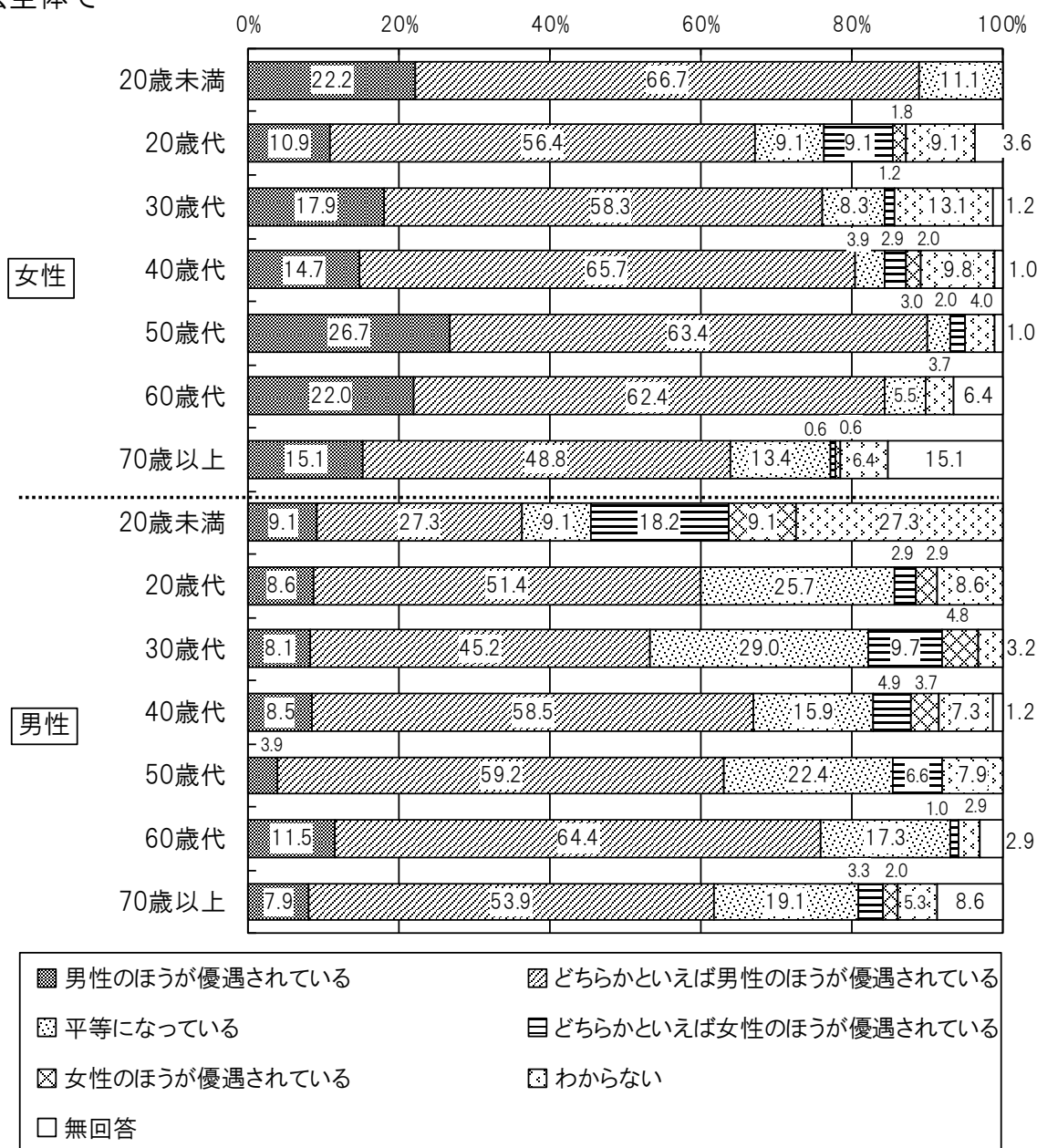
⑥自治会活動の場で



⑦社会通念・慣習・しきたり



⑧社会全体で



1-(2) 男女が平等になるために重要なこと

〔n=1,167〕 前回共通

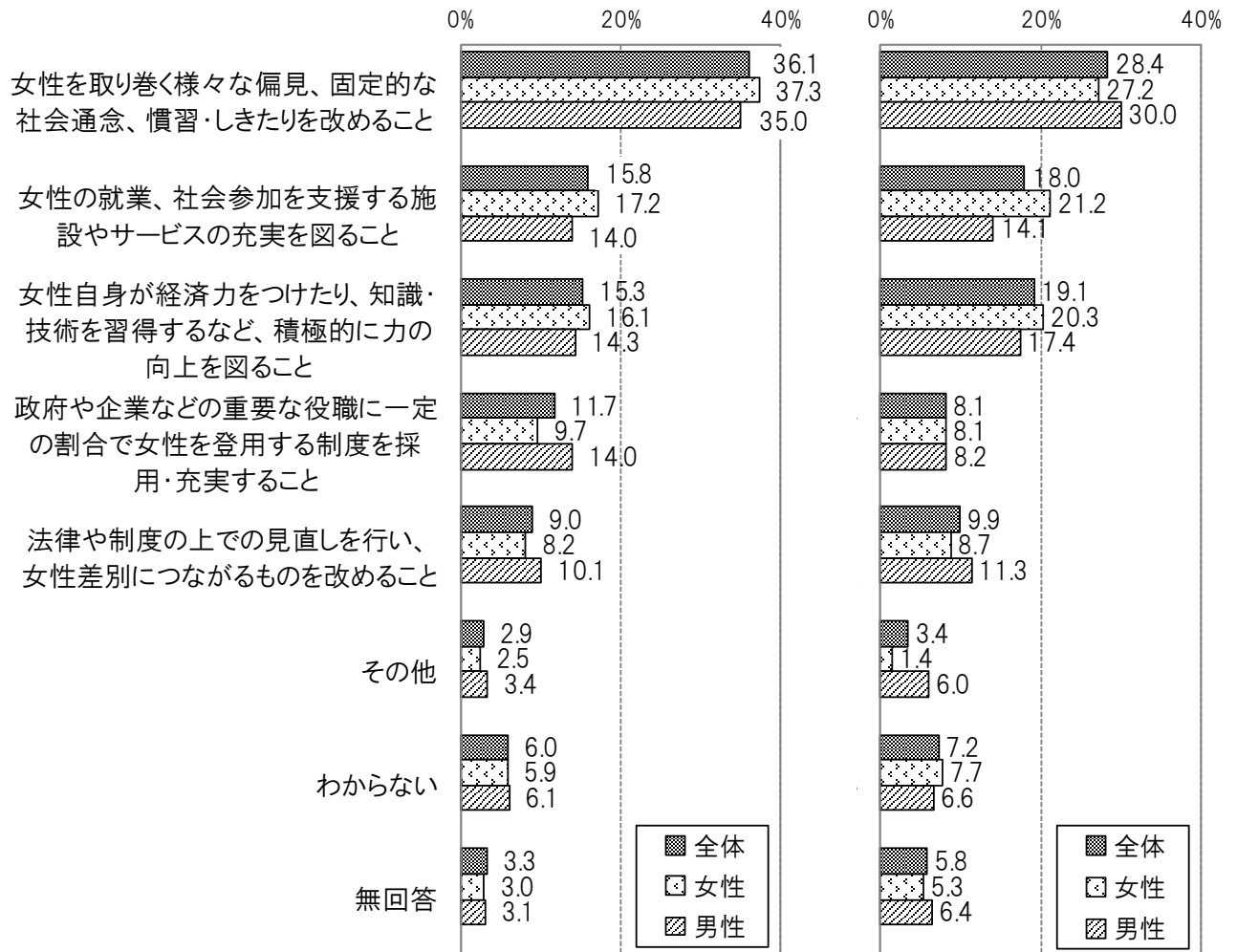
問2 【すべての方におたずねします。】

今後、あなたが、社会のあらゆる分野でもっと男女が平等になるために最も重要だと思うことは何でしょうか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆社会のあらゆる分野で男女が平等になるために重要なことは、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が36.1%と最も多く、次いで、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(15.8%)、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」(15.3%)と続いている。
- ◆前回調査と比べると、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」の数値が減少し、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」、「政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること」の数値が増加している。
- ◆性別にみると、男女とも「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が最も多く、次点は女性が「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」、男性が「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること」となっている。

【今回調査】

【前回調査】



2 結婚、家庭、子育てについて

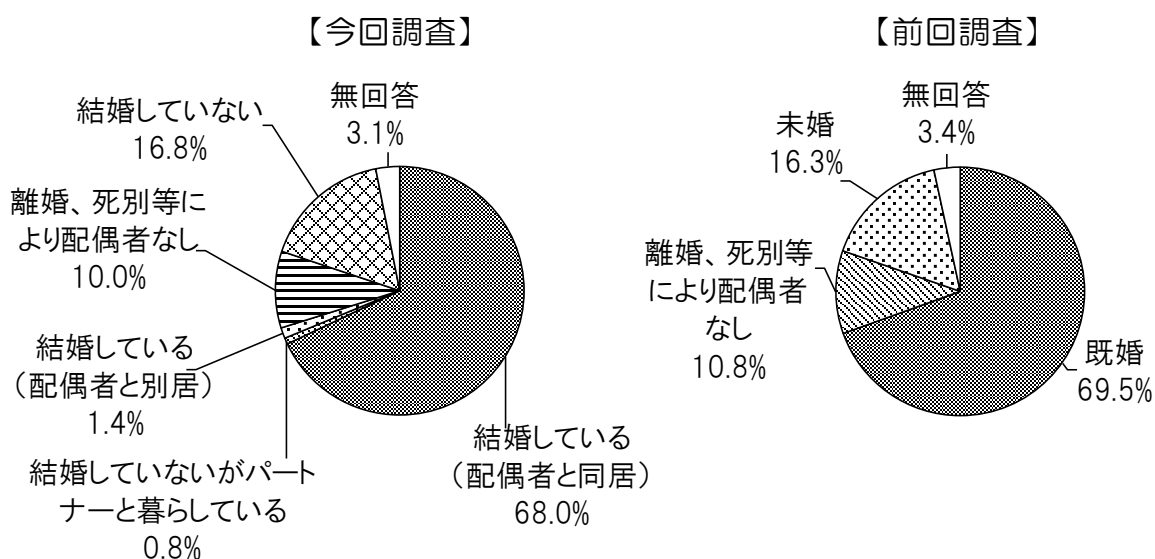
2-(1) 婚姻の状況

〔n=1,167〕 前回共通(一部変更)

問3 【すべての方におたずねします。】

あなたは結婚していますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

◆婚姻状況は、前回同様「結婚している」が約7割となっている。



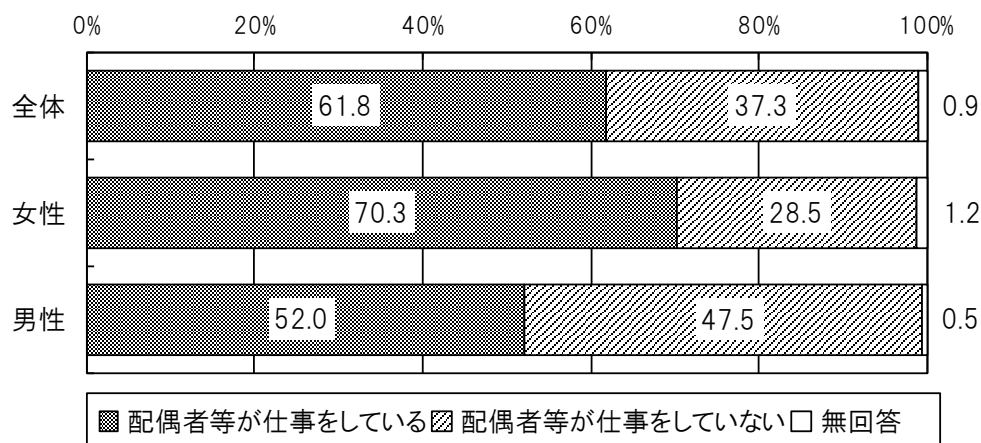
2-(2) 配偶者又はパートナーの就労状況

〔n=802〕

問4 【問3で「1」、「2」と回答された方におたずねします。】

あなたの配偶者又はパートナーは収入を伴う仕事をされていますか。次の中から、あてはまるものを選んで○印をつけてください。

- ◆「配偶者等が仕事をしている」と回答した方は約6割となっている。
- ◆性別にみると、「配偶者等が仕事をしている」と回答した方は、女性では約7割、男性では約5割となっている。



2-(3) 配偶者又はパートナーの就労形態

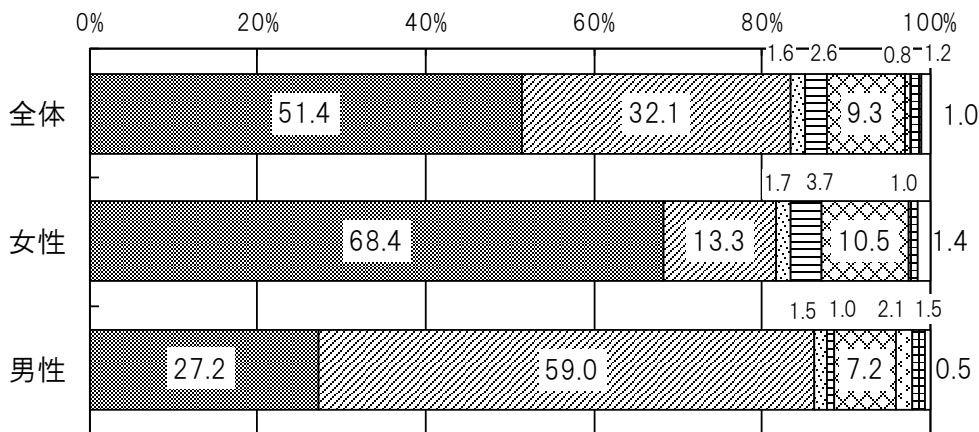
[n=496]

問5 【問4で「1.している」と回答された方におたずねします。】

あなたの配偶者又はパートナーの仕事について、次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

◆配偶者又はパートナーの仕事については、「正社員・職員」が51.4%と最も多く、次いで、「非正社員・非正職員」(32.1%)、「自営業」(9.3%)と続いている。

◆性別にみると、女性では「正社員・職員」が約7割、男性では「非正社員・非正職員」が約6割となっている。



- 配偶者又はパートナーが正社員・職員
- ▨ 配偶者又はパートナーが非正社員・非正職員(パート、アルバイト、派遣、契約等)
- ▩ 配偶者又はパートナーが会社・団体の役員(経営者以外)
- ▤ 配偶者又はパートナーが起業家・経営者(法人)
- ▥ 配偶者又はパートナーが自営業(家族従事者含む)
- ▧ 配偶者又はパートナーが家庭内職
- ▨ 配偶者又はパートナーがその他
- 無回答

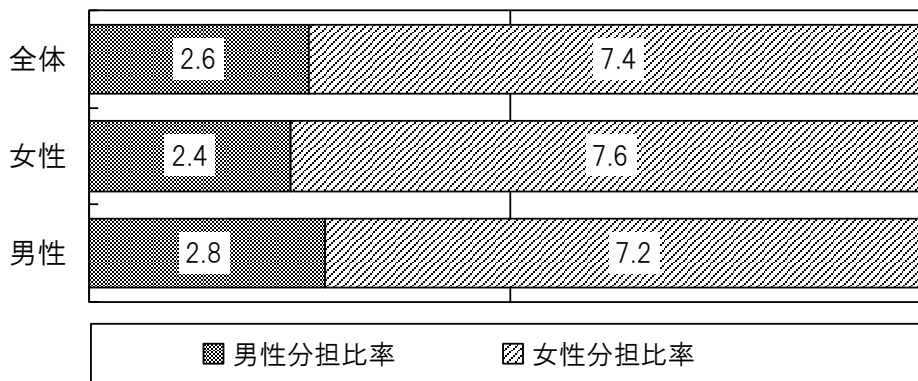
2-(4) 家事の分担比率

[n=470]

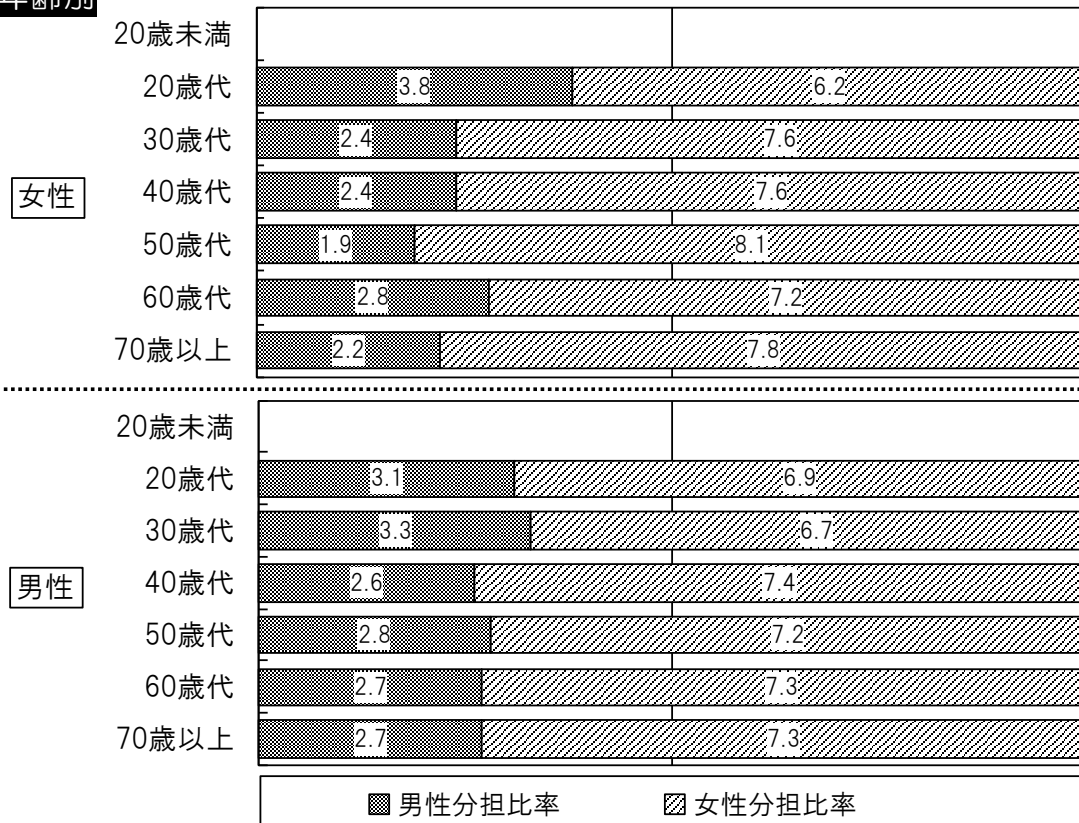
問6 【問4で「1.している」と回答された方におたずねします。】

あなたと配偶者又はパートナーとの家事(育児や介護を含む)の分担比率はどの程度ですか。下記表にご記入ください。

- ◆家事の分担比率は、男性2.6に対し、女性7.4となっている。
- ◆性別にみると、女性では、男性2.4に対し女性7.6、男性では、男性2.8に対し女性7.2となっており、女性のほうが家事の分担比率は高いと感じている。
- ◆性・年齢別にみると、20歳代と60歳代では、男性の家事分担比率が男性より女性のほうが高くなっている。



性・年齢別



2-(5) 結婚や家庭に対する考え方

[n=1,167] 前回共通

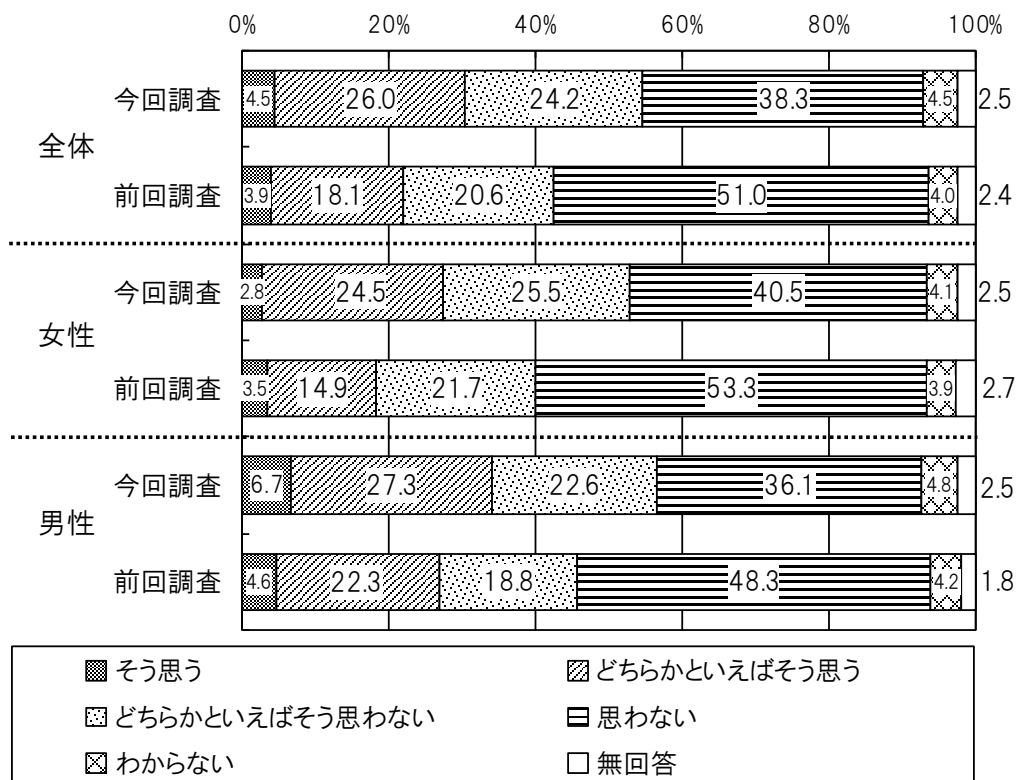
問7 【すべての方におたずねします。】

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

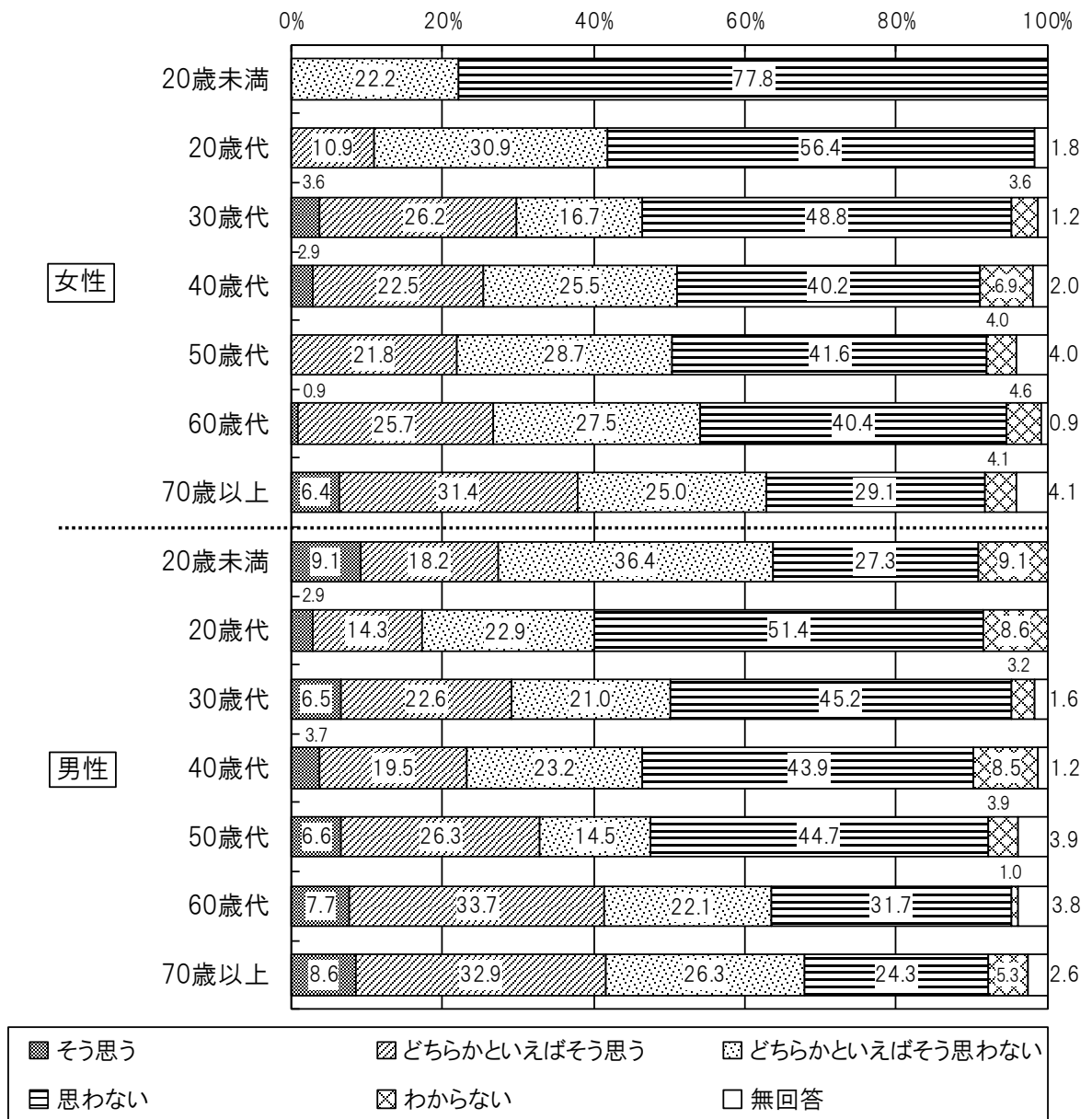
- ◆「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてたずねたところ、『そう思う』※2の割合が30.5%と前回調査から8.5ポイント増加しており、男女の固定的な役割分担意識はなおみられる。
- ◆性別にみると、全体結果と同様に『そう思う』が女性では8.9ポイント、男性では7.1ポイント、それぞれ増加している。
- ◆性・年齢別にみると、女性の若い世代ほど『そう思わない』※3傾向にあり、20歳未満～20歳代では8割以上を占める。また、30～60歳代においても6割以上が『そう思わない』と答えている。それに対し男性は、20歳代を除く年代の2割以上が『そう思う』傾向にあり、50歳代で3割以上、60～70歳代以上で4割以上を占めている。

※2「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の計

※3「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の計



性・年齢別



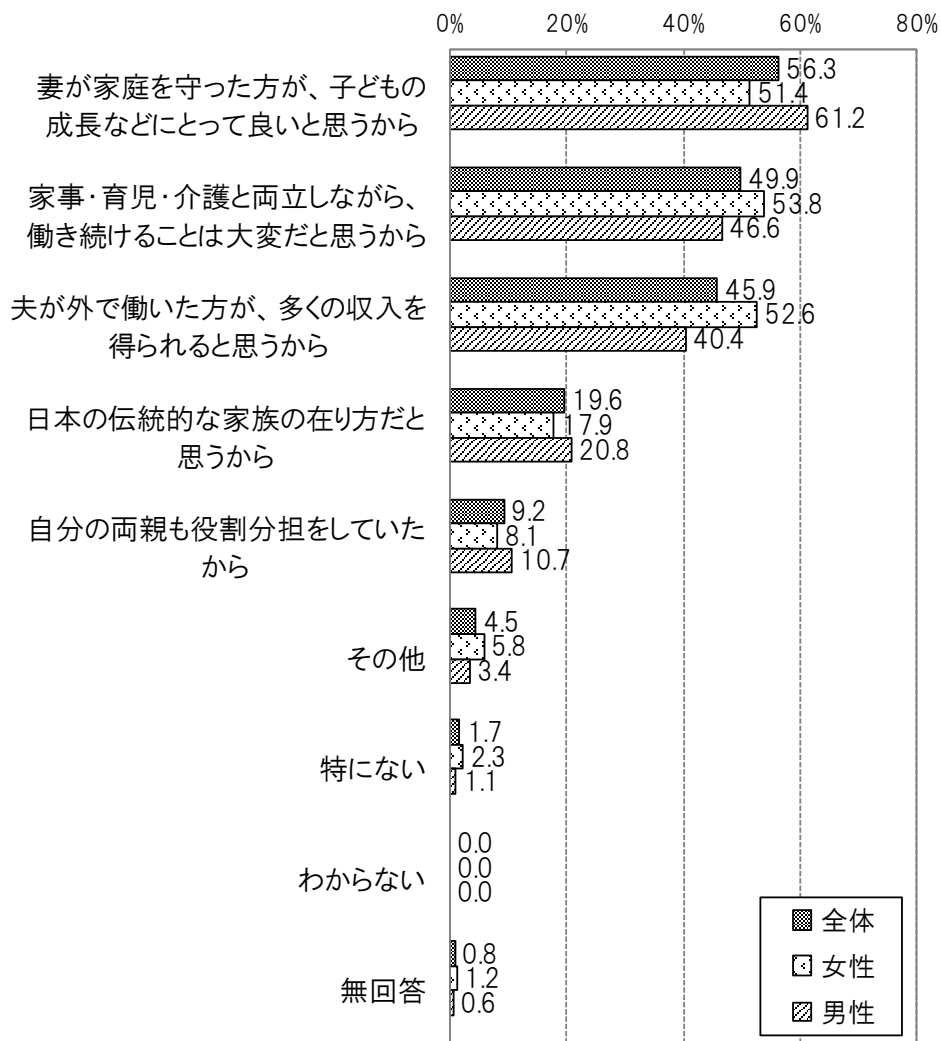
2-(6) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思う理由

〔n=357〕

問8 【問7で「1.そう思う」、「2.どちらかといえばそう思う」と回答された方におたずねします。】

そう考えるのはどのような理由ですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について『そう思う』理由は、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が56.3%と最も多く、次いで、「家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは大変だと思うから」(49.9%)、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(45.9%)と続いている。
- ◆性別にみると、女性では「家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは大変だと思うから」(53.8%)が、男性では「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」(61.2%)がそれぞれ最も多い。また、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」は女性が男性を12.2ポイント上回る一方、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」は男性が女性を9.8ポイント上回っている。



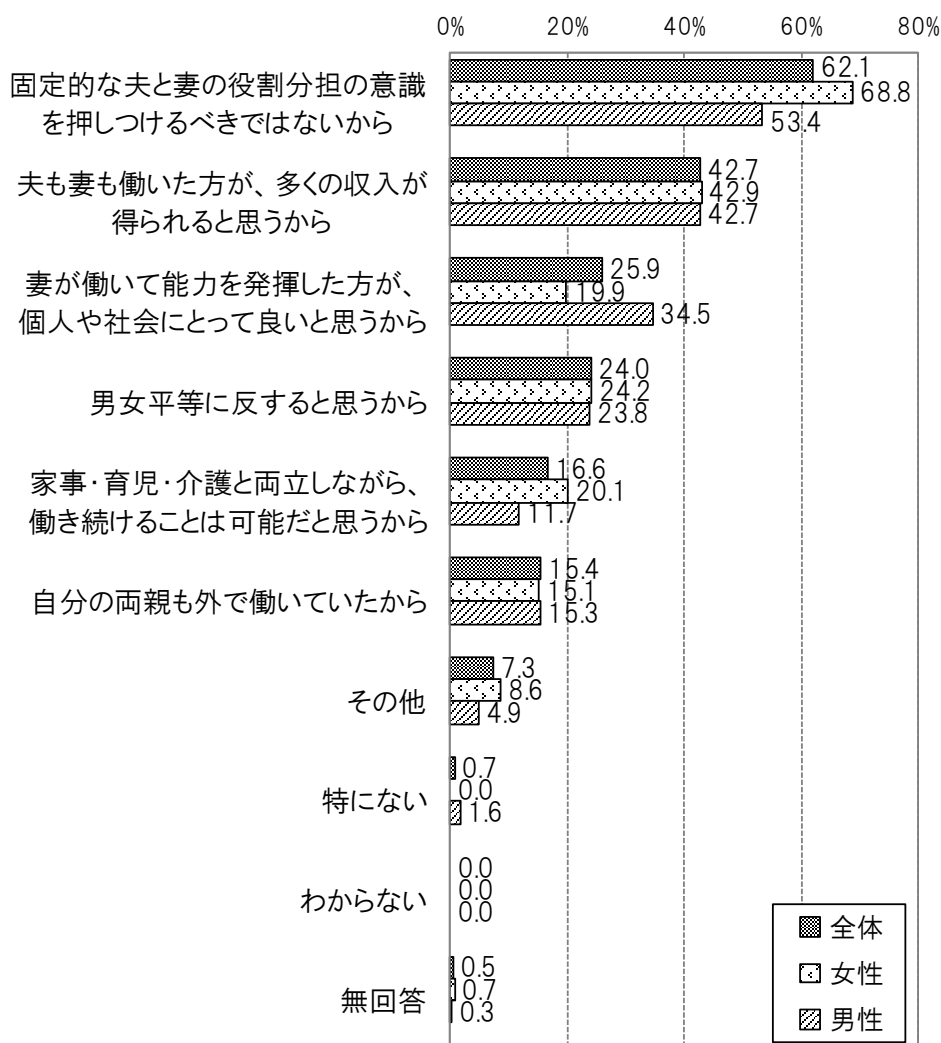
2-(7) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思わない理由

〔n=729〕

問9 【問7で「4.そう思わない」、「3.どちらかといえばそう思わない」と回答された方におたずねします。】

そう考えるのはどのような理由ですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について『そう思わない』理由は、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が62.1%と最も多く、次いで、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」(42.7%)、「妻が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」(25.9%)と続いている。
- ◆性別にみると、女性では「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が15.4ポイント、「家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは可能だと思うから」が8.4ポイント、男性を上回っている。一方、男性では「妻が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」が14.6ポイント女性を上回っている。



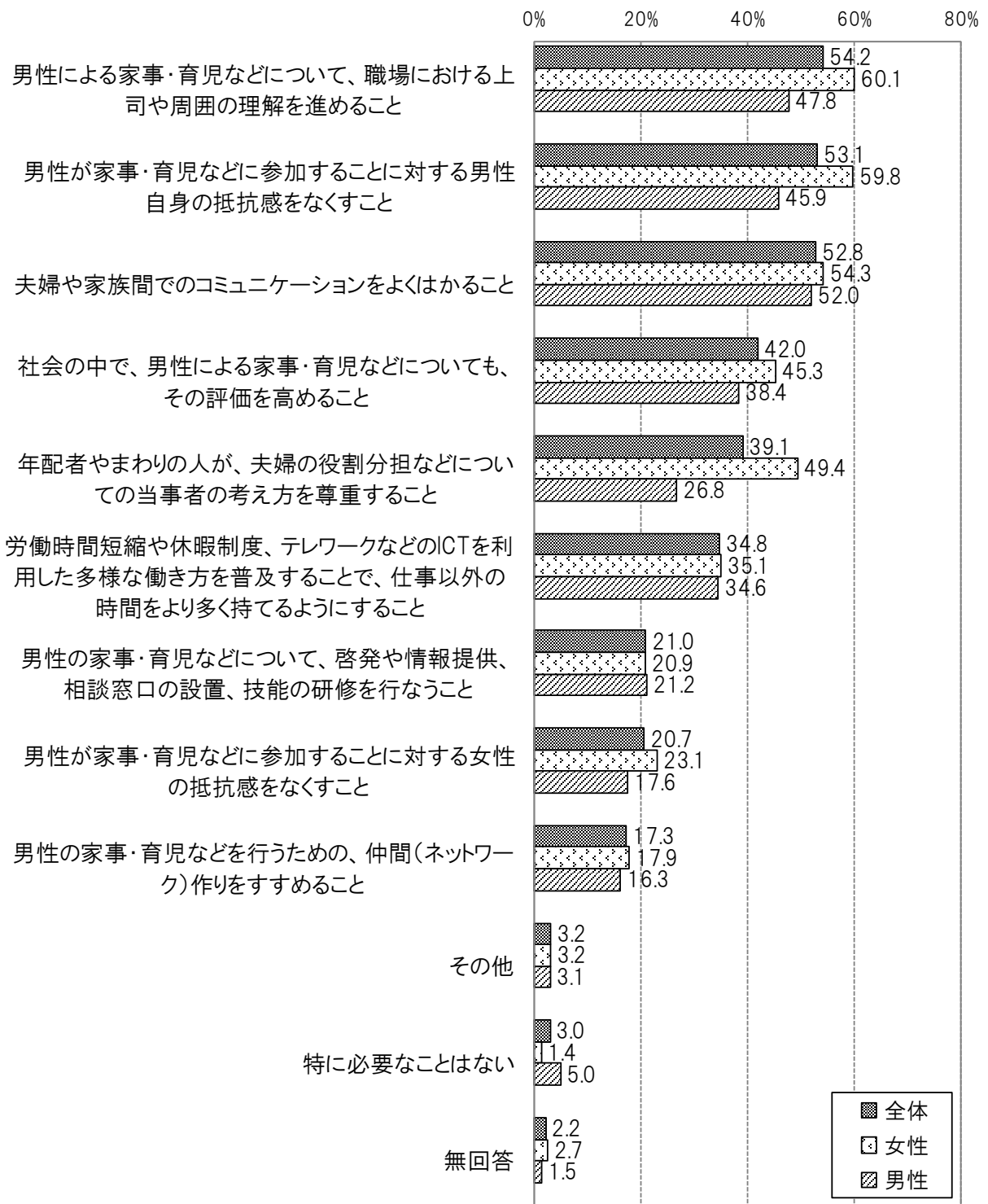
2-(8) 男性が家事育児に参加するために必要なこと

〔n=1,167〕

問10 【すべての方におたずねします。】

今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについては、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」(54.2%)、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(53.1%)、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(52.8%)が僅差で多くなっている。
- ◆性別にみると、女性では「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」が49.4%と多く、男性を22.6ポイント上回っている。また、男性が女性を上回っていた項目として、「男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行なうこと」、「特に必要なことはない」が挙げられる。



3 職業生活について

3-(1) 現在の就業形態

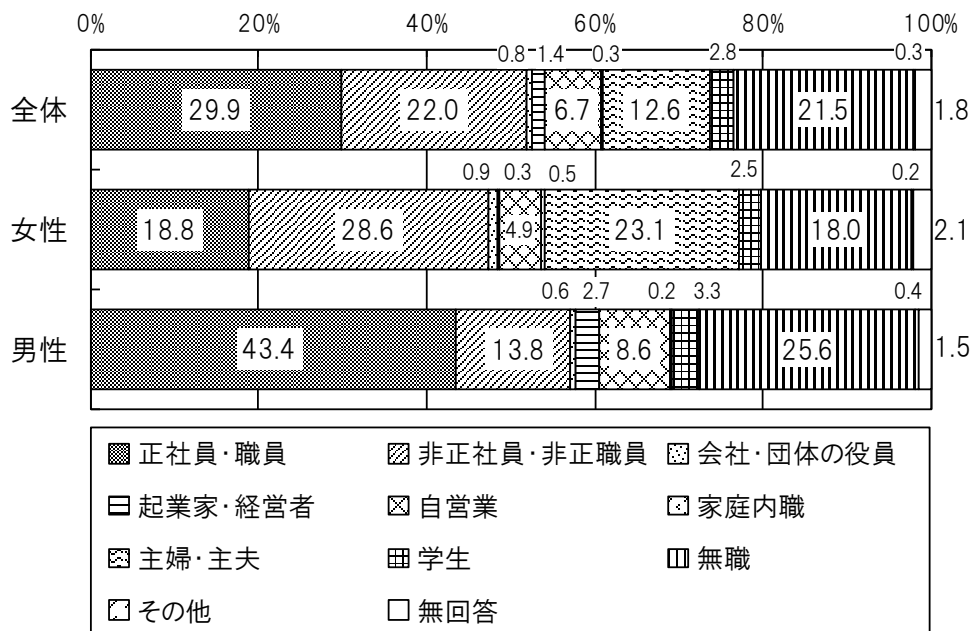
〔n=1,167〕

問11 【すべての方におたずねします。】

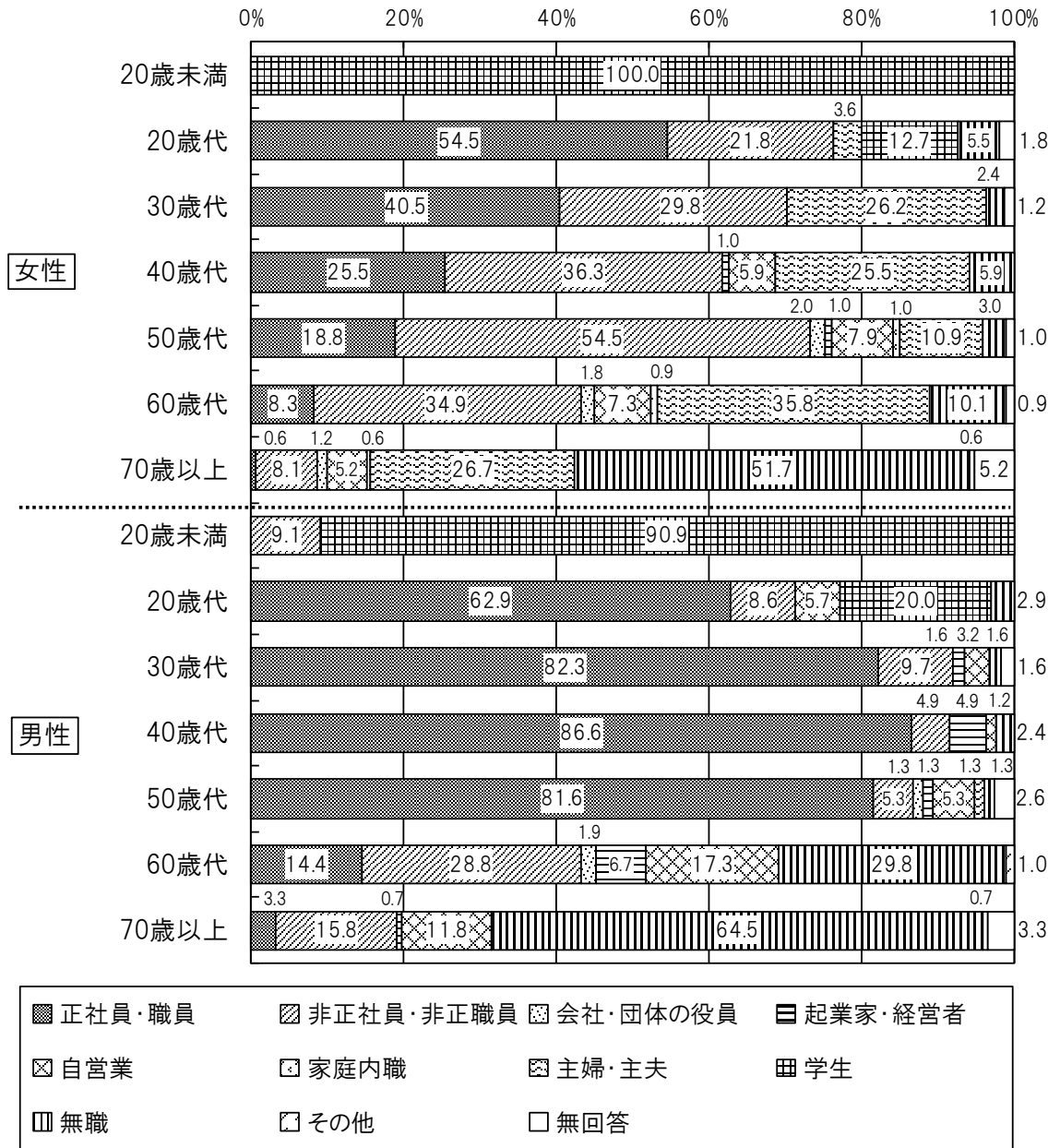
あなたは現在どのような仕事についていますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆「正社員・職員」が29.9%と最も多く、次いで、「非正社員・非正職員」(22.0%)、「無職」(21.5%)と続いている。
- ◆性別にみると、女性では「非正社員・非正職員」が、男性では「正社員・職員」が、それぞれ最も多い。
- ◆『有業』※4割合は全体で61.1%、男性で69.1%、女性で54.0%となっている。
- ◆性・年齢別にみると、女性は年代が上がるほど「正社員・職員」の割合が減少傾向になる。それに対し男性は、30～50歳代まで大きな変動はない。
- ◆性・子どもの年代別にみると、子どもが「就学前」では、女性の『有業』割合は53.8%であるのに対し、男性の『有業』割合は100.0%となっており、男女間での差は大きく開いている。

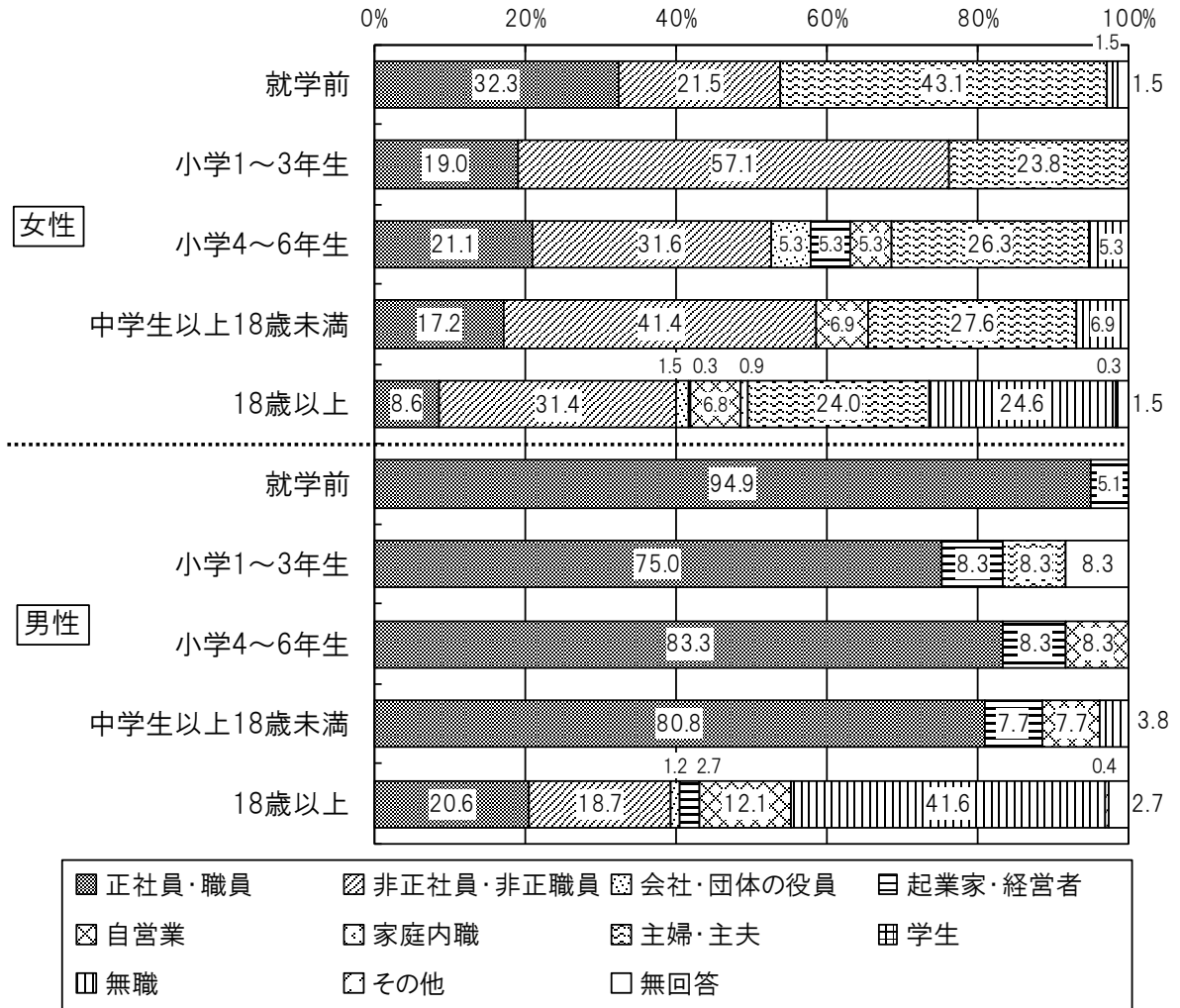
※4有業：「正社員・職員」「非正社員・非正職員」「会社・団体の役員」「起業家・経営者」「自営業」「家庭内職」の計



性・年齢別



性・子どもの年代(一番下の子ども)別



3-(2) 管理職への昇格希望

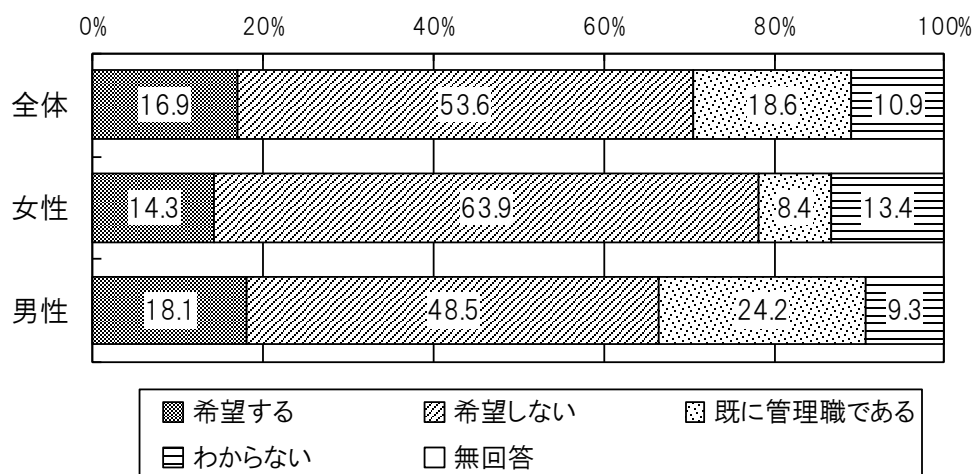
[n=349]

問12 【問11で「1.正社員・職員」と回答された方におたずねします。】

あなたは現在、管理職(課長相当職以上)への昇格を希望していますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

◆管理職への昇格を希望しているかどうかについては、「希望する」は16.9%、「希望しない」は53.6%となっている。また、「既に管理職である」は18.6%となっている。

◆性別にみると、男性では「希望する」が18.1%と、女性の14.3%を3.8ポイント上回っている。「既に管理職である」も男性が女性を15.8ポイント上回っている。一方、「希望しない」は女性では63.9%と、男性の48.5%を15.4ポイント上回っている。



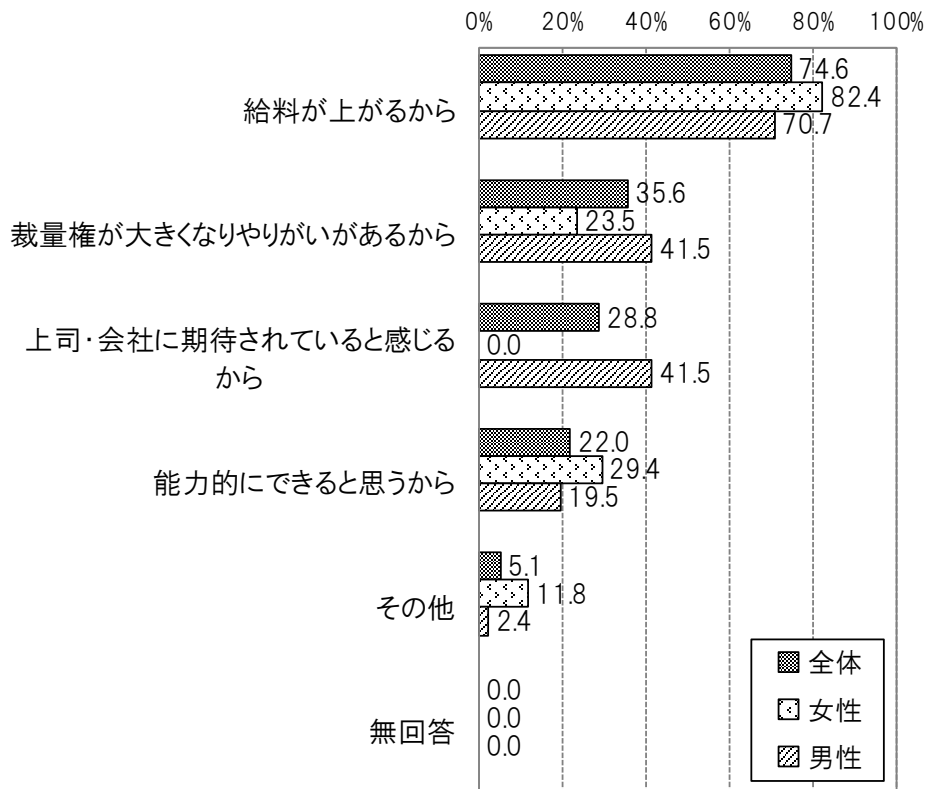
3-(3) 管理職への昇格を希望する理由

[n=59]

問13 【問12で「1.希望する」と回答された方におたずねします。】

その理由をお答えください。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆管理職への昇格を希望する理由については、「給料が上がるから」が74.6%と突出して多く、次いで、「裁量権が大きくなりやりがいがあるから」(35.6%)、「上司・会社に期待されていると感じるから」(28.8%)と続いている。
- ◆性別にみると、「上司・会社に期待されていると感じるから」では男性が女性を41.5ポイント、「裁量権が大きくなりやりがいがあるから」では18.0ポイント上回っている。

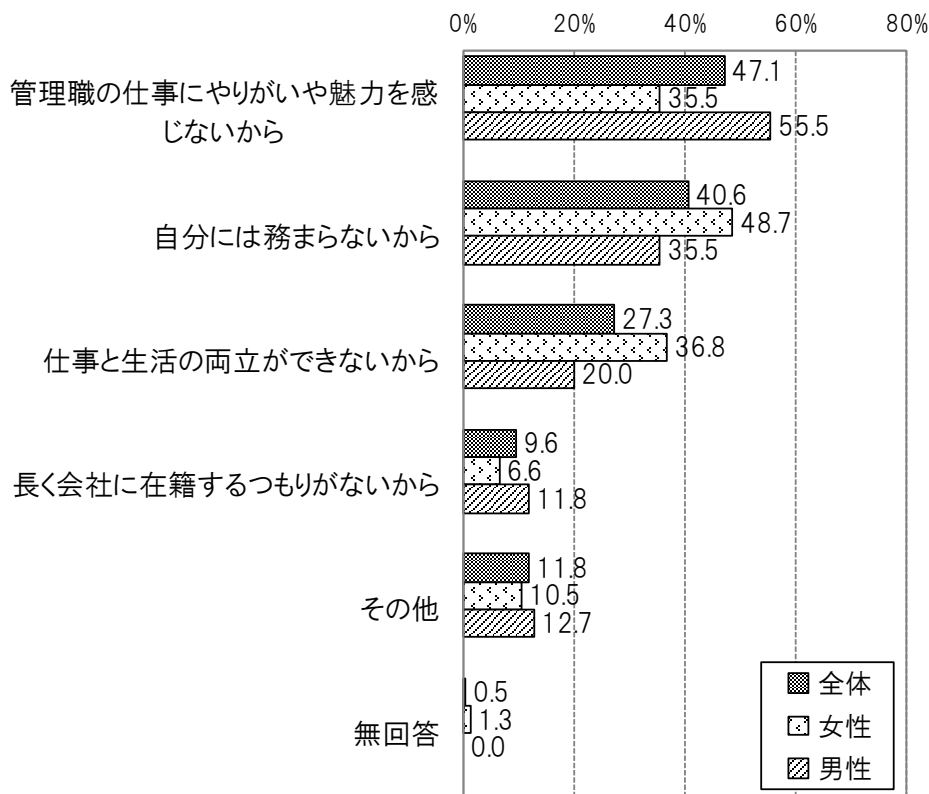


3-(4) 管理職への昇格を希望しない理由

[n=187]

問14 【問12で「2.希望しない」と回答された方におたずねします。】
その理由をお答えください。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆管理職への昇格を希望しない理由については、「管理職の仕事にやりがいや魅力を感じないから」が47.1%と最も多く、次いで、「自分には務まらないから」(40.6%)、「仕事と生活の両立ができないから」(27.3%)と続いている。
- ◆性別にみると、女性は「自分には務まらないから」が一番多く、次いで「仕事と生活の両立ができないから」となっている。それに対し男性は「管理職の仕事にやりがいや魅力を感じないから」が一番多く、次いで「自分には務まらないから」となっている。



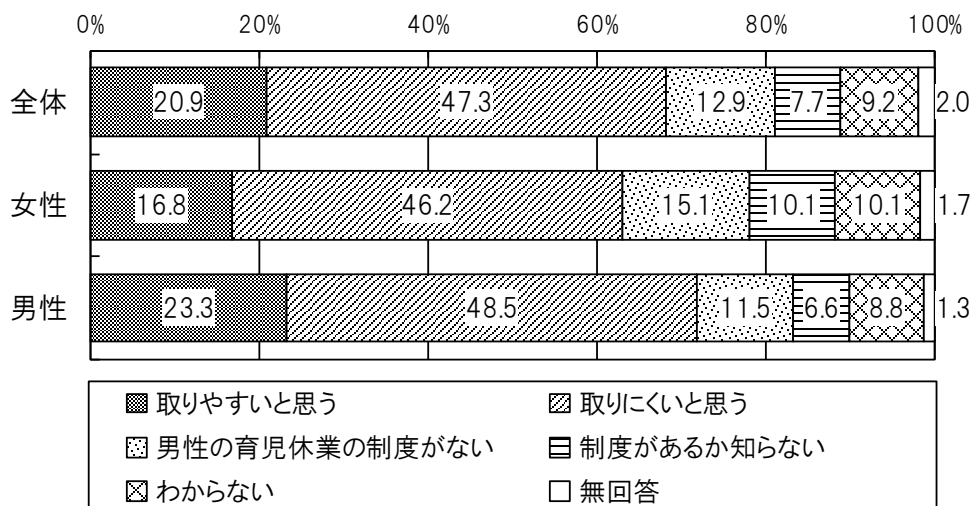
3-(5) 職場における男性の育児休業の取りやすさ

〔n=349〕

問15 【問11で「1.正社員・職員」と回答された方におたずねします。】

あなたの職場では、男性は育児休業を取りやすいと思いますか。次の中から、主なものを1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆男性の育児休業の取りやすさについては、「取りにくいと思う」が47.3%と半数近くを占め、「取りやすいと思う」は約2割となっている。一方、「男性の育児休業の制度がない」は12.9%、「制度があるか知らない」は7.7%となっている。
- ◆性別にみると、「取りやすいと思う」は男性が女性を6.5ポイント上回っており、また、「取りにくいと思う」についても男性が女性を2.3ポイント上回っている。



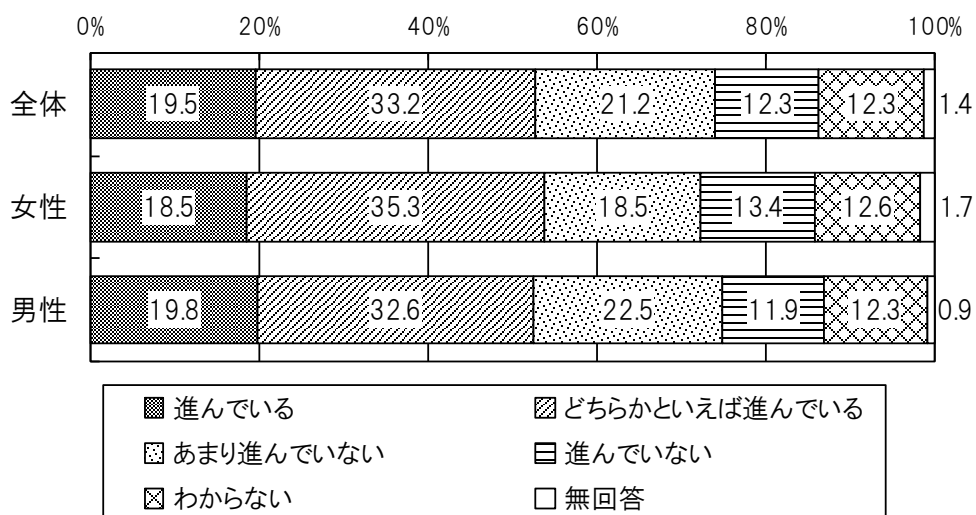
3-(6) 女性活躍の取り組みの進捗状況

[n=349]

問16 【問11で「1.正社員・職員」と回答された方におたずねします。】
 あなたの職場で女性活躍の取り組みは進んでいると思いますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆職場で女性活躍の取り組みが進んでいると思うかどうかについては、『進んでいる』※5が52.7%と過半数を占めている。
- ◆性別にみると、『進んでいる』は女性では53.8%、男性では52.4%と差はほとんどない。

※5「進んでいる」と「どちらかといえば進んでいる」の計



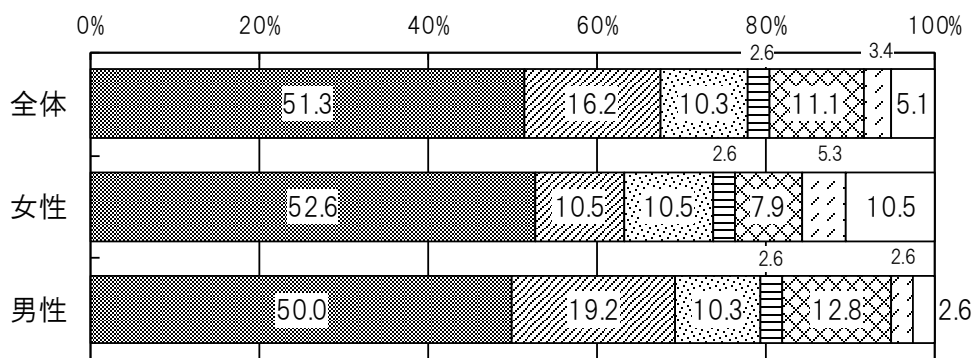
3-(7) 女性活躍の取り組みが進まない理由

〔n=117〕

問17 【問16で「3.あまり進んでいない」「4.進んでいない」と回答された方におたずねします。】

あなたは、職場で女性活躍の取り組みが進まないのはどのような理由からだと思いませんか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆職場で女性活躍の取り組みが進まない理由については、「職場が男性中心の組織風土である」が51.3%と過半数を占めている。次いで、「仕事と生活が両立できるような職場づくりが進んでいない」が16.2%、「職場での女性活躍を望んでいない女性が多い」が11.1%と続いている。
- ◆性別にみると、「仕事と生活が両立できるような職場づくりが進んでいない」が8.7ポイント、「職場での女性活躍を望んでいない女性が多い」が4.9ポイント、それぞれ男性が女性を上回っている。



- 職場が男性中心の組織風土である
- ▨ 仕事と生活が両立できるような職場づくりが進んでいない
- ▩ 女性を登用するためのキャリア形成支援が不十分である
- 男性の家事・育児参加が進まない
- ▤ 職場での女性活躍を望んでいない女性が多い
- ▥ その他
- 無回答

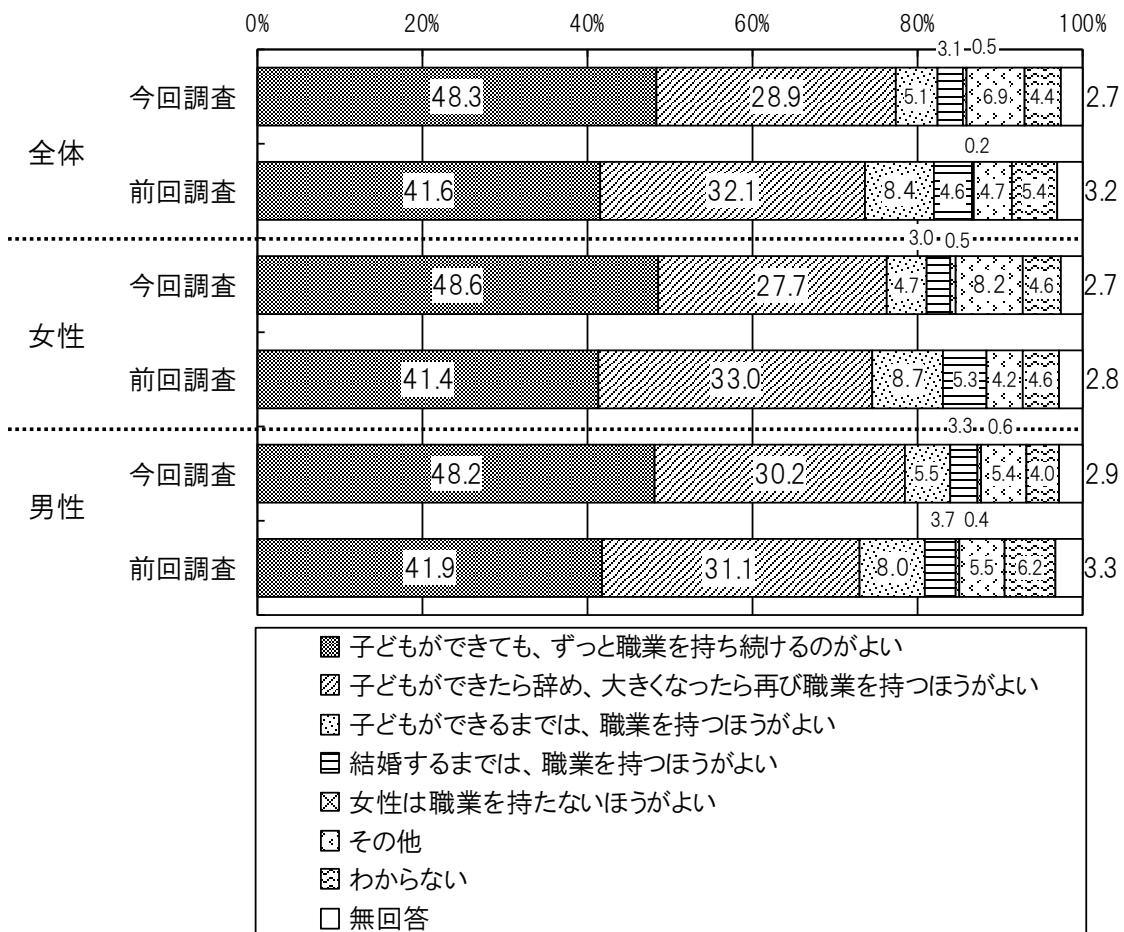
3-(8) 女性が職業を持つことについての考え方

〔n=1,167〕 前回共通

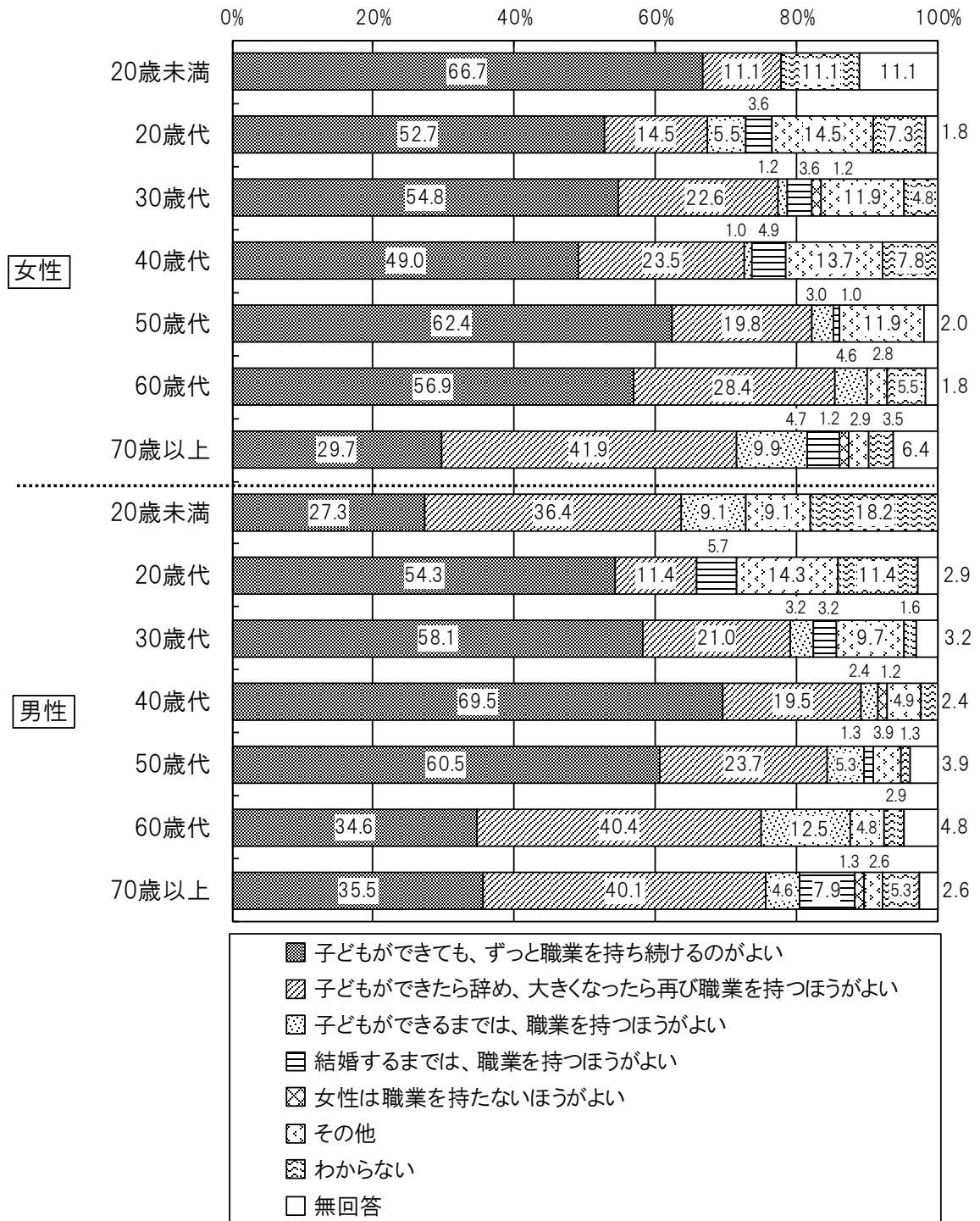
問18 【すべての方におたずねします。】

あなたは、女性が職業を持つことについてどのようにお考えですか。次の中から、主なものを1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆女性が仕事を持つことについての考え方は、前回調査に引き続き、「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるのがよい」といった『職業継続型』が最も多くなっており、前回調査に比べて6.7ポイント増加している。
- ◆性別にみても、男女とも「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるのがよい」が最も多くなっており、前回調査に比べ女性で7.2ポイント、男性で6.3ポイント増加している。
- ◆性・年齢別にみると、女性は70歳以上を除き「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるのがよい」が多くを占めている。一方、男性は20～50歳代は同様の傾向にあるものの、20歳未満、60～70歳以上は「子どもができたなら辞め、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が最も多くなっており、20歳未満は男女で大きく異なっている。



性・年齢別



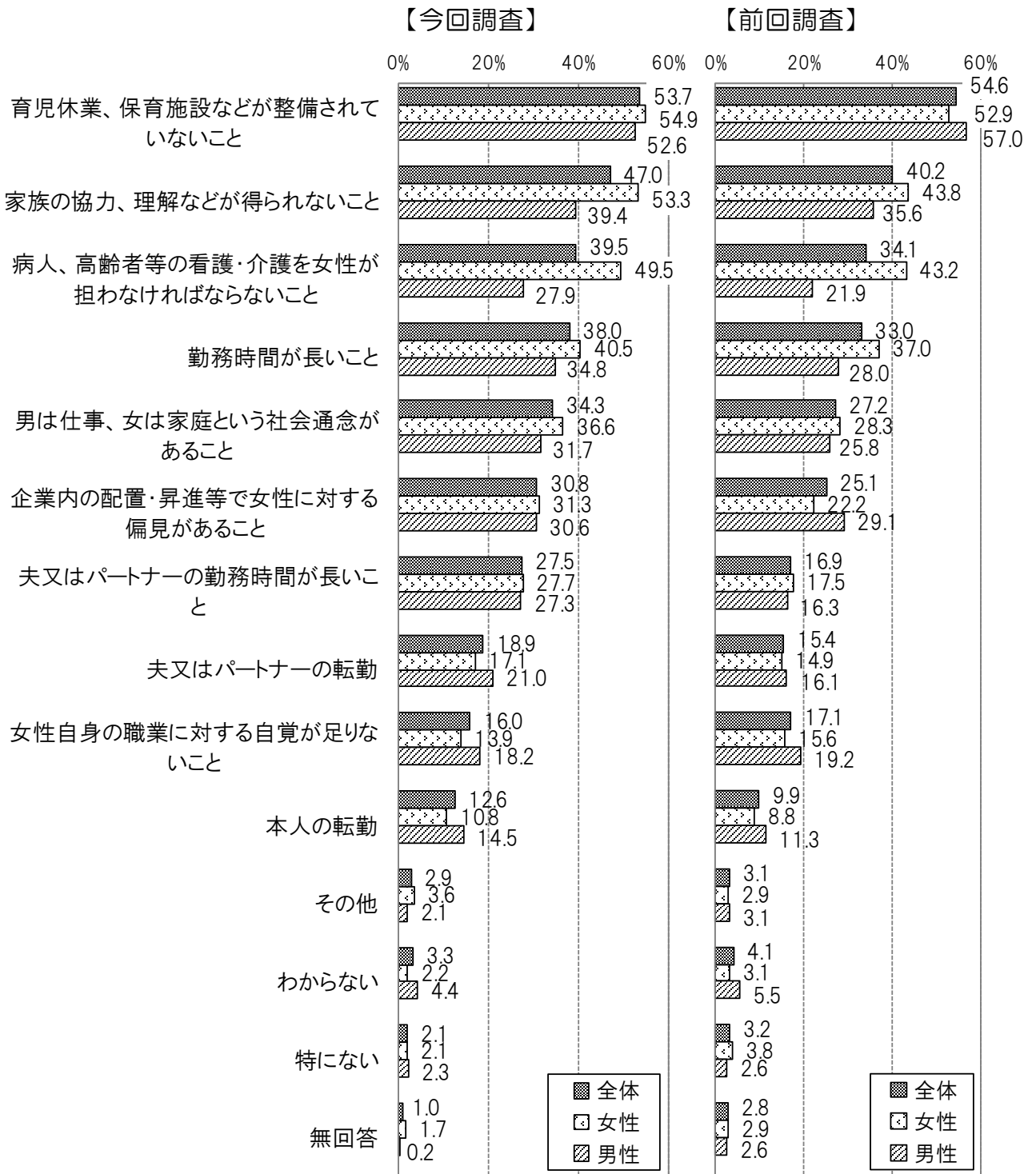
3-(9) 女性が職業を持ち続けていく上で障害と思うこと

〔n=1,167〕 前回共通

問19 【すべての方におたずねします。】

あなたは、女性が職業を持ち続ける上で障害となるものは何だと思えますか。あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆女性が職業を持ち続けていく上で障害と思うことは、前回調査と同様に「育児休業、保育施設などが整備されていないこと」が53.7%と最も多く、次いで、「家族の協力、理解などが得られないこと」(47.0%)、「病人、高齢者等の看護・介護を女性が担わなければならないこと」(39.5%)と続いている。
- ◆前回調査と比較すると、「育児休業、保育施設などが整備されていないこと」が0.9ポイント、「女性自身の職業に対する自覚が足りないこと」が1.1ポイント、それぞれ減少しているものの、その他の項目はいずれも増加している。特に、「夫又はパートナーの転勤」は10.6ポイント、「男は仕事、女は家庭という社会通念があること」は7.1ポイント、「家族の協力、理解などが得られないこと」は6.8ポイント、前回調査から増加している。
- ◆性別にみると、「女性自身の職業に対する自覚が足りないこと」「夫又はパートナーの転勤」「本人の転勤」などは男性に多くなっているが、その他の項目はすべて女性のほうが上回っており、特に、「病人、高齢者等の看護・介護を女性が担わなければならないこと」は21.6ポイント差と、男性を大きく上回っている。



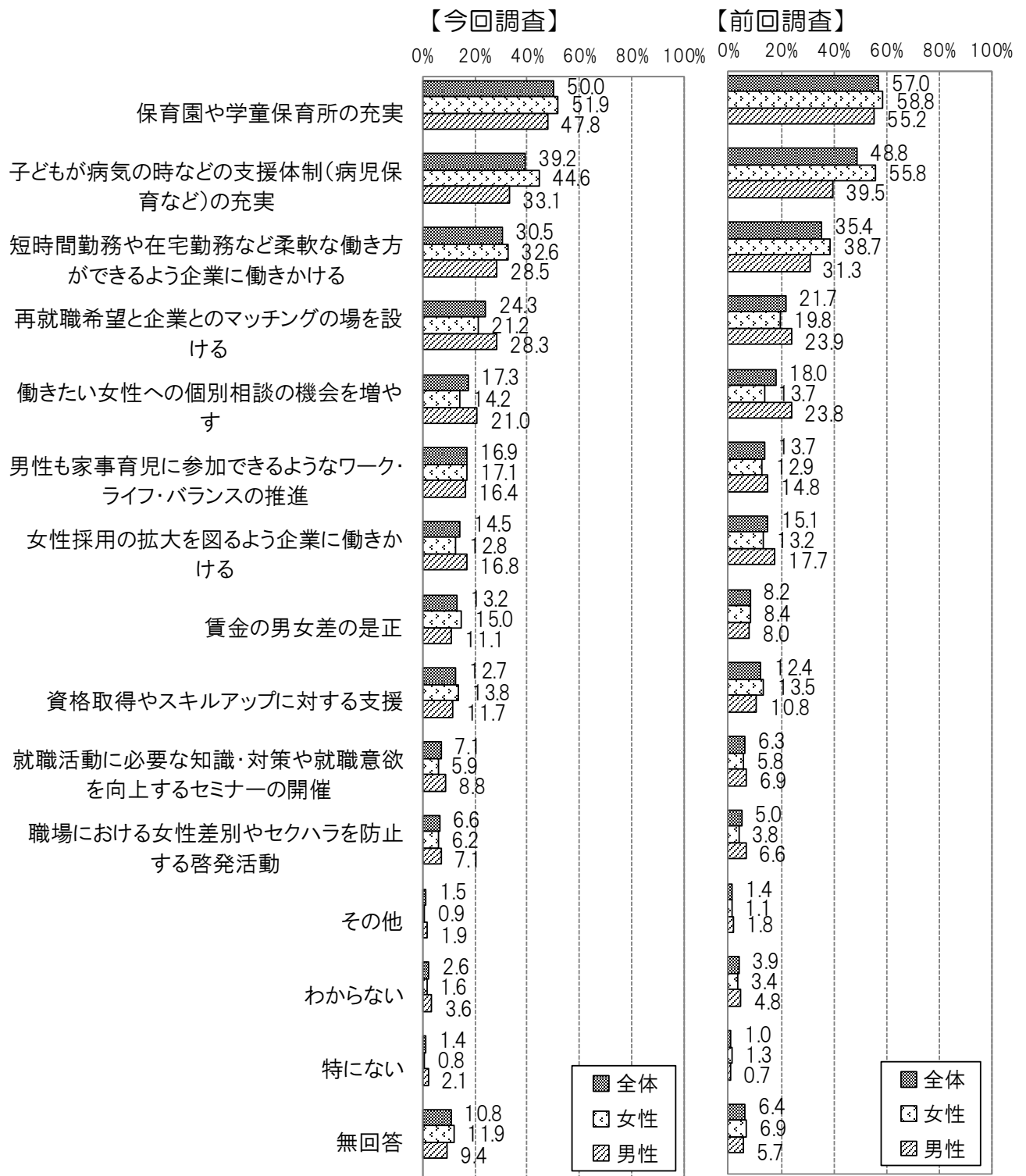
3-(10) 女性の再就職のために必要な施策・対策

〔n=1,167〕 前回共通

問20 【すべての方におたずねします。】

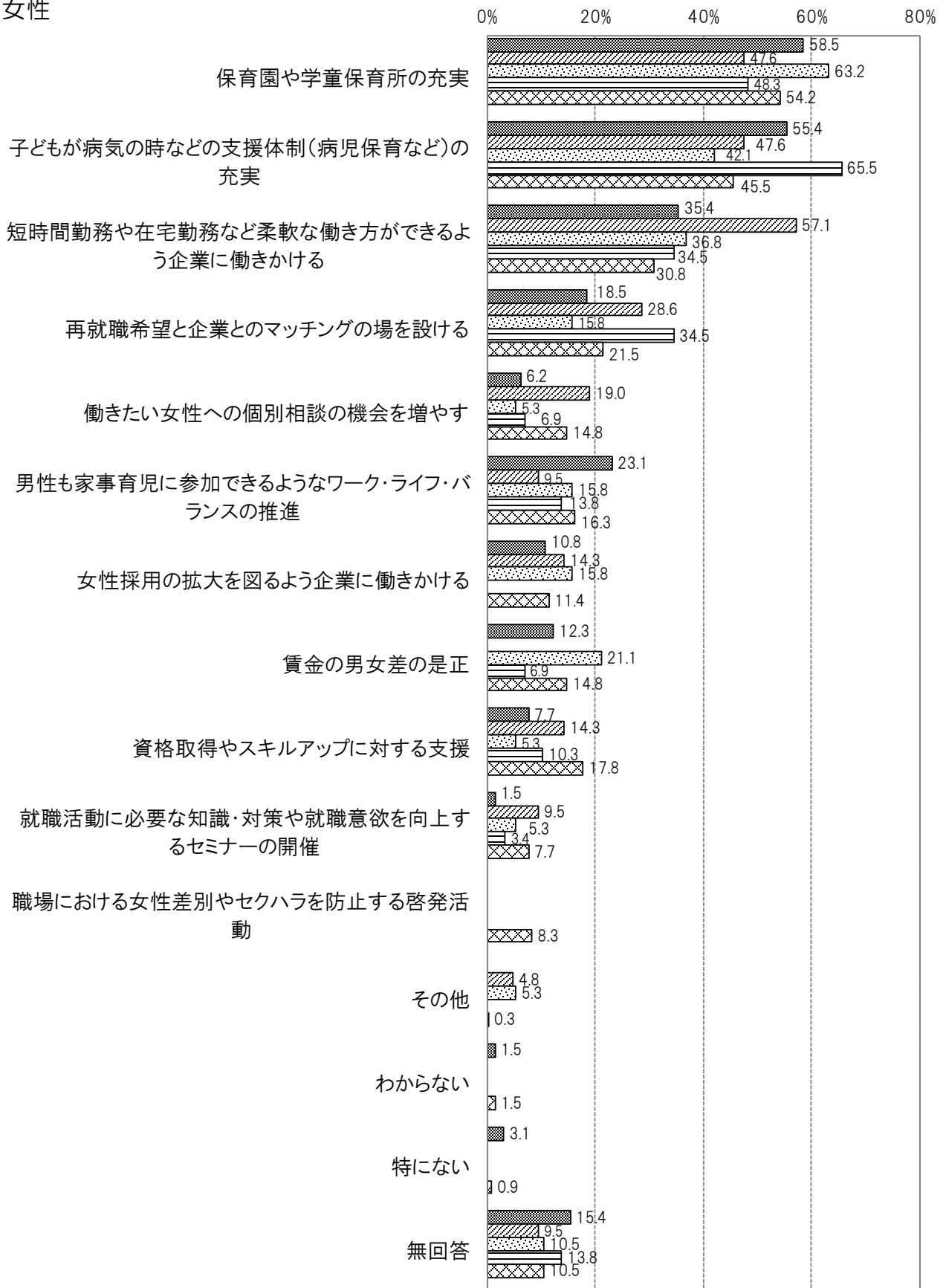
あなたは、女性が再就職するためにどのような施策や対策が必要だと思いますか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆女性の再就職のために必要な施策・対策は、「保育園や学童保育所の充実」が50.0%と最も多く、次いで、「子どもが病気の時などの支援体制(病児保育など)の充実」(39.2%)、「短時間勤務や在宅勤務など柔軟な働き方ができるよう企業に働きかける」(30.5%)と続いている。
- ◆前回調査に比べ、上位3つとも数値は減少しており、それに代わって「賃金の男女差の是正」、「男性も家事育児に参加できるようなワーク・ライフ・バランスの推進」、「再就職希望と企業とのマッチングの場を設ける」などが上昇している。
- ◆性別にみると、女性のほうが多く挙げているのは「子どもが病気の時などの支援体制(病児保育など)の充実」、「保育園や学童保育所の充実」、「短時間勤務や在宅勤務など柔軟な働き方ができるよう企業に働きかける」、「賃金の男女差の是正」などとなっており、特に、「子どもが病気の時などの支援体制(病児保育など)の充実」は男性を11.5ポイント上回っている。
- ◆性・子どもの年代別にみると、子どもが「就学前」、「小学4～6年生」の女性では、「保育園や学童保育所の充実」が最も多く、「小学1～3年生」の女性では、「短時間勤務や在宅勤務など柔軟な働き方ができるよう企業に働きかける」が最も多い。また、「中学生以上18歳未満」の女性では、「子どもが病気の時などの支援体制(病児保育など)の充実」が最も多くなっている。また、子どもが「就学前」、「小学4～6年生」の男性では、「子どもが病気の時などの支援体制(病児保育など)の充実」が最も多く、「小学1～3年生」、「中学生以上18歳未満」の男性では、「保育園や学童保育所の充実」が最も多くなっている。



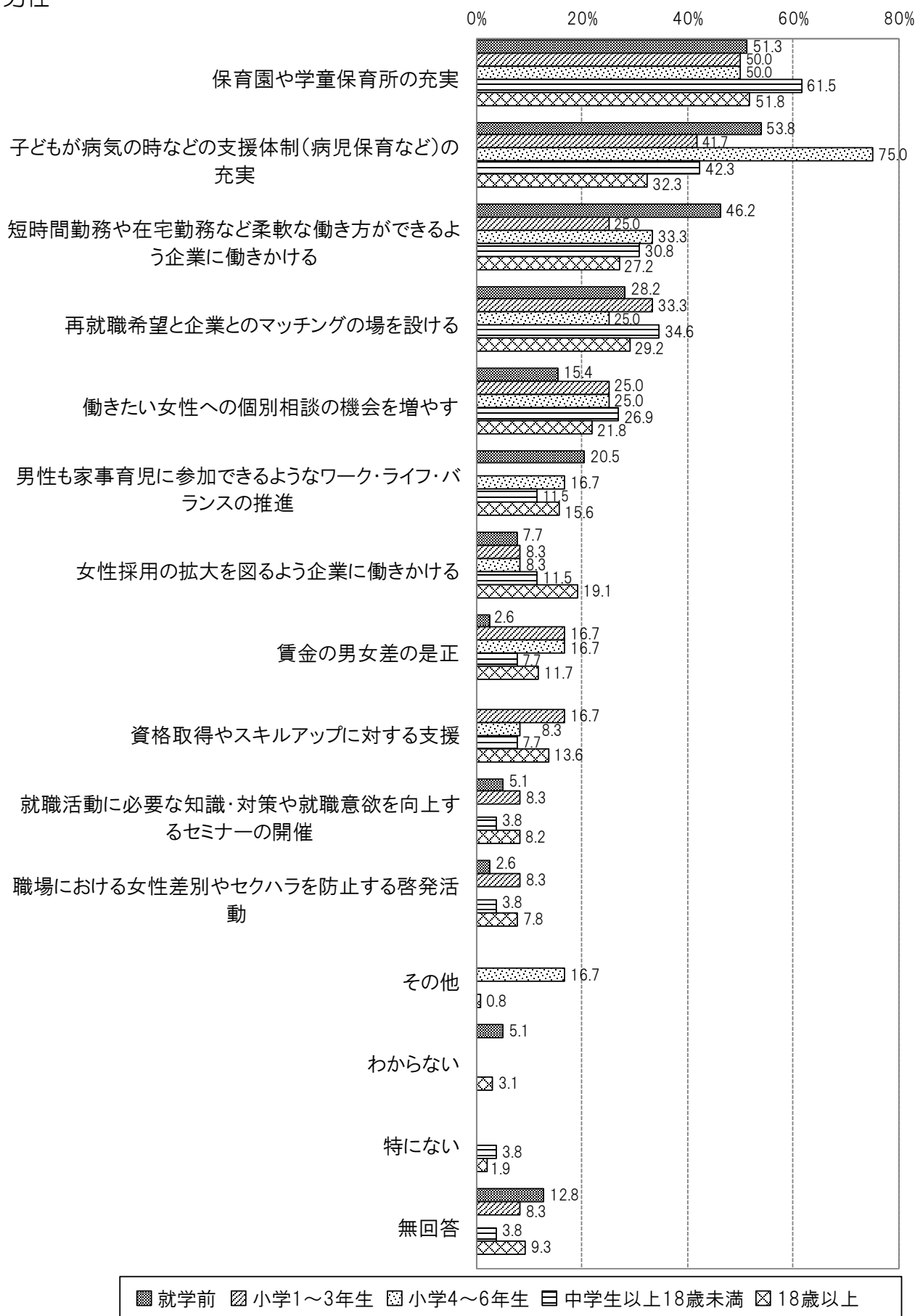
性・子どもの年代(一番下の子ども)別

女性



■ 就学前 □ 小学1～3年生 ▨ 小学4～6年生 ▩ 中学生以上18歳未満 ▤ 18歳以上

男性



■ 就学前 □ 小学1~3年生 ▨ 小学4~6年生 ▩ 中学生以上18歳未満 ⊠ 18歳以上

4 ワーク・ライフ・バランスについて

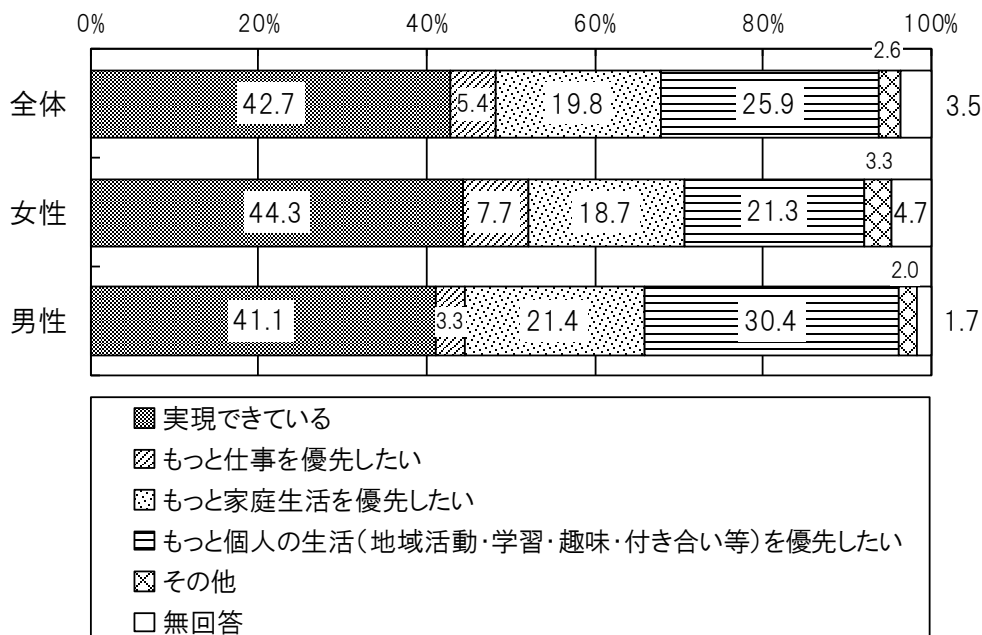
4-(1) ワーク・ライフ・バランスの現状

〔n=606〕

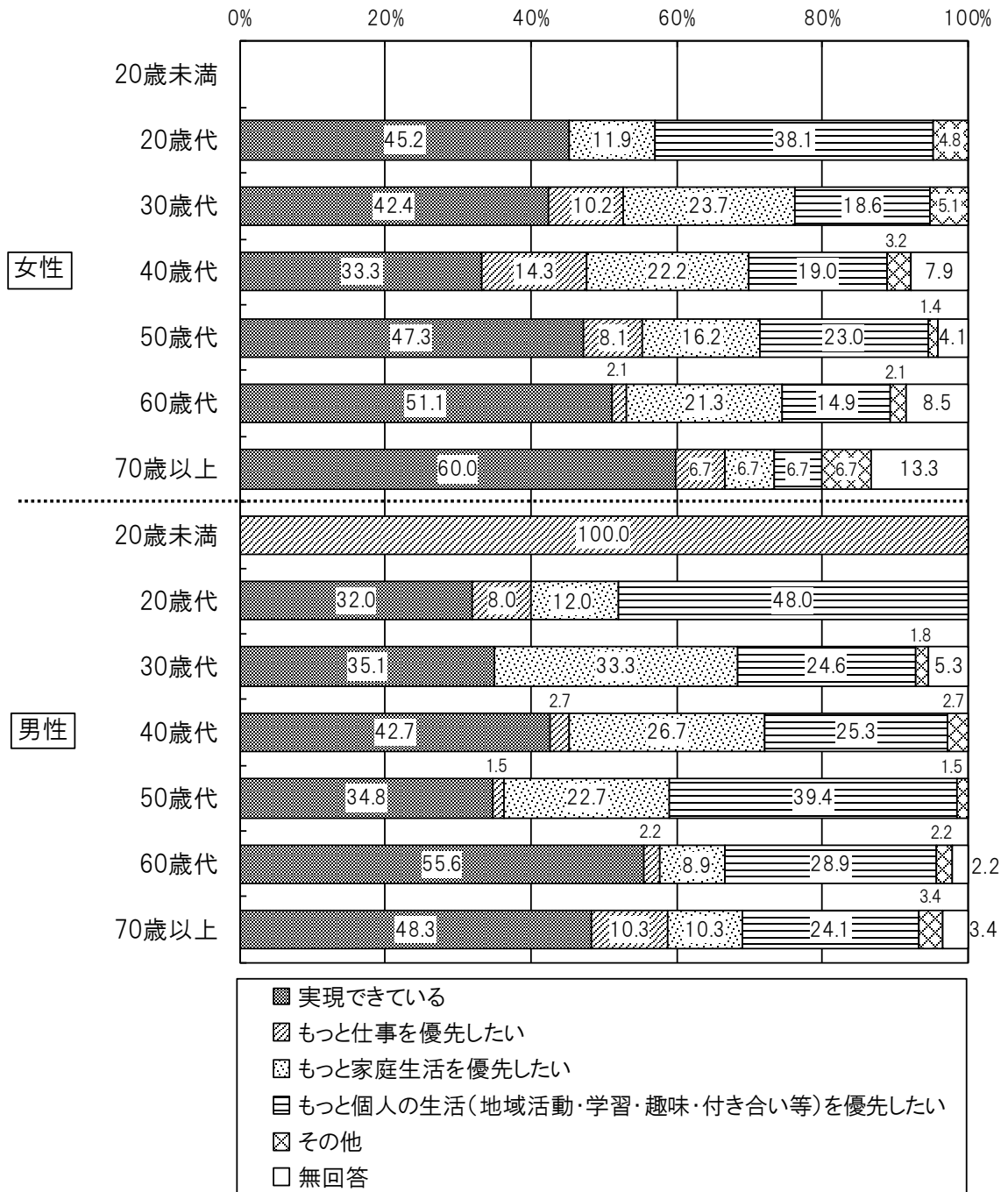
問21 【問11で、「1.正社員・職員」、「2.非正社員・非正職員」と回答された方におたずねします。】

ワーク・ライフ・バランスに関して、現在あなたの思うような仕事と生活のバランスは実現できていますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆ワーク・ライフ・バランスが実現できているかについては、全体の約4割が「実現できている」と回答している。また、「もっと個人の生活を優先したい」は25.9%、「もっと家庭生活を優先したい」は19.8%、「もっと仕事を優先したい」は5.4%となっている。
- ◆性別にみても、全体結果と同様の傾向になっているが、「実現できている」は女性が男性を3.2ポイント上回っている。また、女性では「もっと仕事を優先したい」が男性を4.4ポイント上回る一方、男性では「もっと個人の生活を優先したい」が女性を9.1ポイント上回っている。
- ◆性・年齢別にみると、60歳代男女と70歳以上女性では「実現できている」が過半数を占める一方、40歳代女性、20～30歳代男性、50歳代男性では約3割と低くなっている。また、30～40歳代女性では「もっと仕事を優先したい」が同年代の男性を10ポイント以上上回っているが、50歳代以上の男性では「もっと個人の生活を優先したい」が女性を10ポイント以上上回っている。



性・年齢別



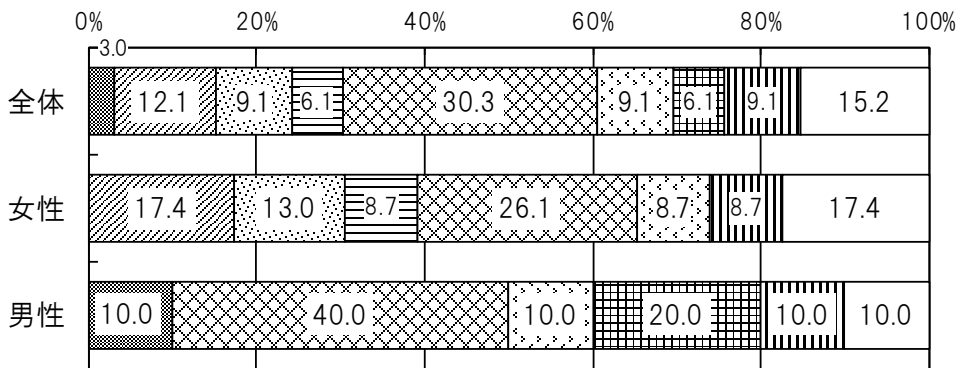
4-(2) 仕事の時間を優先する際の課題

[n=33]

問22 【問21で「2.もっと仕事を優先したい」と回答された方におたずねします。】

現在あなたの生活において、仕事の時間を優先させようと思うと、課題になるのはどのようなことですか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆仕事の時間を優先する際に課題となることについては、「景気の影響などで仕事が減っている、又はいい働き先が見つからない」が約3割を占め最も多くなっている。次いで、「家事などに関して、配偶者など家族に協力してもらえない」が12.1%で続いている。
- ◆性別にみると、女性では「家事などに関して、配偶者など家族に協力してもらえない」が17.4ポイント、「育児に関して、子どもの預け先が見つからない、保育時間の延長ができない」が13.0ポイント、それぞれ男性を上回っている(ともに男性0%)。一方、男性では「健康上の問題」が20.0ポイント(女性0%)、「景気の影響などで仕事が減っている、又はいい働き先が見つからない」が13.9ポイント、それぞれ女性を上回っている。



- 配偶者など家族の理解が得られない
- ▨ 家事などに関して、配偶者など家族に協力してもらえない
- ▩ 育児に関して、子どもの預け先が見つからない、保育時間の延長ができない
- 親等の介護に関して、介護の頼み先が見つからない
- ▧ 景気の影響などで仕事が減っている、又はいい働き先が見つからない
- ▦ 勉強、習いごと、趣味の活動などが忙しい
- ▤ 健康上の問題
- ▥ その他
- 無回答

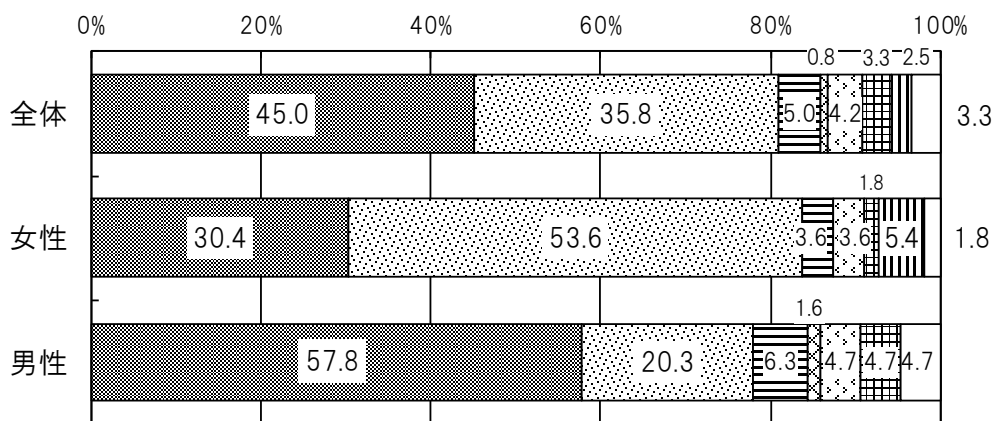
4-(3) 家庭生活の時間を優先する際の課題

〔n=120〕

問23 【問21で「3.もっと家庭生活を優先したい」と回答された方におたずねします。】

現在あなたの生活において、家庭生活の時間を優先させようと思うと、課題になるのはどのようなことですか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆家庭生活の時間を優先する際に課題となることについては、「仕事が忙しい」が45.0%と最も多く、次いで、「働く時間を減らすと、経済的に苦しくなる」が35.8%で続いている。
- ◆性別にみると、女性では「働く時間を減らすと、経済的に苦しくなる」が最も多く、男性を33.3ポイント上回っている。男性では「仕事が忙しい」が最も多く、女性を27.4ポイント上回っている。



- 仕事が忙しい
- ▨ 勉強、習いごと、趣味の活動などが忙しい
- ▩ 働く時間を減らすと、経済的に苦しくなる
- 家庭生活を大事にすることについて、職場の上司や同僚の理解が得られない
- ▧ 働いている会社等で、育児休暇や介護休暇などの制度が整っていない
- ▦ 働いている会社等で、育児休暇や介護休暇などの制度はあるが、積極的にとろうという雰囲気がない
- ▤ 健康上の問題
- ▣ その他
- 無回答

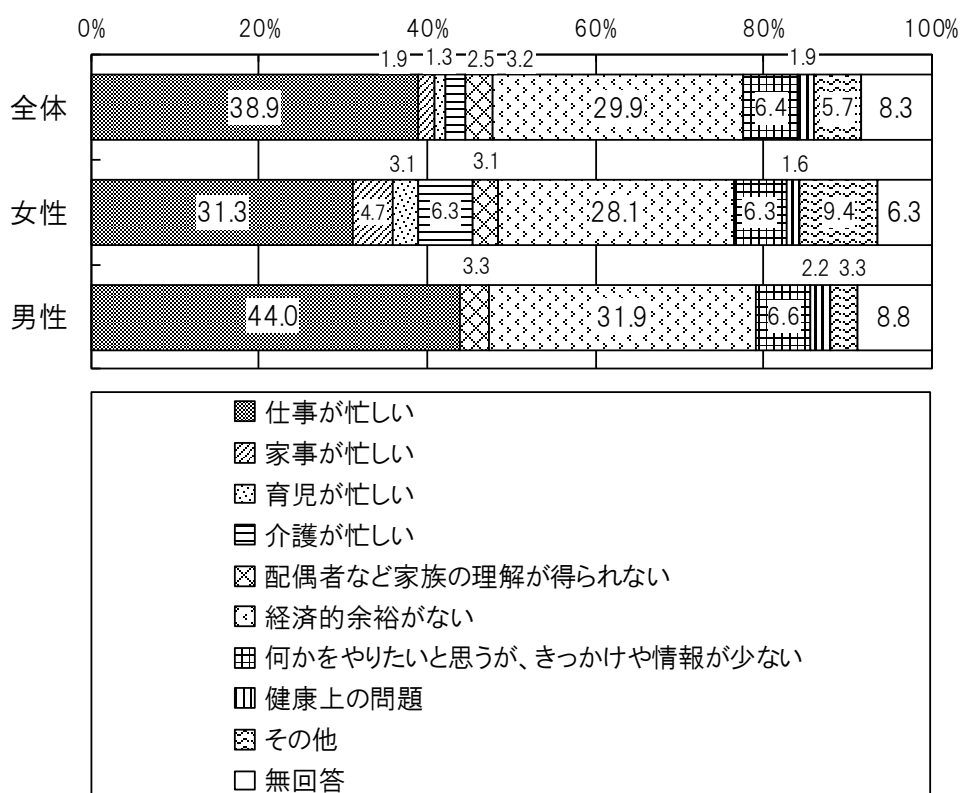
4-(4) 個人の生活の時間を優先する際の課題

〔n=157〕

問24 【問21で「4.もっと個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)を優先したい」と回答された方におたずねします。】

現在あなたの生活において、個人の生活の時間を優先させようと思うと、課題になるのはどのようなことですか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆個人の生活の時間を優先する際に課題となることについては、「仕事が忙しい」が38.9%と最も多く、次いで、「経済的余裕がない」が29.9%で続いている。
- ◆性別にみても、全体結果と同様の傾向になっているが、女性では「介護が忙しい」が男性を6.3ポイント上回り(男性0%)、男性では「仕事が忙しい」が女性を12.7ポイント上回っている。



4-(5) ワーク・ライフ・バランスの実現のために重要なこと

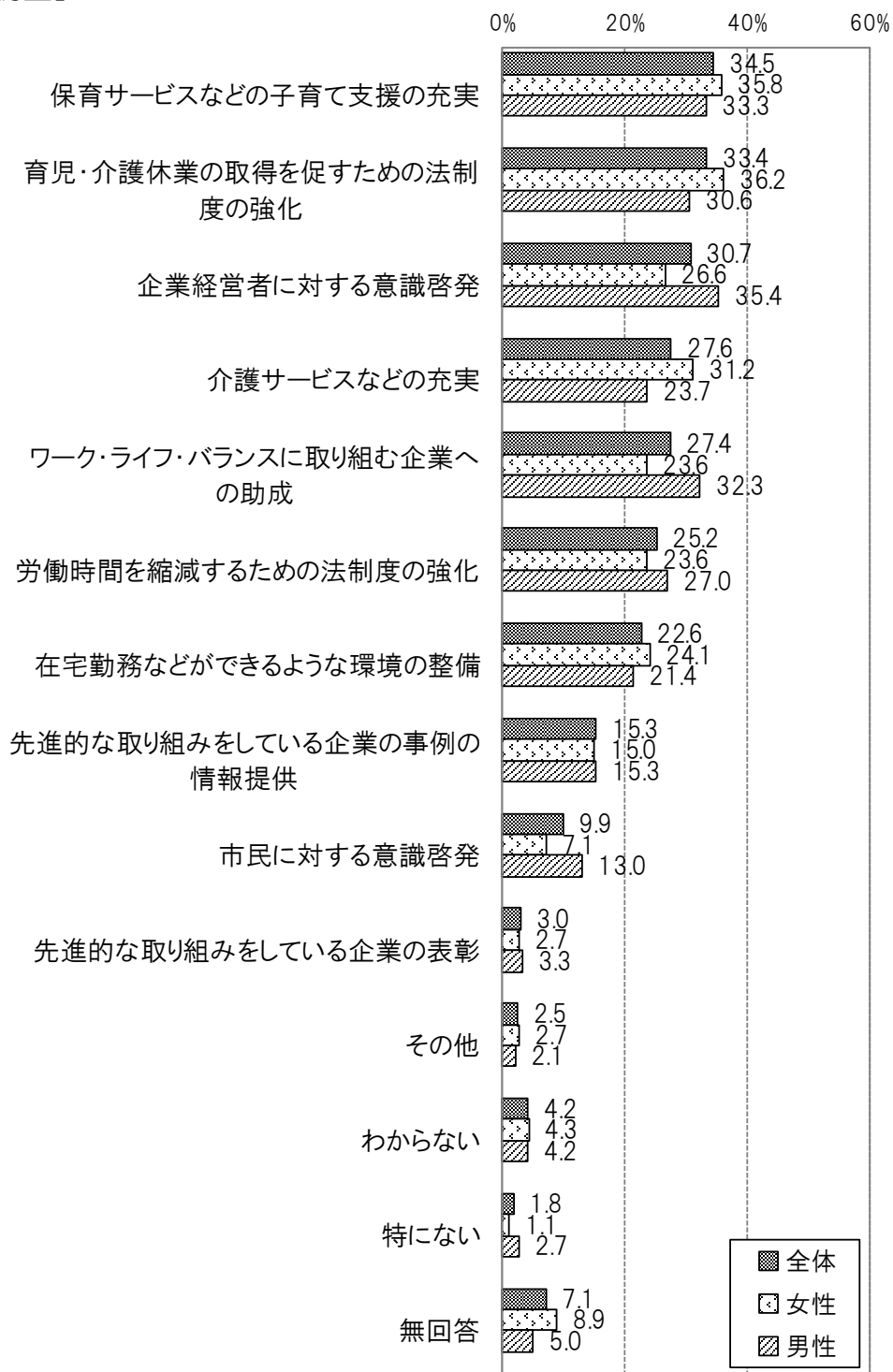
〔n=1,167〕 前回共通

問25 【すべての方におたずねします。】

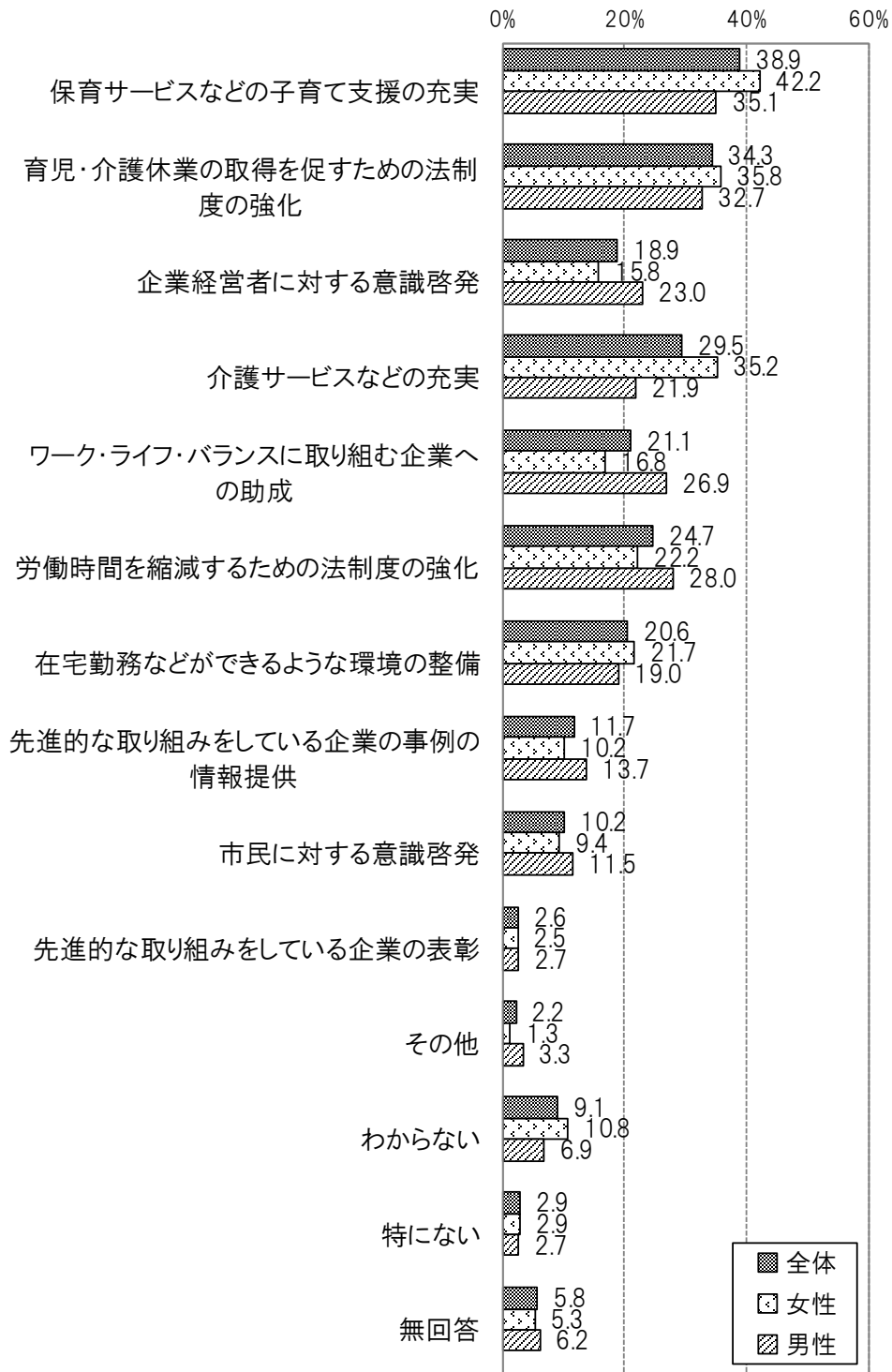
男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現するためには、何が重要だと思いますか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆ワーク・ライフ・バランスの実現のために重要なことについては、「保育サービスなどの子育て支援の充実」が34.5%と最も多く、次いで、「育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化」(33.4%)、「企業経営者に対する意識啓発」(30.7%)が続いている。前回調査に比べて、上位2項目の数値は減少しているが、「企業経営者に対する意識啓発」が11.8ポイント増加している。
- ◆性別にみると、女性では「育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化」(36.2%)が、男性では「企業経営者に対する意識啓発」(35.4%)が、それぞれ最も多くなっている。女性のほうが多く挙げているのは、「介護サービスなどの充実」が7.5ポイント差、「育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化」が5.6ポイント差などとなっている。一方、男性のほうが多く挙げているのは、「企業経営者に対する意識啓発」が8.8ポイント差、「ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業への助成」が8.7ポイント差などとなっている。

【今回調査】



【前回調査】



5 社会活動等について

5-(1) 地域活動等への参加状況

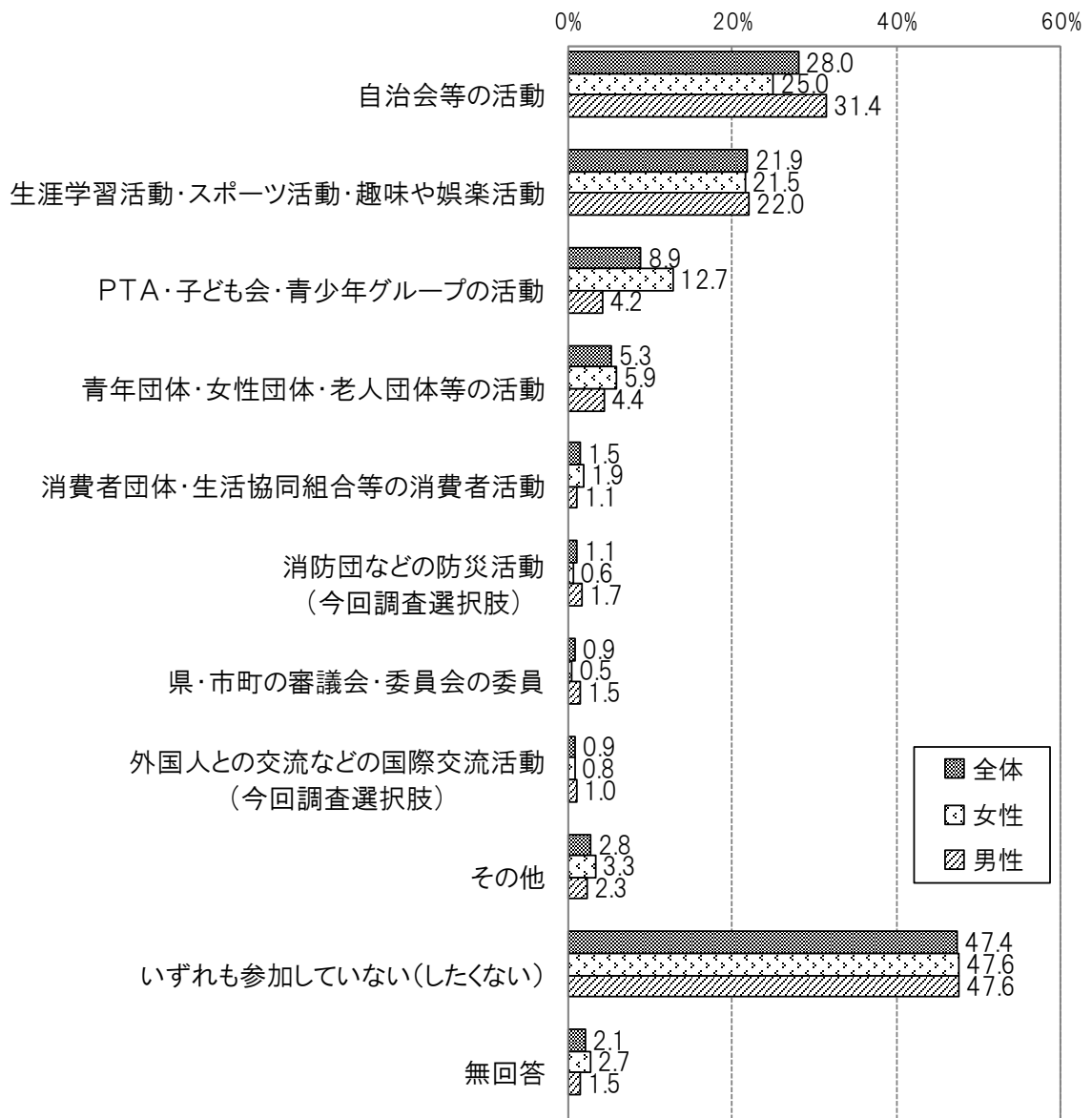
〔n=1,167〕 前回共通(一部変更)

問26 【すべての方におたずねします。】

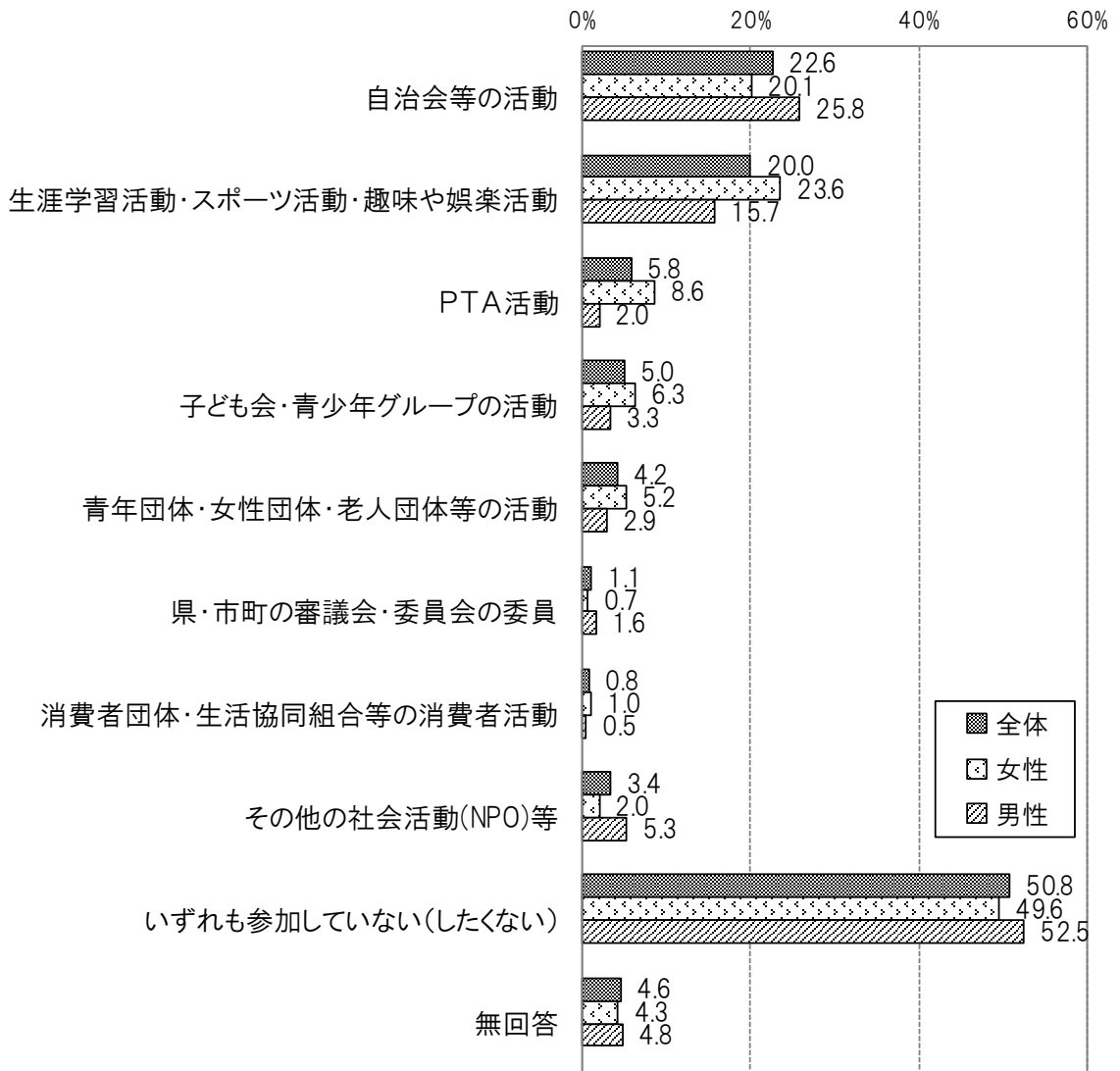
あなたは次のような活動をしていますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆地域活動などへの参加状況は、「自治会等の活動」が28.0%と最も多く、次いで、「生涯学習活動・スポーツ活動・趣味や娯楽活動」(21.9%)が続いている。一方、「いずれも参加していない(したくない)」は47.4%と、前回調査の50.8%から3.4ポイント低下している。
- ◆性別にみると、全体結果と同様に男女ともに「自治会等の活動」が最も多く、「生涯学習活動・スポーツ活動・趣味や娯楽活動」が続いている。また、女性では「PTA・子ども会・青少年グループの活動」が男性を8.5ポイント上回り、男性では「自治会等の活動」が女性を6.4ポイント上回っている。
- ◆性・年齢別にみると、「自治会等の活動」は男性の40歳代以上で最も多く、30歳代以下では「生涯学習活動・スポーツ活動・趣味や娯楽活動」が多くなっている。また、30～40歳代女性では「PTA・子ども会・青少年グループの活動」が最も多くなっている。
- ◆「いずれも参加していない(したくない)」の割合が50%を超えているのは、女性では30歳代以下、男性では40歳代以下の比較的若い世代となっている。

【今回調査】

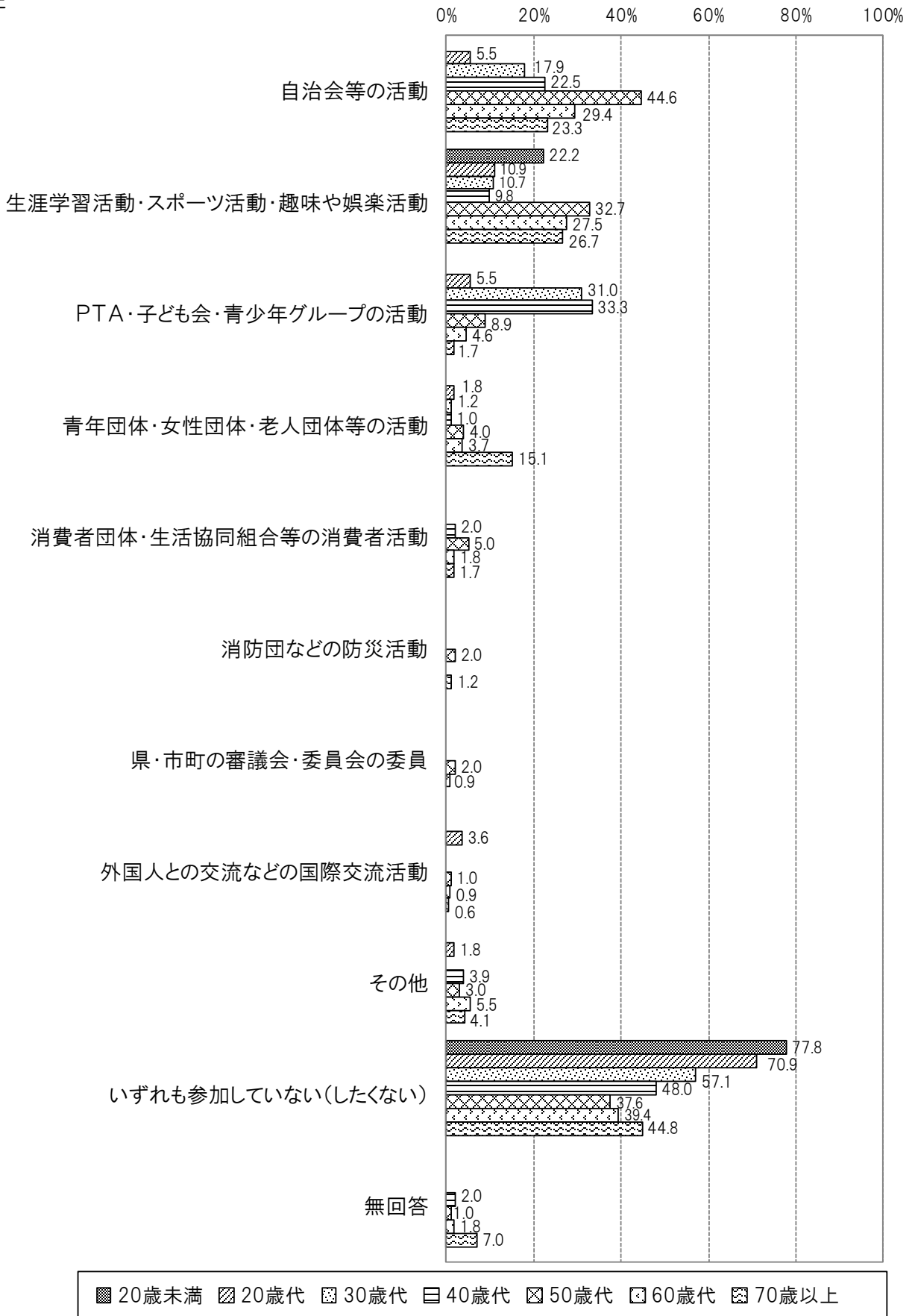


【前回調査】

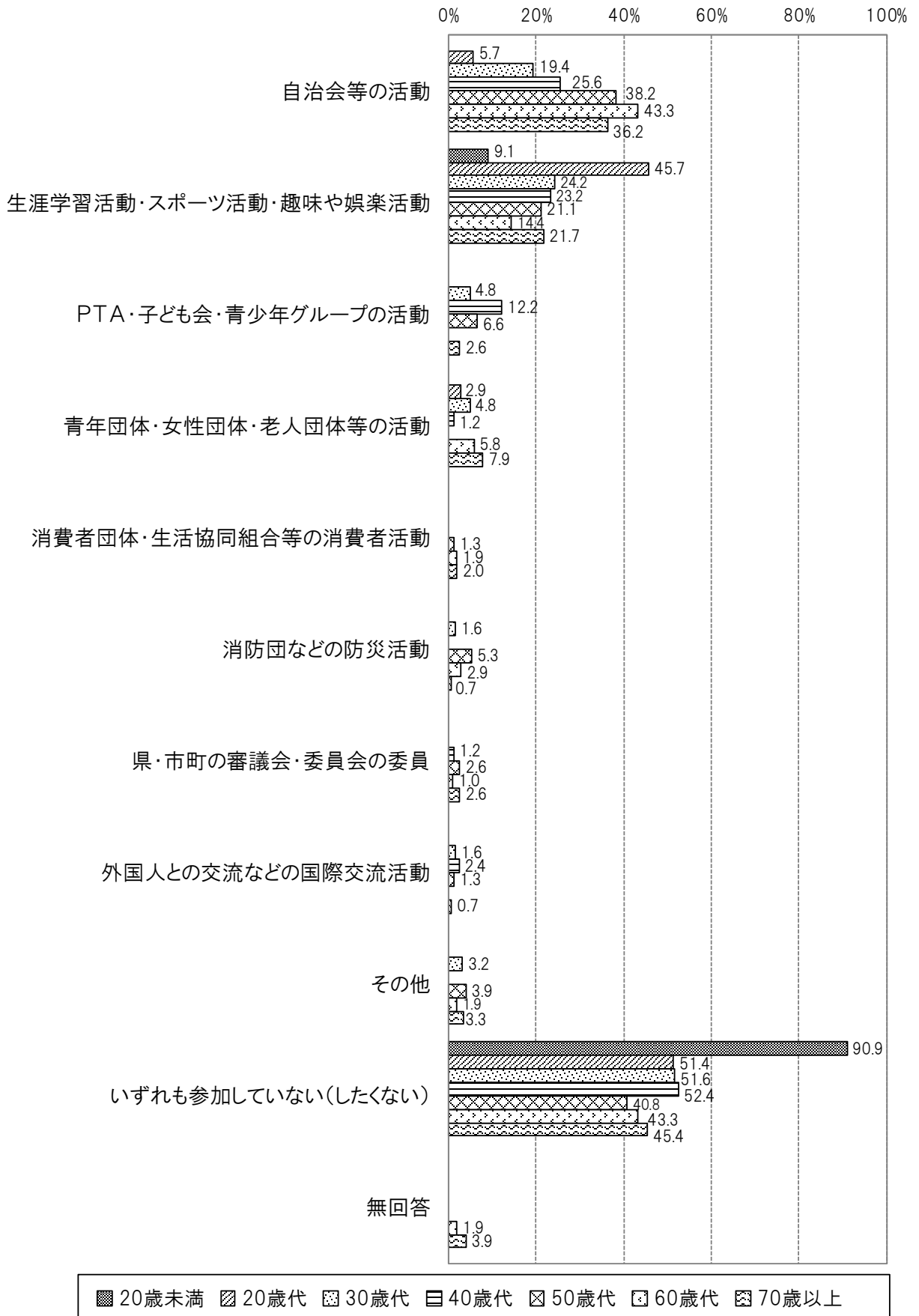


性・年齢別

女性



男性



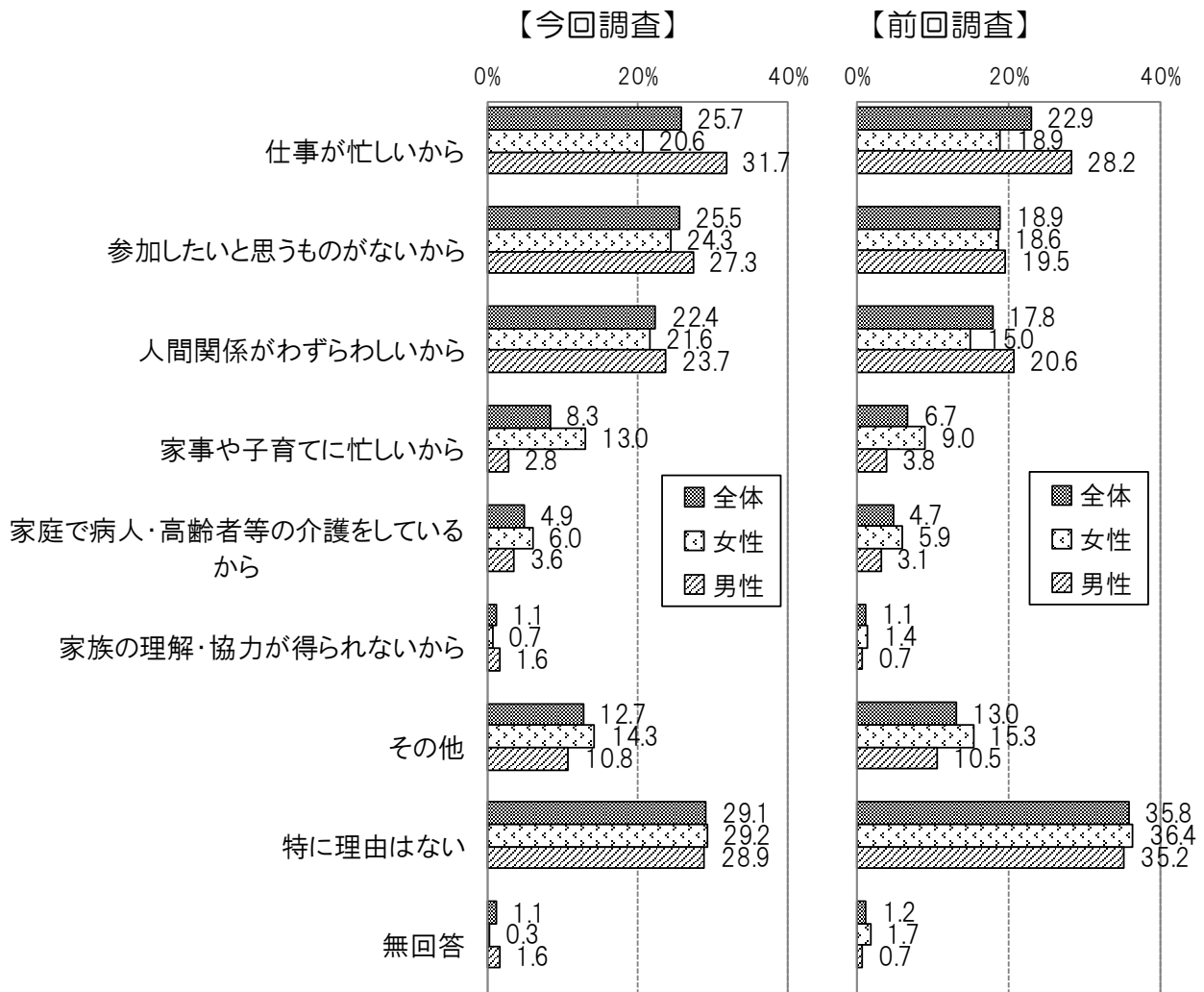
5-(2) 地域活動等に参加していない理由

〔n=553〕 前回共通

問27 【問26で「10.いずれも参加していない(したくない)」と回答された方のみお答えください。】

その理由は何ですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆地域活動等に参加していない理由は、前回調査と同様に、「仕事が忙しいから」(25.7%)、「参加したいと思うものがないから」(25.5%)、「人間関係がわずらわしいから」(22.4%)などが多く、前回調査からおよそ3~7ポイント増加している。
- ◆性別にみると、男性では「仕事が忙しいから」(31.7%)が多く、女性では「参加したいと思うものがないから」(24.3%)が多くなっている。また、「家事や子育てに忙しいから」は女性が男性を10.2ポイント上回る一方、「仕事が忙しいから」は男性が女性を11.1ポイント上回っている。



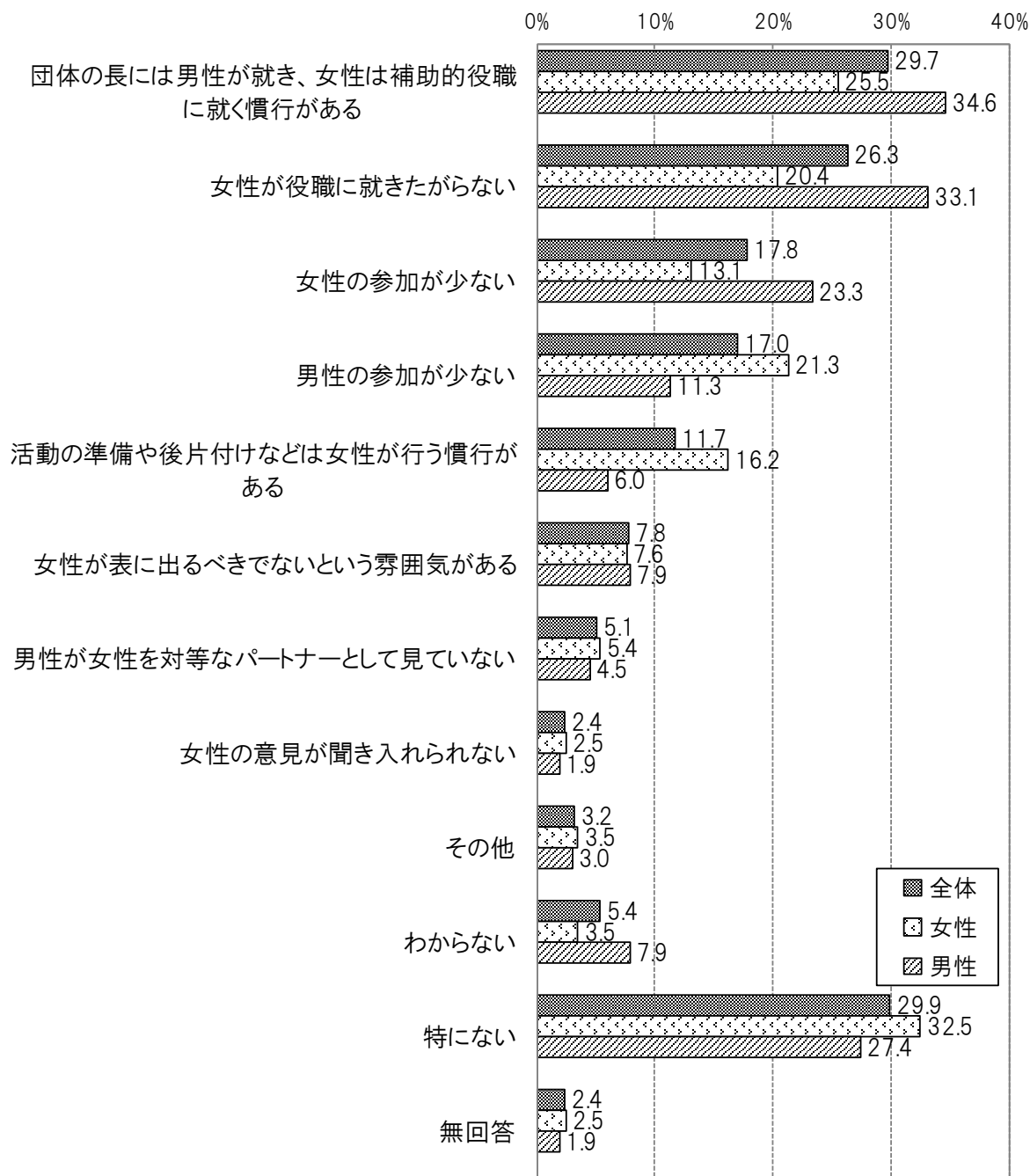
5-(3) 地域活動等における現状

〔n=589〕

問28 【問26で「1～9」を選択された方のみお答えください。】

あなたが現在活動されている団体で、次のようなことはありますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆地域活動等における現状については、「団体の長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」が29.7%と最も多く、次いで、「女性が役職に就きたがらない」(26.3%)、「女性の参加が少ない」(17.8%)と続いている。
- ◆性別にみると、男女ともに「団体の長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」が最も多くなっているが、女性では「男性の参加が少ない」が、男性では「女性が役職に就きたがらない」が、それぞれ2番目に多くなっている。また、「女性が役職に就きたがらない」は男性が女性を12.7ポイント上回っている一方、「男性の参加が少ない」は女性が男性を10.0ポイント上回っている。



6 ドメスティック・バイオレンスなどについて

6-(1) 暴力の加害、被害の有無

[n=1,167]

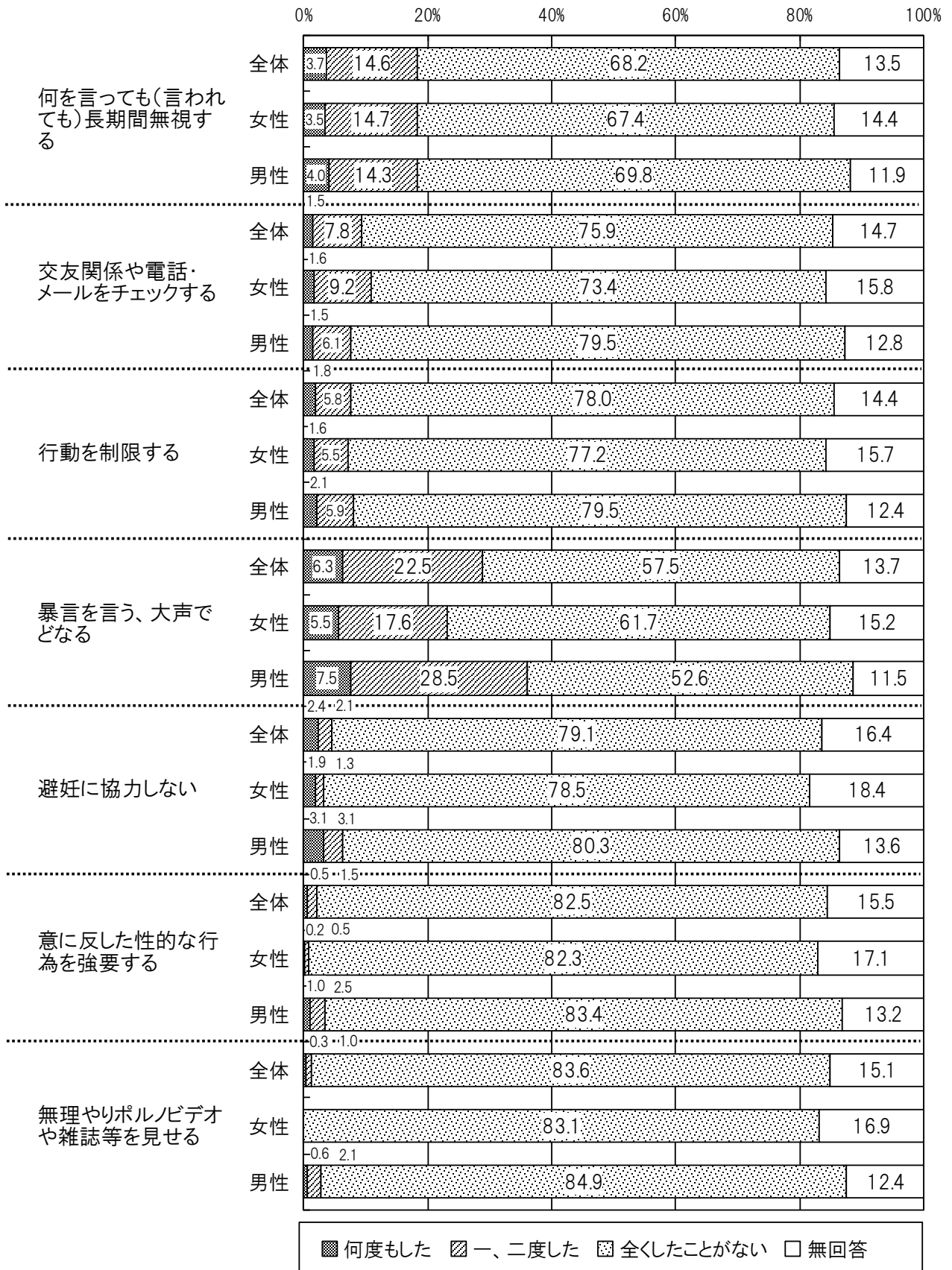
問29 【すべての方におたずねします。】

次のような行為を、配偶者等又は交際相手にしたり、あるいは配偶者等又は交際相手から受けたりしたことがありますか。

※配偶者等には、恋人、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者(離別・死別した相手・事実婚を解消した相手)も含まれます。

A 自分でしたことがある

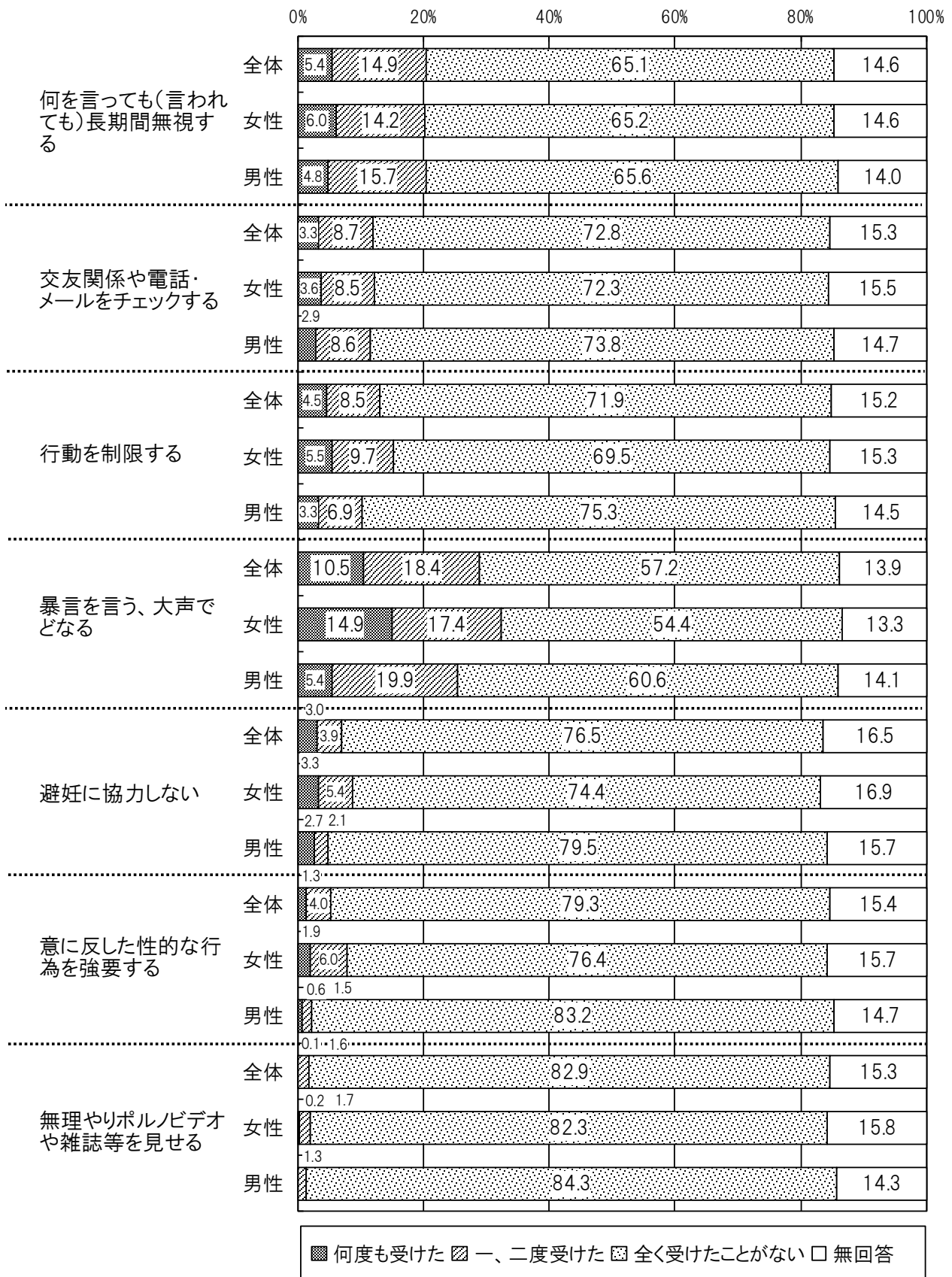
- ◆暴力の加害、被害の有無について、自分でしたことがある行為についてたずねたところ、13項目中6項目で「全くしたことがない」が8割以上を占めている。一方、『暴言を言う、大声でどなる』は「何度もした」(6.3%)と「一、二度した」(22.5%)の合計は約3割を占め、『何を言っても(言われても)長期間無視する』は「何度もした」(3.7%)と「一、二度した」(14.6%)の合計は約2割を占めている。
- ◆性別にみると、女性では13項目中5項目で、男性では6項目で、「全くしたことがない」が8割以上を占めている。一方、男性では『暴言を言う、大声でどなる』が一番多く(何度もした:7.5%、一、二度した:28.5%)約4割を占める。次点は『何を言っても(言われても)長期間無視する』(何度もした:4.0%、一、二度した:14.3%)で約2割を占めている。女性においても『暴言を言う、大声でどなる』が一番多く(何度もした:5.5%、一、二度した:17.6%)約2割を占める。次点は『何を言っても(言われても)長期間無視する』(何度もした:3.5%、一、二度した:14.7%)であった。





B 相手から受けたことがある

- ◆暴力の加害、被害の有無について、相手から受けたことがある行為についてたずねたところ、13項目中2項目で「全く受けたことがない」が8割以上を占めている。一方、『暴言を言う、大声でどなる』は「何度も受けた」(10.5%)と「一、二度受けた」(18.4%)の合計は約3割を占め、『何を言っても(言われても)長期間無視する』は「何度も受けた」(5.4%)と「一、二度受けた」(14.9%)の合計は約2割を占めている。
- ◆性別にみると、女性では13項目中2項目で、男性では5項目で、「全く受けたことがない」が8割以上を占めている。一方、男性では『暴言を言う、大声でどなる』が一番多く(何度も受けた：5.4%、一、二度受けた：19.9%)2割強を占め、次点は『何を言っても(言われても)長期間無視する』(何度も受けた：4.8%、一、二度受けた：15.7%)で約2割を占めている。女性では『暴言を言う、大声でどなる』が一番多く(何度も受けた：14.9%、一、二度受けた：17.4%)約3割を占め、次点は『何を言っても(言われても)長期間無視する』(何度も受けた：6.0%、一、二度受けた：14.2%)で約2割を占めている。また、『何を言っても(言われても)長期間無視する』、『自由になるお金を制限する』以外のいずれの項目についても「何度も受けた」と「一、二度受けた」の合計は女性が男性を上回っている。特に、『暴言を言う、大声でどなる』については女性が男性を7.0ポイント上回っている。





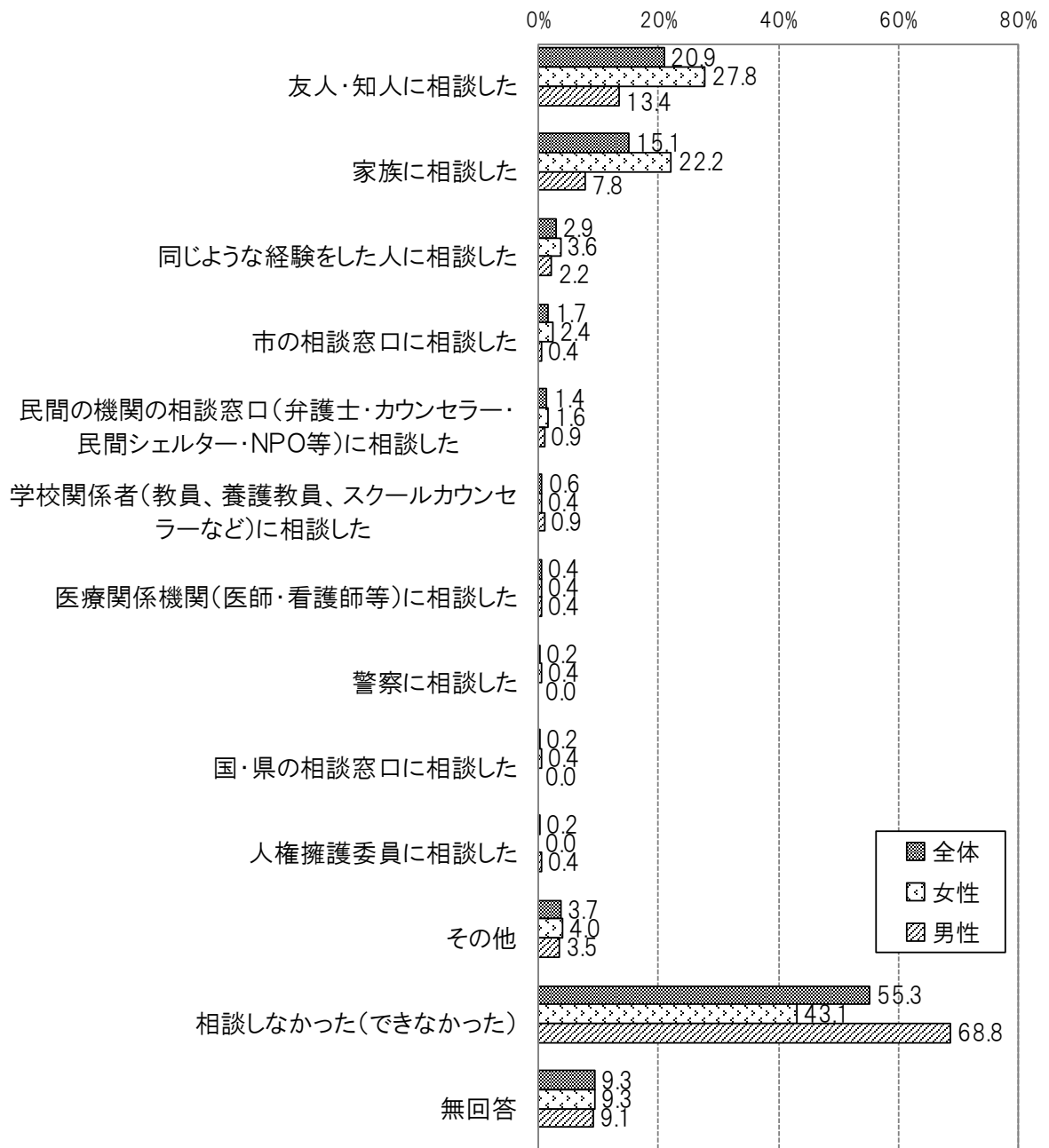
6-(2) 暴力などをした際の相談先

〔n=483〕

問30 【問29の「A 自分でしたことがある」で、13の項目中1つ以上「1」又は「2」と回答された方のみお答えください。】

そのような行為をしたとき、あなたは、どなたかに相談しましたか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆暴力などをした際の相談先については、「相談しなかった(できなかった)」が55.3%と最も多く、「友人・知人に相談した」が20.9%、「家族に相談した」が15.1%で続いている。
- ◆性別にみると、「相談しなかった(できなかった)」は男性が女性を25.7ポイント上回り、「友人・知人に相談した」と「家族に相談した」は女性が男性を14.4ポイントずつ上回っている。



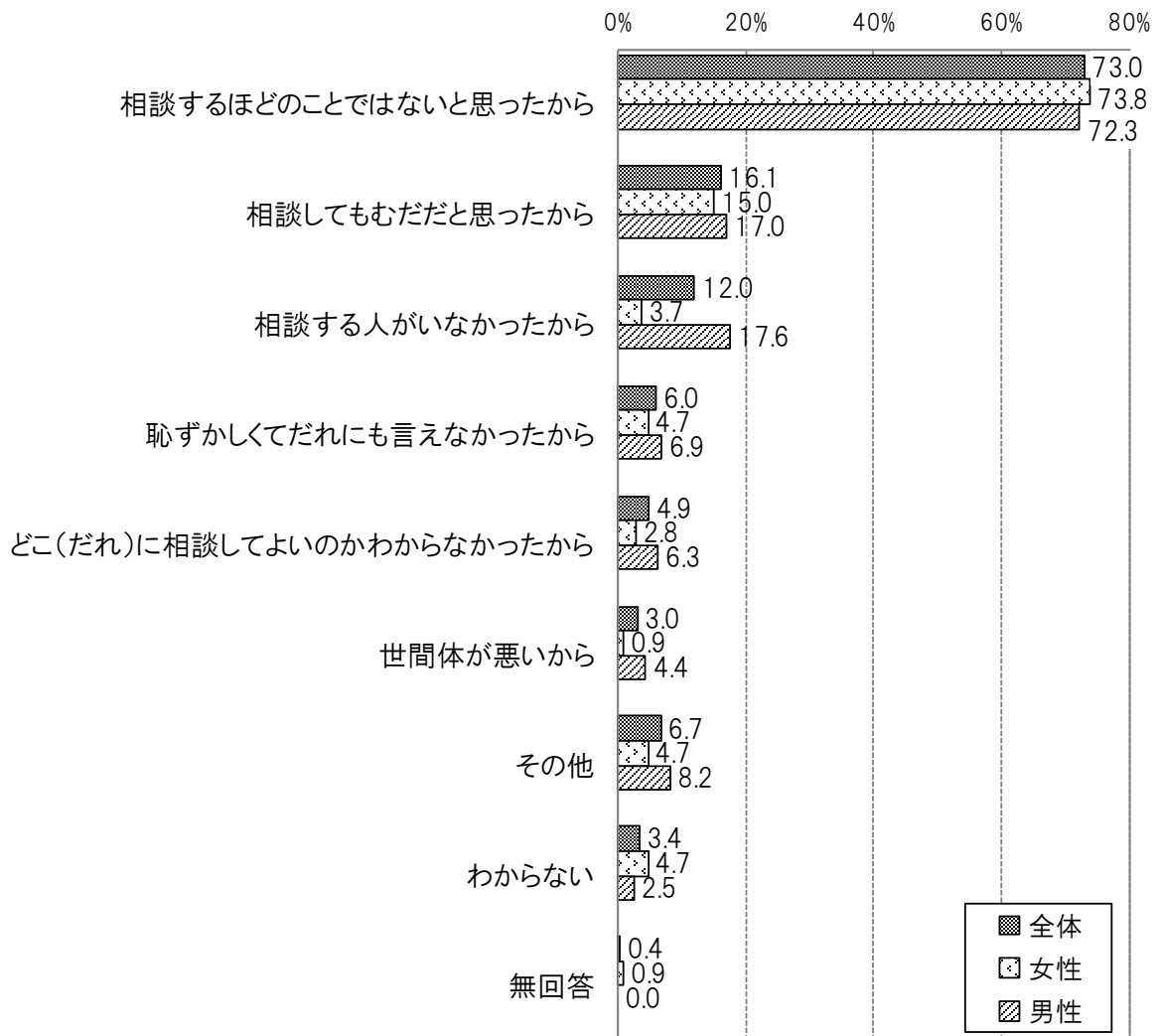
6-(3) 暴力などをした際に相談しなかった理由

〔n=267〕

問31 【問30で「12.相談しなかった(できなかった)」と回答された方のみお答えください。】

相談しなかったのは、なぜですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆暴力などをした際に相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が73.0%と突出して多くなっている。次いで、「相談してもむだだと思ったから」が16.1%、「相談する人がいなかったから」が12.0%で続いている。
- ◆性別にみても、全体結果と同様に男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」が突出して多くなっている。一方、男性では「相談する人がいなかったから」が女性を13.9ポイント上回っている。



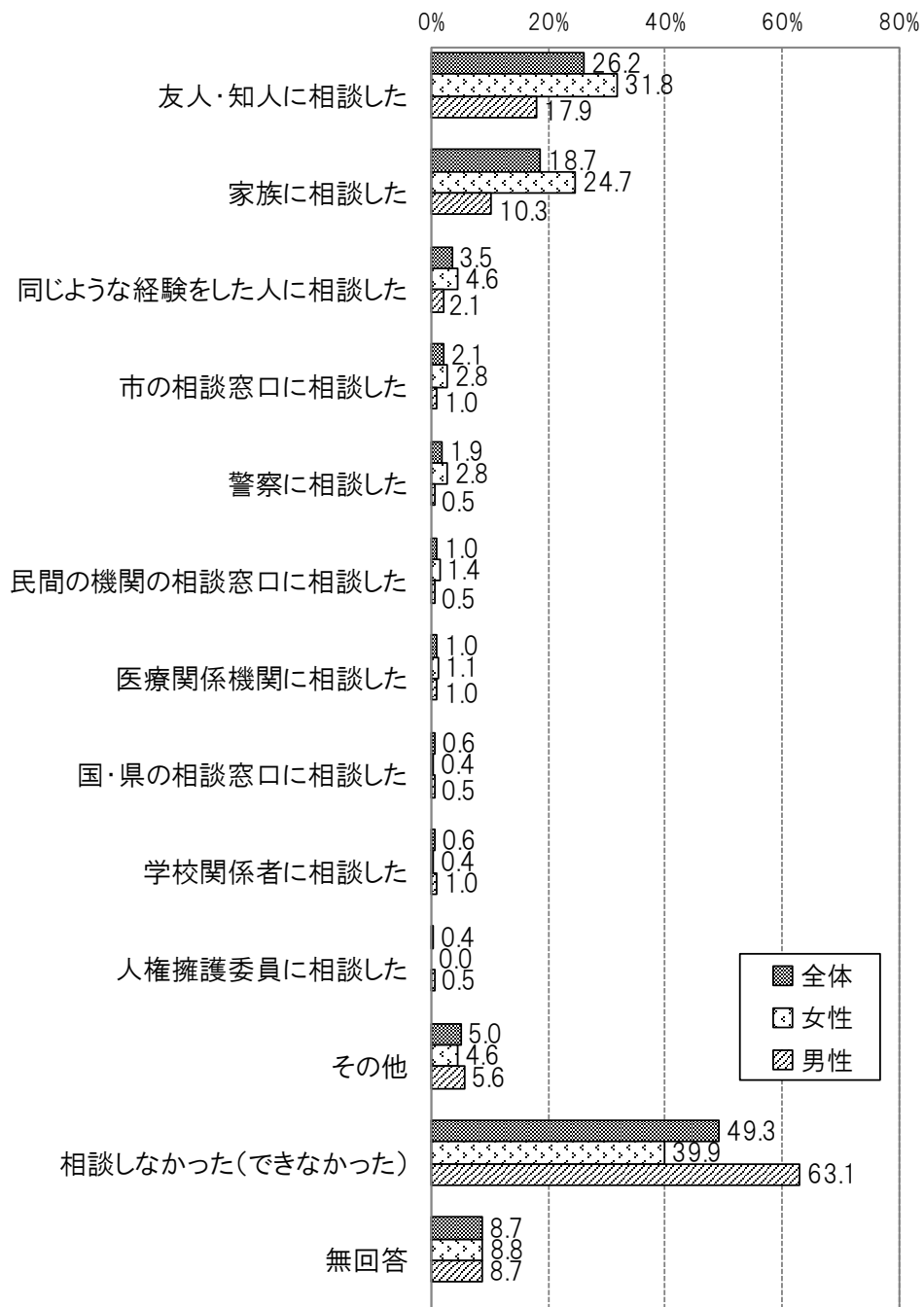
6-(4) 暴力などを受けた際の相談先

〔n=481〕

問32 【問29の「B相手から受けたことがある」で、13の項目中1つ以上「1」又は「2」と回答された方のみお答えください。】

そのような行為を受けたとき、あなたは、どなたかに相談しましたか。
次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆暴力などを受けた際の相談先については、「相談しなかった(できなかった)」が49.3%と最も多く、「友人・知人に相談した」が26.2%、「家族に相談した」が18.7%で続いている。
- ◆性別にみると、「相談しなかった(できなかった)」は男性が女性を23.2ポイント上回り、「友人・知人に相談した」と「家族に相談した」は女性が男性をそれぞれ13.9ポイント、14.4ポイント上回っている。



6-(5) 暴力などを受けた際に相談しなかった理由

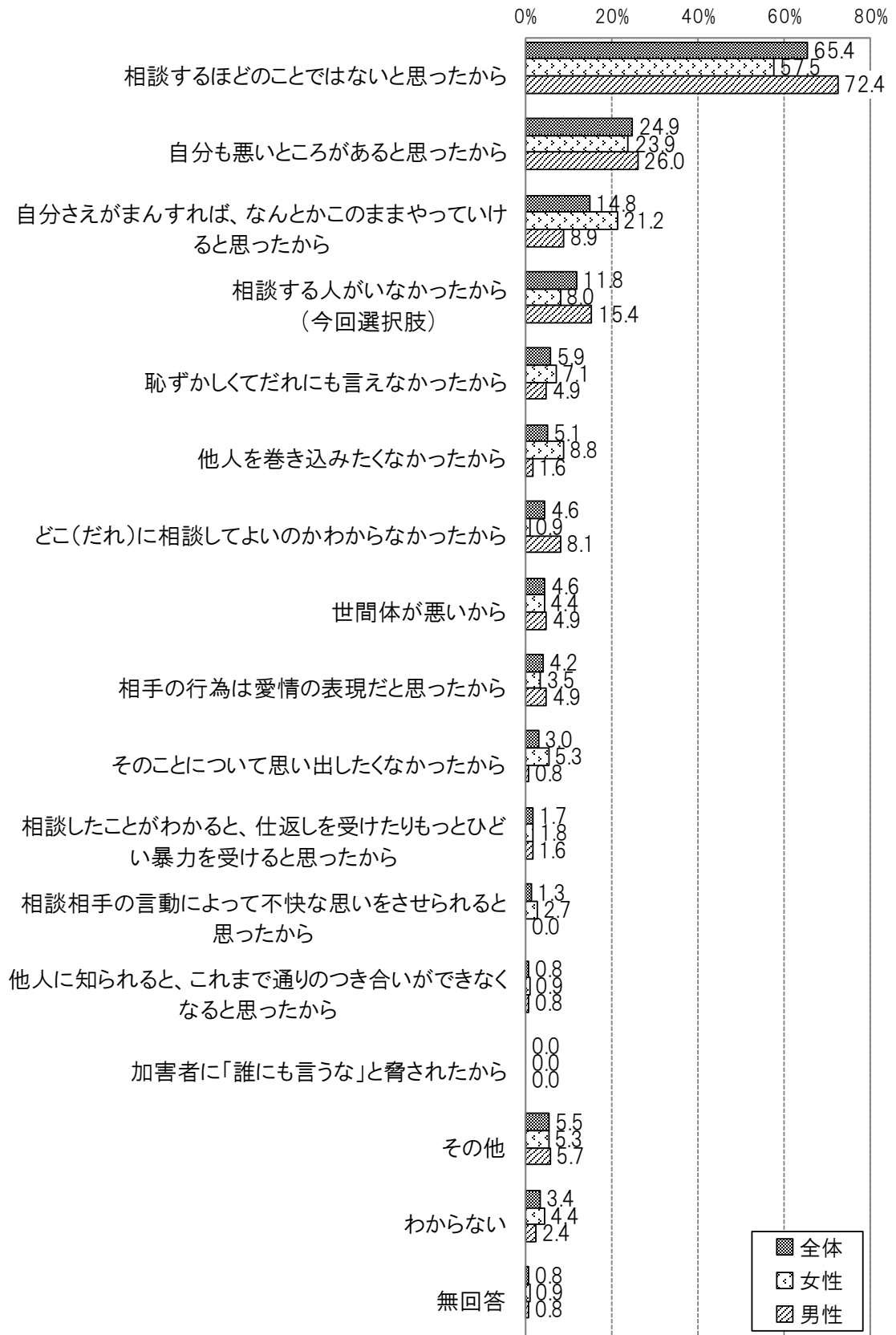
[n=237] 前回共通(一部変更)

問33 【問32で「12.相談しなかった(できなかった)」と回答された方のみお答えください。】

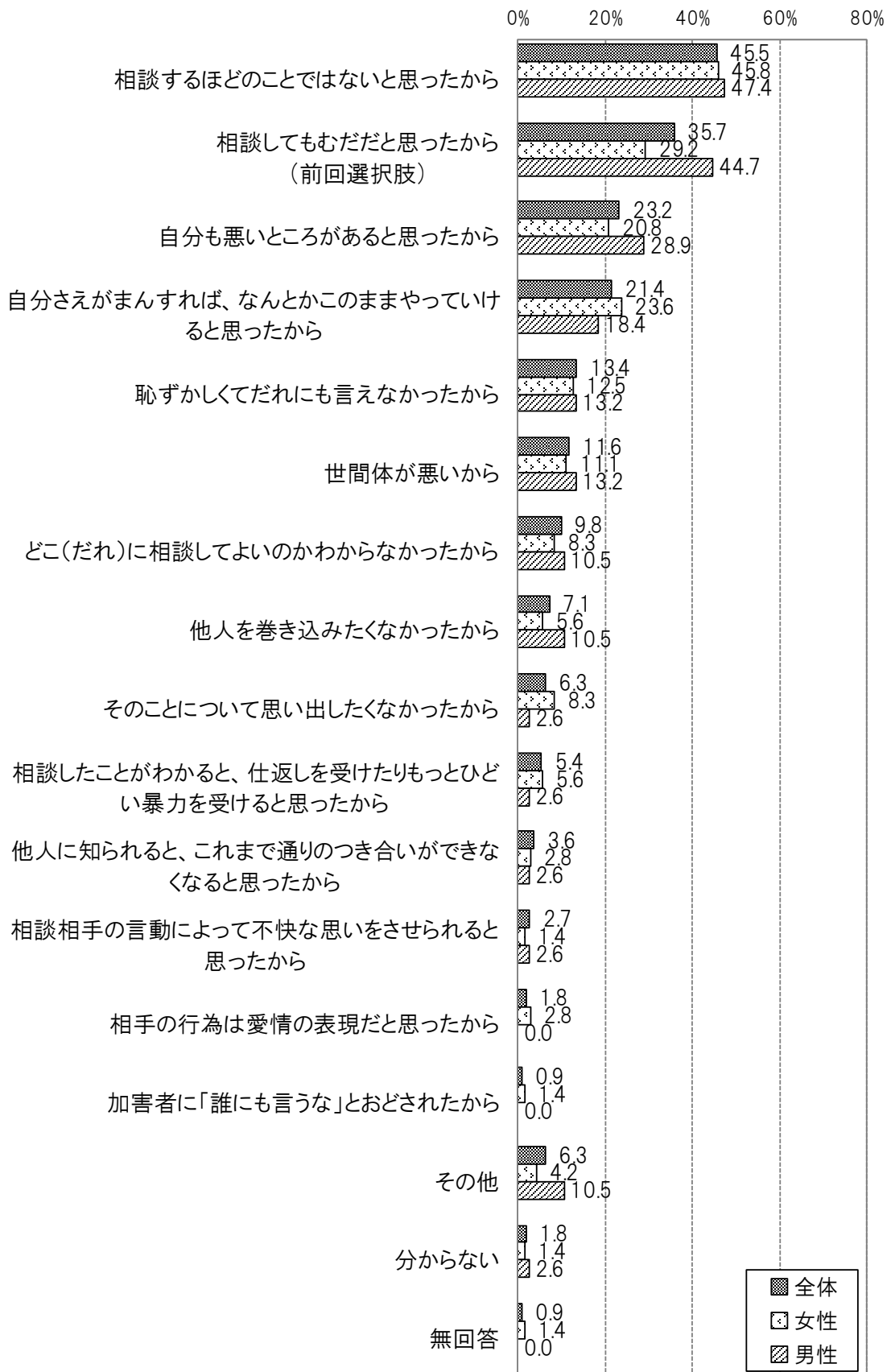
相談しなかったのは、なぜですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆暴力などを受けた際に相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が65.4%と最も多く、次いで、「自分も悪いところがあると思ったから」が24.9%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が14.8%で続いている。「相談するほどのことではないと思ったから」は前回調査から19.9ポイント増加している。
- ◆性別にみると、全体結果と同様に、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、「自分も悪いところがあると思ったから」が続いている。女性では「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が3番目に多く、男性を12.3ポイント上回っている。男性では「相談する人がいなかったから」が3番目に多く、女性を7.4ポイント上回っている。また、男性では「相談するほどのことではないと思ったから」も女性を14.9ポイント上回っている。

【今回調査】



【前回調査】



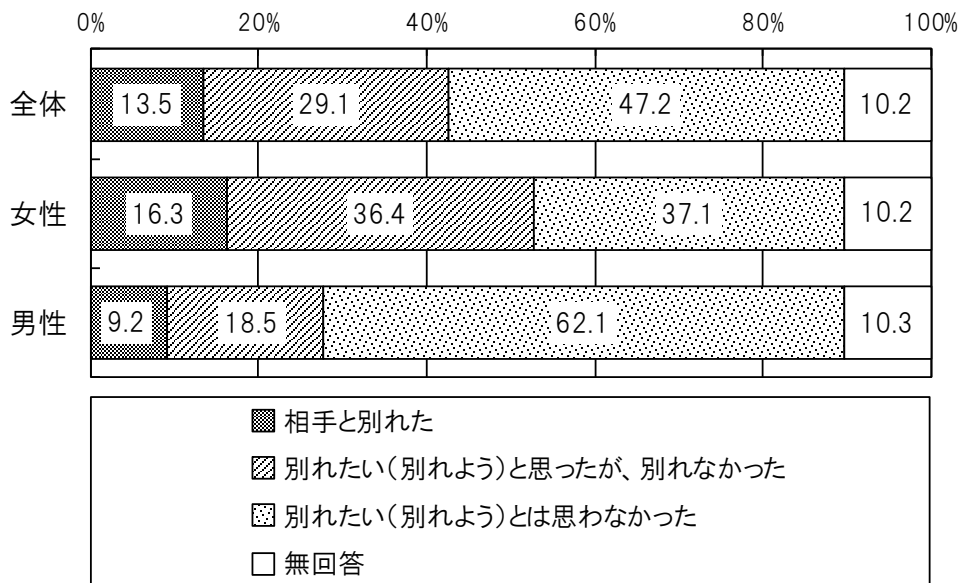
6-(6) 暴力などを受けた際の対応

〔n=481〕

問34 【問29の「B相手から受けたことがある」で、13の項目中1つ以上「1」又は「2」と回答された方のみお答えください。】

あなたは、配偶者等又は交際相手からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆配偶者等又は交際相手から暴力の加害等を受けた際にどうしたかについては、「別れたい(別れよう)とは思わなかった」が47.2%を占め、「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」が29.1%、「相手と別れた」が13.5%となっている。
- ◆性別にみると、「別れたい(別れよう)とは思わなかった」は女性が37.1%、男性が62.1%と、男性が女性を25.0ポイント上回り、差が大きく開いている。また、「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」は女性が36.4%、男性が18.5%と、女性が男性を17.9ポイント上回っている。「相手と別れた」は女性が16.3%、男性が9.2%と、女性が男性を7.1ポイント上回っている。



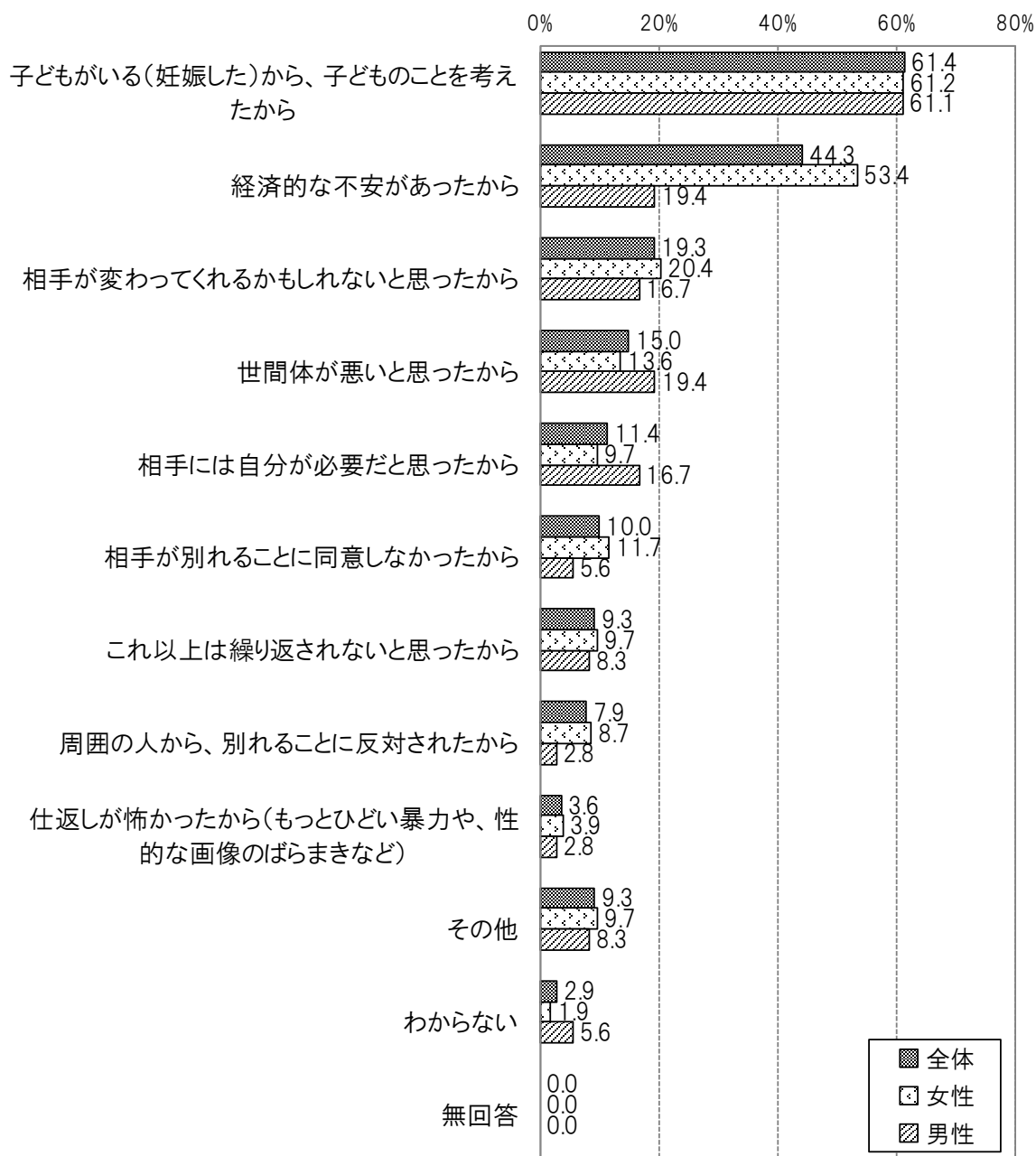
6-(7) 暴力などを受けた配偶者等と別れなかった理由

〔n=140〕

問35 【問34で「2.別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」と回答された方のみお答えください。】

別れなかったのは、なぜですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆暴力などを受けた配偶者等と別れなかった理由については、「子どもがいる(妊娠した)から、子どものことを考えたから」が61.4%と最も多く、次いで、「経済的な不安があったから」(44.3%)、「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」(19.3%)と続いている。
- ◆性別にみると、男女ともに全体結果と同様に「子どもがいる(妊娠した)から、子どものことを考えたから」が最も多くなっている。次いで、女性では「経済的な不安があったから」が53.4%と続き、男性を34.0ポイント上回り多くなっている。男性では「経済的な不安があったから」と「世間体が悪いと思ったから」が同率(19.4%)で続き、「世間体が悪いと思ったから」については女性を5.8ポイント上回っている。また、「相手には自分が必要だと思ったから」は7.0ポイント女性を上回っている。



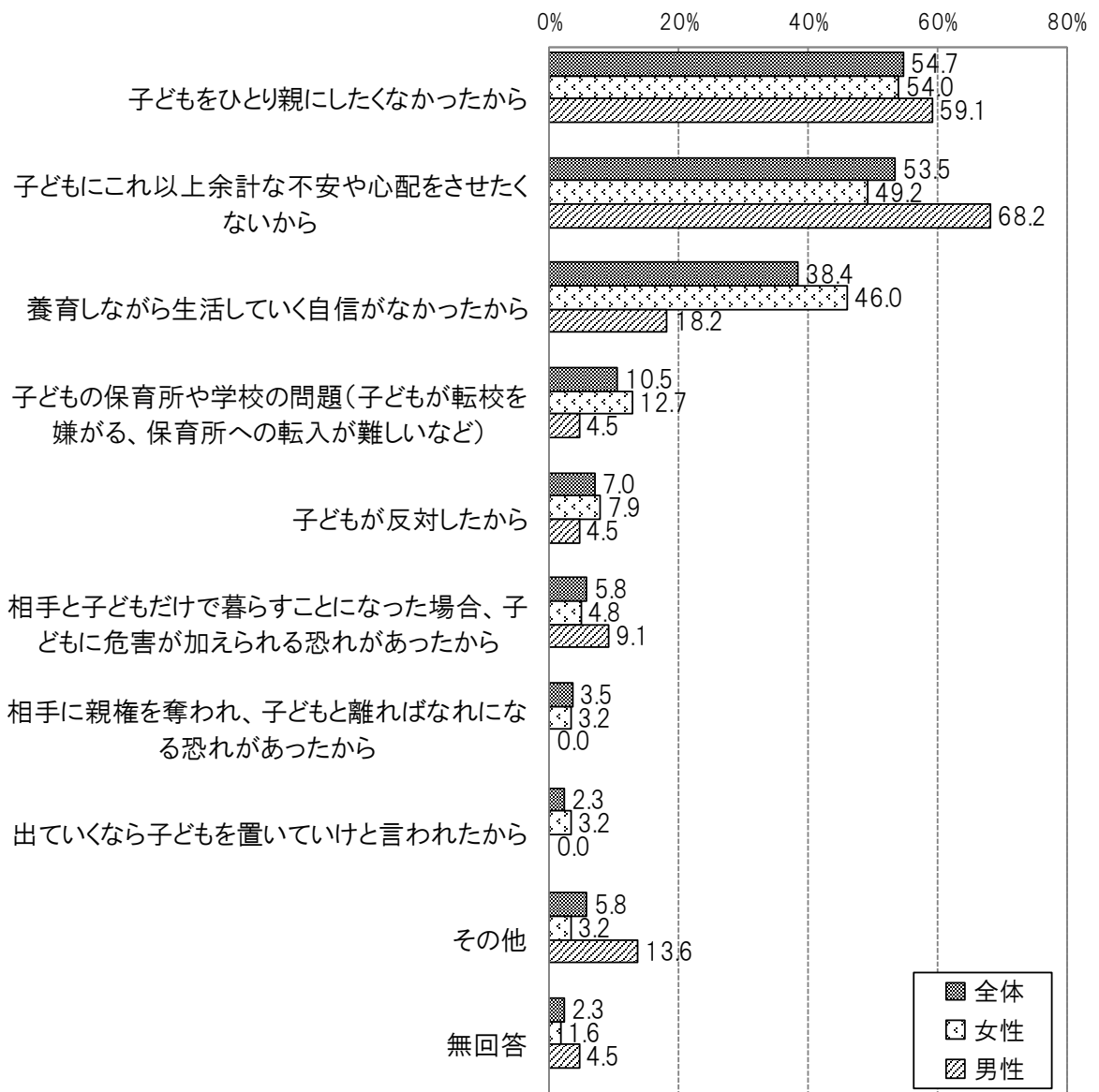
6-(8) 暴力などを受けた配偶者等と子どものことで別れなかった理由

〔n=86〕

問36 【問35で「9.子どもがいる(妊娠した)から、子どものことを考えたから」と回答された方のみお答えください。】

あなたが、子どものことで配偶者と別れなかった主な理由は何ですか。
次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆暴力などを受けた配偶者等と子どものことで別れなかった理由については、「子どもをひとり親にしたくなかったから」(54.7%)と「子どもにこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから」(53.5%)の2つが僅差で多くなっている。次いで、「養育しながら生活していく自信がなかったから」が38.4%で続いている。
- ◆性別にみると、男性では「子どもにこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから」が68.2%と最も多く、女性を19.0ポイント上回っている。一方、女性では上位2つは全体結果と同様であるが、3番目に「養育しながら生活していく自信がなかったから」が46.0%と続き、男性を27.8ポイント上回っている。



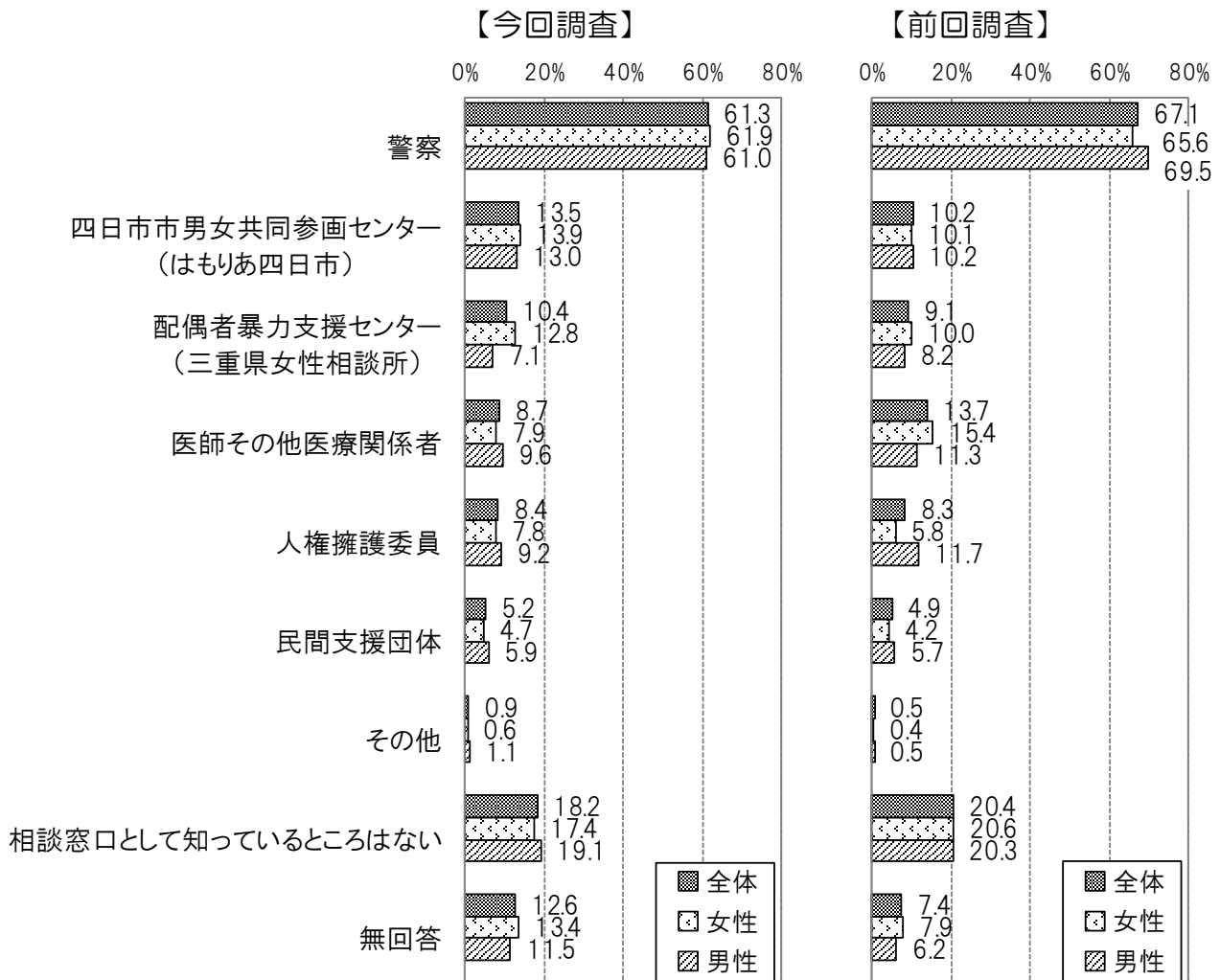
6-(9) 暴力などを受けた際の相談先の認知

〔n=1,167〕 前回共通

問37 【すべての方におたずねします。】

配偶者や恋人などの間で、相手から暴力を受けたときに相談できる機関や関係者のうち知っているものを、次の中から、あてはまるものすべてを選んで○印をつけてください。

- ◆配偶者や恋人などから暴力を受けた際の相談窓口として知っている機関は、「警察」が61.3%と突出して多く、次いで、「四日市市男女共同参画センター(はもりあ四日市)」(13.5%)、「配偶者暴力支援センター(三重県女性相談所)」(10.4%)と続いており、これら以外の機関の認知は1割未満となっている。前回調査から「四日市市男女共同参画センター(はもりあ四日市)」は3.3ポイント上昇し、「警察」は5.8ポイント、「医師その他医療関係者」は5.0ポイント、「相談窓口として知っているところはない」は2.2ポイント減少した。
- ◆性別にみても全体と同様の結果となっているが、女性では「配偶者暴力支援センター(三重県女性相談所)」が5.7ポイント男性を上回っている。



7 性の多様性について

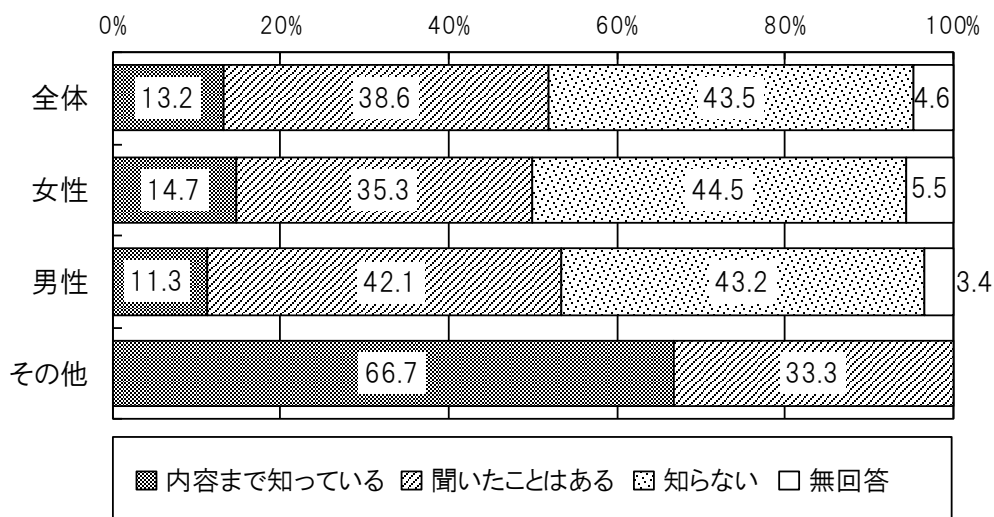
7-(1) 「性的指向」「性自認」の認知

[n=1,167]

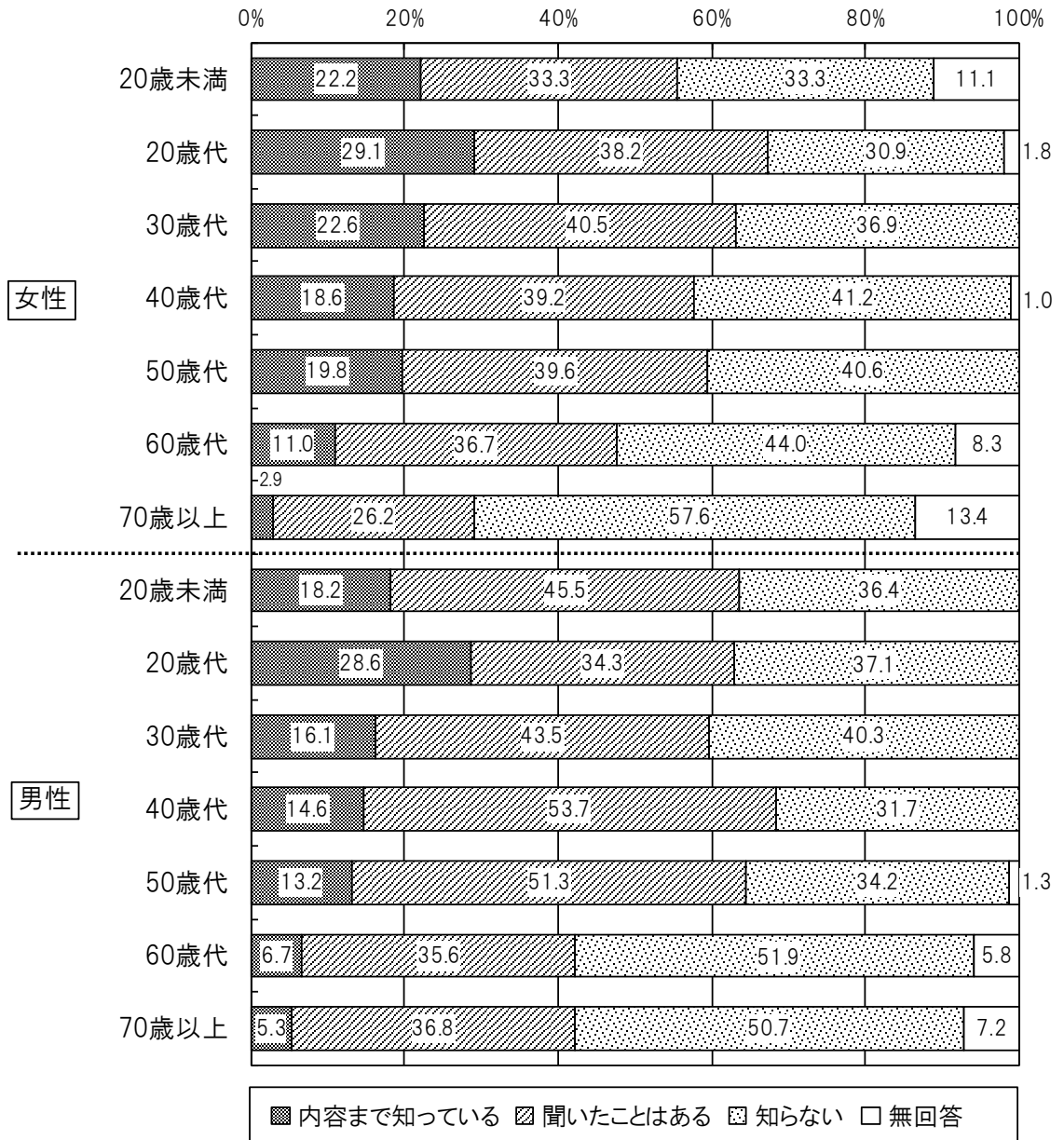
問38 【すべての方におたずねします。】

あなたは「性的指向」、「性自認」という言葉をご存じですか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆「性的指向」、「性自認」という言葉の認知状況については、「内容まで知っている」は13.2%、「聞いたことはある」は38.6%、「知らない」は43.5%となっている。
- ◆性別にみると、女性では「内容まで知っている」が男性を3.4ポイント上回っている。また、その他では「内容まで知っている」は約7割を占めている。
- ◆性・年齢別にみると、女性の30歳代以下と20歳代男性では「内容まで知っている」が2割を超えており、特に、20歳代男女では約3割に上る。また、60歳代以下では女性のほうが男性よりも「内容まで知っている」は多くなっている。一方、男性の60歳代と70歳以上の男女では「知らない」が多い。



性・年齢別



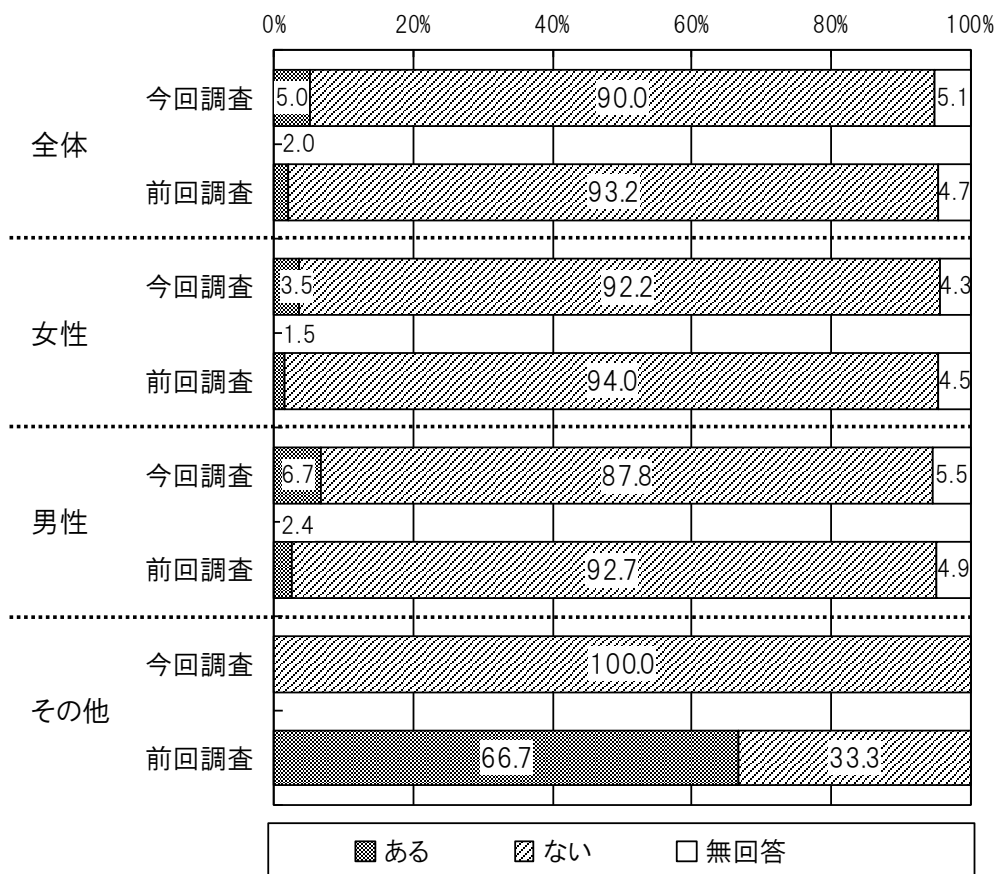
7-(2) 自分の恋愛対象に悩んだり、自分の性に違和感を覚えた経験

〔n=1,167〕 前回共通

問39 【すべての方におたずねします。】

あなたは、今までに自分の恋愛対象の性について悩んだり、自分の性に違和感を覚えたりしたことはありますか。次の中から、あてはまるものを選んで○印をつけてください。

- ◆ 今までに自分の恋愛対象の性について悩んだり、自分の性に違和感を覚えたりしたことが「ある」方は、全体で5.0%、女性で3.5%、男性で6.7%となっている。
- ◆ 前回調査と比較すると、「ある」方は全体で3.0ポイント、女性で2.0ポイント、男性で4.3ポイント増加した。
- ◆ 性別にみると、「ある」方は男性が女性を3.2ポイント上回っている。



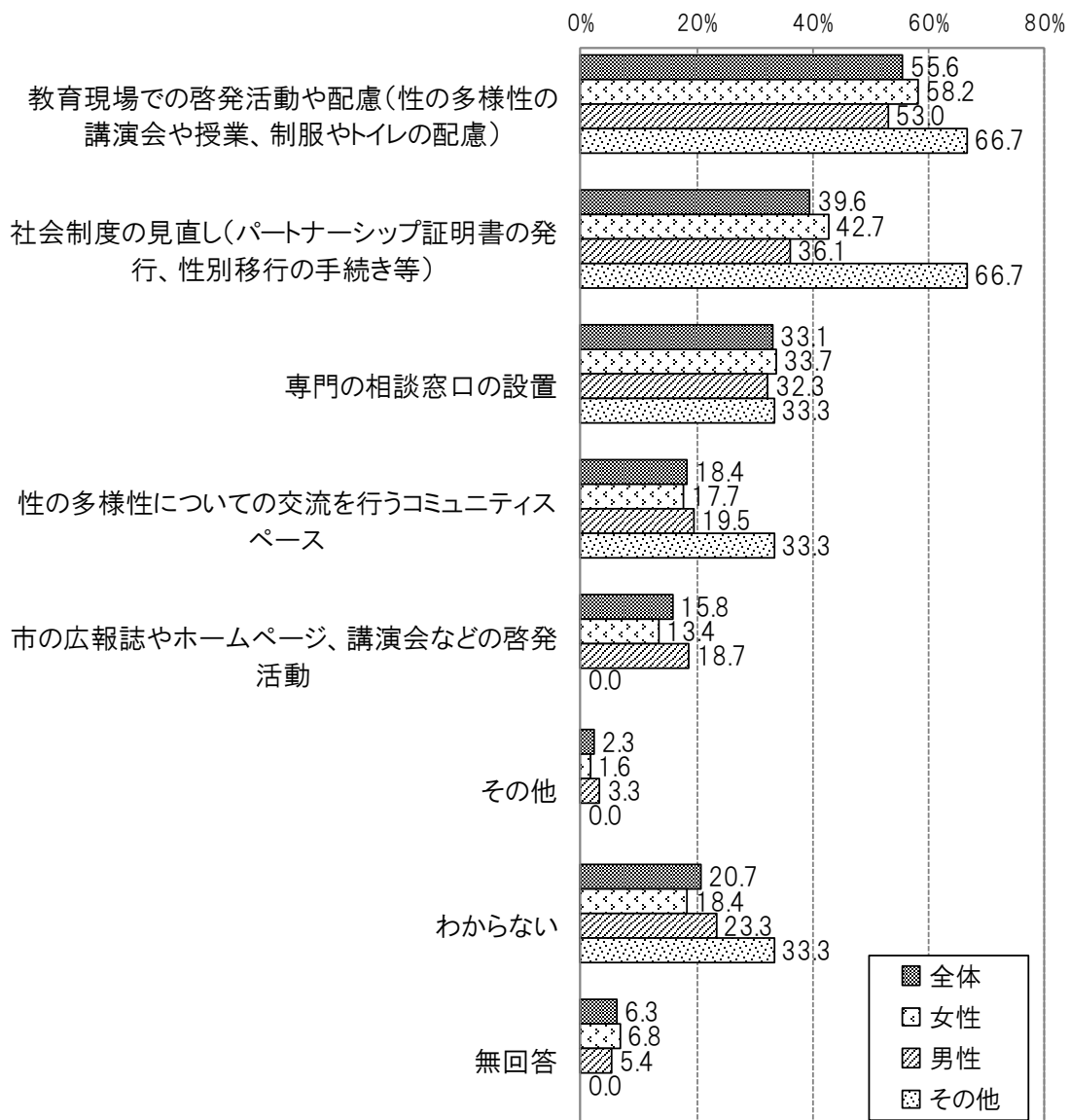
7-(3) 性の多様性を認め合う社会を作るために必要な施策・対策

[n=1,167]

問40 【すべての方におたずねします。】

あなたは、性の多様性を認め合う社会を作るために、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆性の多様性を認め合う社会を作るために必要なことについては、「教育現場での啓発活動や配慮」が55.6%と最も多く、次いで、「社会制度の見直し」(39.6%)、「専門の相談窓口の設置」(33.1%)と続いている。
- ◆性別にみても全体と同様の結果となっているが、「社会制度の見直し」と「教育現場での啓発活動や配慮」については女性が男性をそれぞれ6.6ポイント、5.2ポイント上回っている。また、「市の広報誌やホームページ、講演会などの啓発活動」については男性が女性を5.3ポイント上回っている。



8 男女共同参画社会について

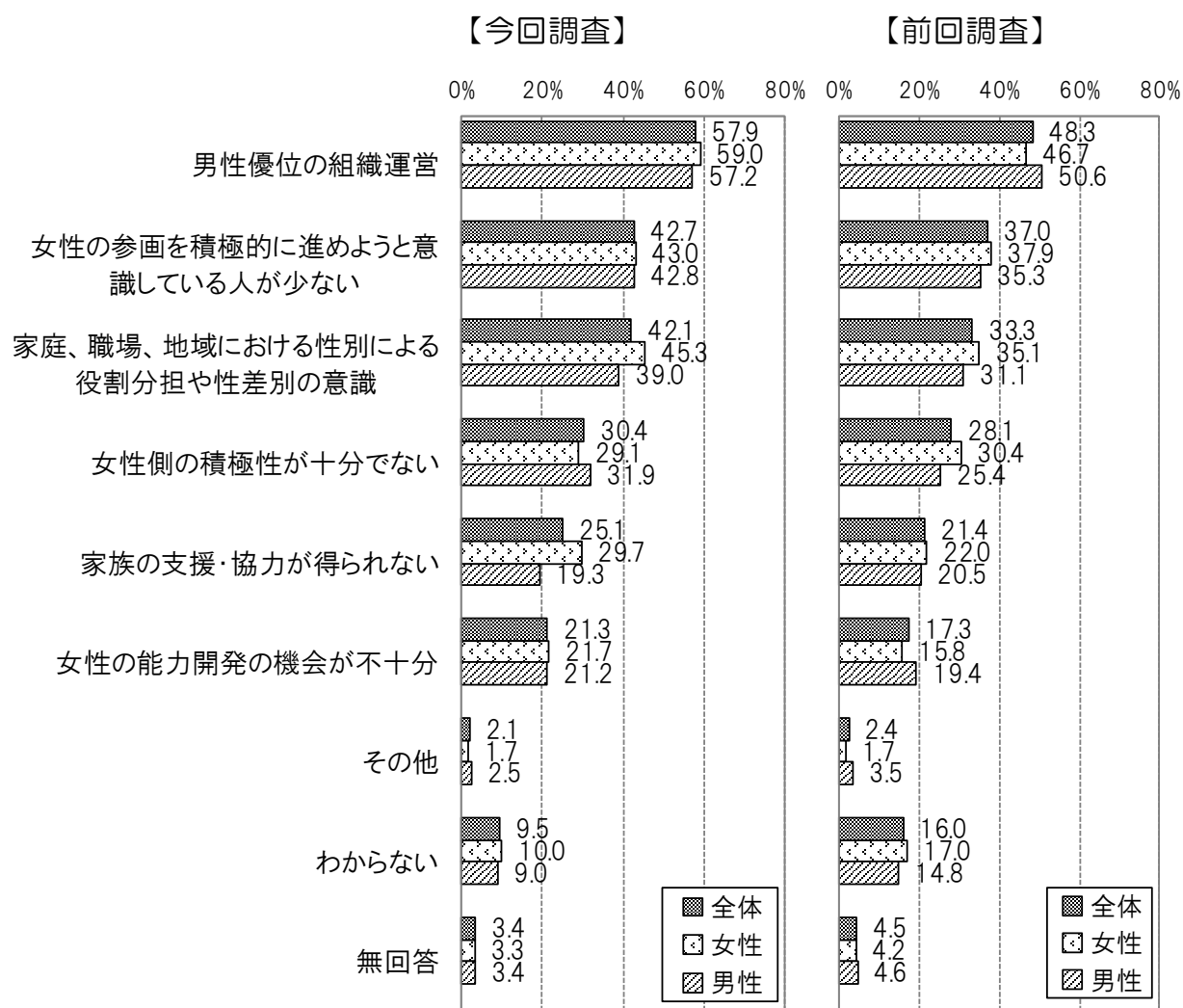
8-(1) 政策の立案や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由

〔n=1,167〕 **前回共通**

問41 【すべての方におたずねします。】

あなたは、政治や行政において、政策の立案や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆政策の立案や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由についてたずねたところ、前回調査と同様に「男性優位の組織運営」が57.9%と最も多く、次いで、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」(42.7%)、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」(42.1%)と続いている。
- ◆性別にみると、男女ともに全体結果と同様に「男性優位の組織運営」が最も多くなっているが、次いで、女性では「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識」が45.3%で続いており、男性を6.3ポイント上回っている。また、「家族の支援・協力が得られない」についても10.4ポイント男性を上回っている。なお、前回調査に比べ、「男性優位の組織運営」は、女性では12.3ポイント、男性では6.6ポイント増加している。



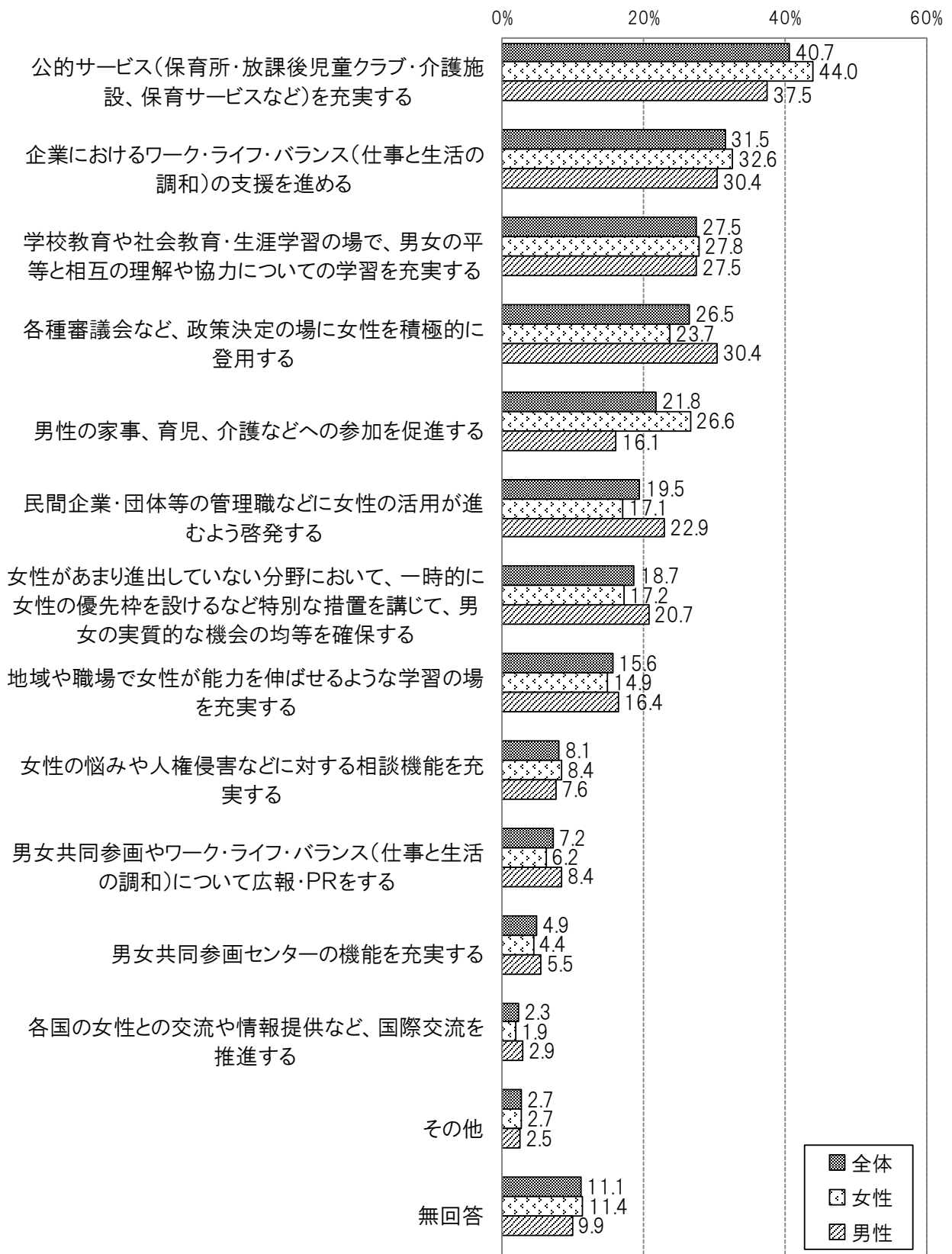
8-(2) 男女共同参画を推進するための力点

〔n=1,167〕

問42 【すべての方におたずねします。】

男女共同参画社会の実現のために、市はどのような施策を推進すべきだと思いますか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

- ◆男女共同参画社会の実現のために、市が推進すべき施策については、「公的サービス(保育所・放課後児童クラブ・介護施設、保育サービスなど)を充実する」が40.7%と最も多く、次いで、「企業におけるワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の支援を進める」(31.5%)、「学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」(27.5%)と続いている。
- ◆性別にみると、全体結果と同様に男女ともに「公的サービス(保育所・放課後児童クラブ・介護施設、保育サービスなど)を充実する」が最も多く、次いで、女性では「企業におけるワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の支援を進める」が、男性では「企業におけるワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の支援を進める」と「各種審議会など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」が同率で続いている。また、女性では「男性の家事、育児、介護などへの参加を促進する」が男性を10.5ポイント上回る一方、男性では「各種審議会など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」が6.7ポイント女性を上回り、男女間で意識の差がみられる。



9 男女共同参画センターについて

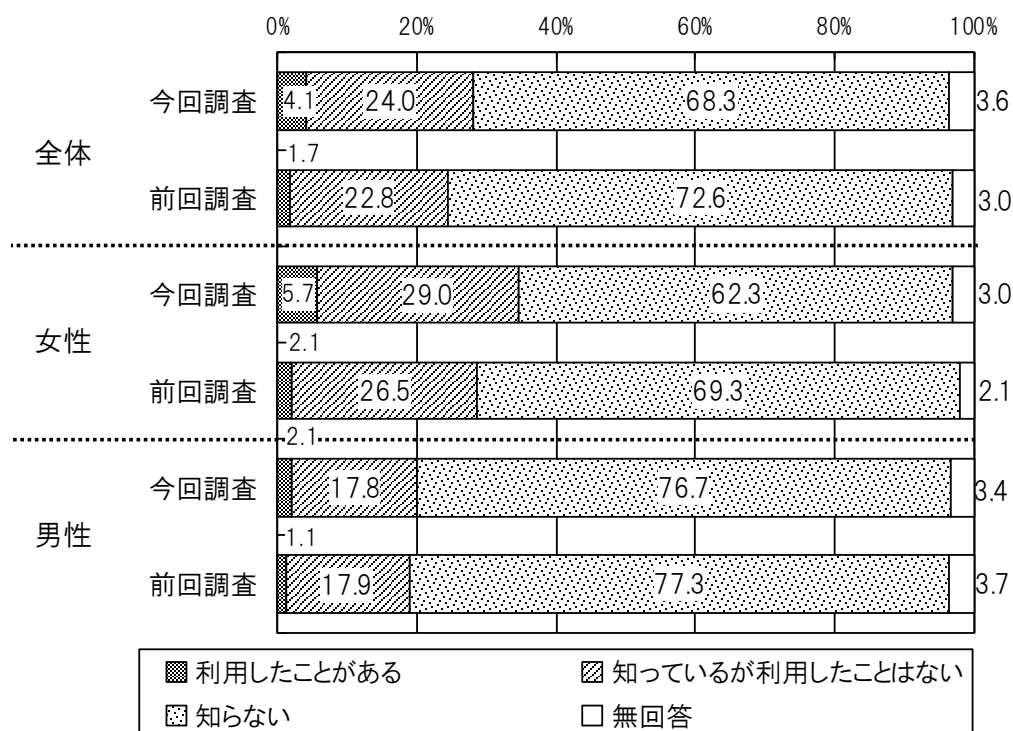
9-(1) 四日市市男女共同参画センターの認知度

[n=1,167] 前回共通

問43 【すべての方におたずねします。】

あなたは、四日市市男女共同参画センター「はもりあ」をご存じですか。
次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- ◆四日市市男女共同参画センターを「利用したことがある」方は4.1%と、前回調査の1.7%から2.4ポイント増加している。なお、「知っているが利用したことはない」までを含めた認知度は、前回調査の24.5%から28.1%へと3.6ポイント増加している。
- ◆性別にみると、男女共同参画センターの認知度（「利用したことがある」、「知っているが利用したことはない」の合計）は男女ともに増加しており、女性では6.1ポイント増加している。



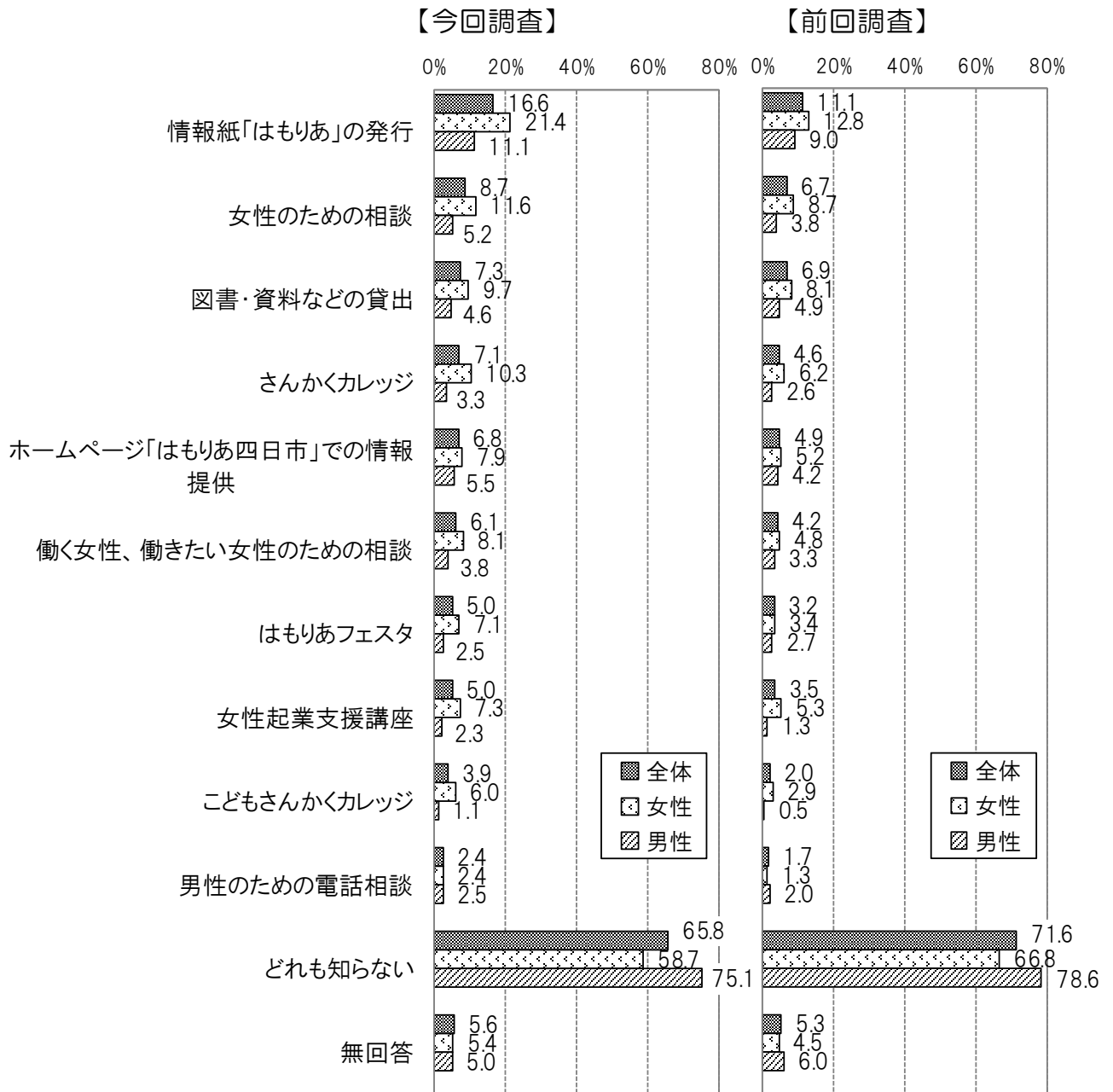
9-(2) 四日市市男女共同参画センターでの実施事業の認知度

[n=1,167] 前回共通

問44 【すべての方におたずねします。】

四日市市男女共同参画センターで行っている、次のような事業をご存じですか。次の中から、ご存じのものをすべて選んで○印をつけてください。

- ◆四日市市男女共同参画センターでの実施事業を知っている方は少なく、知っている事業では「情報紙「はもりあ」の発行」が16.6%と最も多くなっているが、その他の事業はいずれも10%未満と少ない。また、「情報紙「はもりあ」の発行」は前回調査の11.1%から5.5ポイント増加している。
- ◆性別にみると、女性では「情報紙「はもりあ」の発行」(21.4%)、「女性のための相談」(11.6%)、「さんかくカレッジ」(10.3%)などで10%を超えている。また、「男性のための電話相談」以外のすべての項目で男性を上回っている。



參考資料

1 調査票

男女共同参画に関する市民意識調査

● 調査ご協力をお願い ●

日頃は、市政全般にわたりご理解ご協力を賜り、ありがとうございます。

このたび四日市市では、「男女共同参画プランよっかいち 2015～2020 後期 平成 30(2018)年度～平成 32(2020)年度」の計画期間が令和 2(2020)年度で終了することから、新たな計画の策定にあたり、男女共同参画に関する市民の皆様のご意識や生活について調査を行うことにいたしました。

この調査は、住民基本台帳から満 18 歳以上の 3,000 人を無作為に選ばせていただき実施するもので、調査結果は計画策定の際の基礎資料とし、アンケートの集計につきましては、すべてコンピューターで統計的に処理いたしますので、個人が特定されること、ご回答いただいた方にご迷惑をおかけするようなことは一切ございません。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、ぜひご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、アンケート結果につきましては、ホームページにて公表する予定です。

令和元年 8 月

四日市市長 森 智広

<ご記入にあたっての注意事項>

- ◆ この調査は、ご本人（封筒のあて名の人）がお答えください。ただし、ご本人がお答えにできない場合は、ご家族の方や介護をしている方などのご協力をお願いいたします。
- ◆ 当てはまる選択肢の番号を○印で囲んでください。設問によって、○を付けられる数が変わりますので、ご注意ください。なお、「その他（ ）」を選んだ場合は、（ ）の中に具体的にご記入ください。
- ◆ 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や案内にそってお答えください。
- ◆ 記入は黒のボールペンか鉛筆でお願いします。
- ◆ 回答が終わりましたら、記入もれなどがいないか確認していただき、回答用紙のみ同封の返信用封筒に入れて、**8月31日(土)までに**郵便ポストに投函してください。切手を貼る必要はありません。

問い合わせ先：四日市市 市民文化部 男女共同参画課
電話 059-354-8331（火～土 8:30～17:15）
FAX 059-354-8339
Eメール kyoudousankaku@city.yokkaichi.mie.jp

男女共同参画に関する市民意識調査 回答用紙

1. 男女平等についておたずねします。

問1 【すべての方におたずねします。】

あなたは次の各項目の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

①～⑧の各項目について、それぞれ1つずつ選んで○印をつけてください。

	選 択 肢					
	1	2	3	4	5	6
	男性のほう が優遇されて いる	どちらかとい えば 男性のほう が優遇されて いる	平 等 に な っ て い る	女 性 の ほう が 優 遇 さ れ て い る	ど ち ら か と い え ば 女性 のほう が優遇 されて いる	女 性 の ほう が 優 遇 さ れ て い る
①家庭で	1	2	3	4	5	6
②職場で	1	2	3	4	5	6
③学校で	1	2	3	4	5	6
④法律や制度で	1	2	3	4	5	6
⑤政治の場で	1	2	3	4	5	6
⑥自治会活動の場で	1	2	3	4	5	6
⑦社会通念・慣習・しきたりで	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体で	1	2	3	4	5	6

問2 【すべての方におたずねします。】

今後、あなたが、社会のあらゆる分野でもっと男女が平等になるために最も重要だと思うことは何でしょうか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 法律や制度の上での見直しを行い、女性差別につながるものを改めること
2. 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
3. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること
4. 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
5. 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
6. その他（具体的に： _____)
7. わからない

2. 結婚、家庭、子育てについておたずねします。

問3 【すべての方におたずねします。】

あなたは結婚していますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- | | |
|-------------------------|--------|
| 1. 結婚している（配偶者と同居） | ⇒（問4へ） |
| 2. 結婚していないがパートナーと暮らしている | |
| 3. 結婚している（配偶者と別居） | ⇒（問7へ） |
| 4. 離婚、死別等により配偶者なし | ⇒（問7へ） |
| 5. 結婚していない | ⇒（問7へ） |

問4 【問3で「1」、「2」と回答された方におたずねします。】

あなたの配偶者又はパートナーは収入を伴う仕事をされていますか。次の中から、あてはまるものを選んで○印をつけてください。

- | | |
|----------|--------|
| 1. している | |
| 2. していない | ⇒（問7へ） |

問5 【問4で「1. している」と回答された方におたずねします。】

あなたの配偶者又はパートナーの仕事について、次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- | | |
|------------------------------------|---------------------|
| 1. 正社員・職員 | 4. 起業家・経営者（法人） |
| 2. 非正社員・非正職員
（パート、アルバイト、派遣、契約等） | 5. 自営業（家族従事者含む） |
| 3. 会社・団体の役員（経営者以外） | 6. 家庭内職 |
| | 7. その他（具体的に： _____） |

問6 【問4で「1. している」と回答された方におたずねします。】

あなたと配偶者又はパートナーとの家事（育児や介護を含む）の分担比率はどの程度ですか。下記表にご記入ください。

	あなた		配偶者（又はパートナー）
（例）	4	:	6
（記入欄）		:	

問7 【すべての方におたずねします。】

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- | | |
|-------------------|--------|
| 1. そう思う | ⇒（問8へ） |
| 2. どちらかといえばそう思う | |
| 3. どちらかといえばそう思わない | ⇒（問9へ） |
| 4. そう思わない | |
| 5. わからない | |

問8 【問7で「1. そう思う」、「2. どちらかといえばそう思う」と回答された方におたずねします。】
そう考えるのはどのような理由ですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

1. 日本の伝統的な家族の在り方だと思ふから
2. 自分の両親も役割分担をしていたから
3. 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思ふから
4. 妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思ふから
5. 家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは大変だと思ふから
6. その他（具体的に： _____)
7. 特にない
8. わからない

問9 【問7で「4. そう思わない」、「3. どちらかといえばそう思わない」と回答された方におたずねします。】
そう考えるのはどのような理由ですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

1. 男女平等に反すると思ふから
2. 自分の両親も外で働いていたから
3. 夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思ふから
4. 妻が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いと思ふから
5. 家事・育児・介護と両立しながら、働き続けることは可能だと思ふから
6. 固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから
7. その他（具体的に： _____)
8. 特にない
9. わからない

問10 【すべての方におたずねします。】
今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

1. 男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
5. 社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること
6. 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
7. 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
8. 男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行なうこと
9. 男性の家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること
10. その他（具体的に： _____)
11. 特に必要なことはない

3. 職業生活についておたずねします。

問 11 【すべての方におたずねします。】

あなたは現在どのような仕事についていますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- | | | |
|------------------------------------|-----------------|--------------------------|
| 1. 正社員・職員 | 6. 家庭内職 | 2.~10. と回答された方は⇒(問 18 へ) |
| 2. 非正社員・非正職員
(パート、アルバイト、派遣、契約等) | 7. 主婦・主夫 | |
| 3. 会社・団体の役員(経営者以外) | 8. 学生 | |
| 4. 起業家・経営者(法人) | 9. 無職 | |
| 5. 自営業(家族従事者含む) | 10. その他(具体的に:) | |

問 12 【問 11 で「1. 正社員・職員」と回答された方におたずねします。】

あなたは現在、管理職(課長相当職以上)への昇格を希望していますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1. 希望する ⇒(問 13 へ) | 3. 既に管理職である |
| 2. 希望しない ⇒(問 14 へ) | 4. わからない |

問 13 【問 12 で「1. 希望する」と回答された方におたずねします。】

その理由をお答えください。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 給料が上がるから | 4. 上司・会社に期待されていると感じるから |
| 2. 能力的にできると思うから | 5. その他(具体的に:) |
| 3. 裁量権が大きくなりやりがいがあるから | |

問 14 【問 12 で「2. 希望しない」と回答された方におたずねします。】

その理由をお答えください。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1. 仕事と生活の両立ができないから | 4. 長く会社に在籍するつもりがないから |
| 2. 自分には務まらないから | 5. その他(具体的に:) |
| 3. 管理職の仕事にやりがいや魅力を感じないから | |

問 15 【問 11 で「1. 正社員・職員」と回答された方におたずねします。】

あなたの職場では、男性は育児休業を取りやすいと思いますか。次の中から、主なものを1つだけ選んで○印をつけてください。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. 取りやすいと思う | 4. 制度があるか知らない |
| 2. 取りにくいと思う | 5. わからない |
| 3. 男性の育児休業の制度がない | |

問 16 【問 11 で「1. 正社員・職員」と回答された方におたずねします。】

あなたの職場で女性活躍の取り組みは進んでいると思いますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 進んでいる	⇒(問 18 へ)
2. どちらかといえば進んでいる	
3. あまり進んでいない	⇒(問 17 へ)
4. 進んでいない	
5. わからない	⇒(問 18 へ)

問 17 【問 16 で「3. あまり進んでいない」「4. 進んでいない」と回答された方におたずねします。】

あなたは、職場で女性活躍の取り組みが進まないのはどのような理由からだと思いますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 職場が男性中心の組織風土である	
2. 仕事と生活が両立できるような職場づくりが進んでいない	
3. 女性を登用するためのキャリア形成支援が不十分である	
4. 男性の家事・育児参加が進まない	
5. 職場での女性活躍を望んでいない女性が多い	
6. その他（具体的に： _____）	

説明

【キャリア形成】とは、

「労働者が、企業を超えても、自らの職業生活設計に即して職業訓練や実務経験を積み重ね、実践的な職業能力を形成すること」をいいます。

問 18 【すべての方におたずねします。】

あなたは、女性が職業を持つことについてどのようにお考えですか。次の中から、主なものを1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 子どもができて、ずっと職業を持ち続けるのがよい	
2. 子どもができたなら辞め、大きくなったら再び職業を持つほうがよい	
3. 子どもができるまでは、職業を持つほうがよい	
4. 結婚するまでは、職業を持つほうがよい	
5. 女性は職業を持たないほうがよい	
6. その他（具体的に： _____）	
7. わからない	

問 19 【すべての方におたずねします。】

あなたは、女性が職業を持ち続ける上で障害となるものは何だと思いますか。あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

1. 家族の協力、理解などが得られないこと
2. 女性自身の職業に対する自覚が足りないこと
3. 企業内の配置・昇進等で女性に対する偏見があること
4. 勤務時間が長いこと
5. 夫又はパートナーの勤務時間が長いこと
6. 育児休業、保育施設などが整備されていないこと
7. 病人、高齢者等の看護・介護を女性が担わなければならないこと
8. 男は仕事、女は家庭という社会通念があること
9. 夫又はパートナーの転勤
10. 本人の転勤
11. その他（具体的に： _____)
12. わからない
13. 特にない

問 20 【すべての方におたずねします。】

あなたは、女性が再就職するためにどのような施策や対策が必要だと思いますか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

1. 就職活動に必要な知識・対策や就職意欲向上のためのセミナーの開催
2. 働きたい女性への個別相談の機会を増やす
3. 再就職希望者と企業とのマッチング（結びつける）の場を設ける
4. 資格取得やスキルアップ（技能向上）に対する支援
5. 女性採用の拡大を図るよう企業に働きかける
6. 保育園や学童保育所の充実（増設、受入定員増、利用料軽減など）
7. 子どもが病気の時などの支援体制（病児保育など）の充実
8. 男性も家事育児に参加できるようなワーク・ライフ・バランスの推進
9. 短時間勤務や在宅勤務など柔軟な働き方ができるよう企業に働きかける
10. 職場における女性差別やセクハラを防止する啓発活動
11. 賃金の男女差の是正
12. その他（具体的に： _____)
13. わからない
14. 特にない

4. ワーク・ライフ・バランスについておたずねします。

説明

【ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）とは、
「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できること」をいいます。

問 21 【問 11 で、「1. 正社員・職員」、「2. 非正社員・非正職員」と回答された方におたずねします。】

ワーク・ライフ・バランスに関して、現在あなたの思うような仕事と生活のバランスは実現できていますか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- | | | | |
|------------------|------------|--------------------------|------------|
| 1. 実現できている | ⇒ (問 25 へ) | 4. もっと個人の生活 (地域活動・学習・趣味・ | |
| 2. もっと仕事を優先したい | ⇒ (問 22 へ) | 付き合い等) を優先したい | ⇒ (問 24 へ) |
| 3. もっと家庭生活を優先したい | ⇒ (問 23 へ) | 5. その他 | ⇒ (問 25 へ) |
| (具体的に :) | | | |

問 22 【問 21 で「2. もっと仕事を優先したい」と回答された方におたずねします。】

現在あなたの生活において、仕事の時間を優先させようと思うと、課題になるのはどのようなことですか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 配偶者など家族の理解が得られない
2. 家事などに関して、配偶者など家族に協力してもらえない
3. 育児に関して、子どもの預け先が見つからない、保育時間の延長ができない
4. 親等の介護に関して、介護の頼み先が見つからない
5. 景気の影響などで仕事が減っている、又はいい働き先が見つからない
6. 勉強、習いごと、趣味の活動などが忙しい
7. 健康上の問題
8. その他 (具体的に :)

問 23 【問 21 で「3. もっと家庭生活を優先したい」と回答された方におたずねします。】

現在あなたの生活において、家庭生活の時間を優先させようと思うと、課題になるのはどのようなことですか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 仕事が忙しい
2. 勉強、習いごと、趣味の活動などが忙しい
3. 働く時間を減らすと、経済的に苦しくなる
4. 家庭生活を大事にすることについて、職場の上司や同僚の理解が得られない
5. 働いている会社等で、育児休暇や介護休暇などの制度が整っていない
6. 働いている会社等で、育児休暇や介護休暇などの制度はあるが、積極的にとろうという雰囲気がない
7. 健康上の問題
8. その他 (具体的に :)

問 24 【問 21 で「4. もっと個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）を優先したい」と回答された方におたずねします。】

現在あなたの生活において、個人の生活の時間を優先させようと思うと、課題になるのはどのようなことですか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 仕事が忙しい
2. 家事が忙しい
3. 育児が忙しい
4. 介護が忙しい
5. 配偶者など家族の理解が得られない
6. 経済的余裕がない
7. 何かをやりたいと思うが、きっかけや情報が少ない
8. 健康上の問題
9. その他（具体的に： _____)

問 25 【すべての方におたずねします。】

男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現するためには、何が重要だと思いますか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

1. 市民に対する意識啓発
2. 企業経営者に対する意識啓発
3. 先進的な取り組みをしている企業の事例の情報提供
4. 先進的な取り組みをしている企業の表彰
5. ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業への助成
6. 育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化
7. 労働時間を縮減するための法制度の強化
8. 在宅勤務などができるような環境の整備
9. 保育サービスなどの子育て支援の充実
10. 介護サービスなどの充実
11. その他（具体的に： _____)
12. わからない
13. 特にない

5. 社会活動等についておたずねします。

問 26 【すべての方におたずねします。】

あなたは次のような活動をしていますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- | | |
|-----------------------------------|--------------|
| 1. 県・市町の審議会・委員会の委員 | } ⇒ (問 28 へ) |
| 2. 自治会等の活動 | |
| 3. P T A ・子ども会・青少年グループの活動 | |
| 4. 青年団体・女性団体・老人団体等の活動 | |
| 5. 消費者団体・生活協同組合等の消費者活動 | |
| 6. 生涯学習活動・スポーツ活動・趣味や娯楽活動 | |
| 7. 消防団などの防災活動 | |
| 8. 外国人との交流などの国際交流活動 | |
| 9. その他（具体的に：) | |
| 10. いずれも参加していない（したくない） ⇒ (問 27 へ) | |

問 27 【問 26 で「10. いずれも参加していない（したくない）」と回答された方のみお答えください。その理由は何ですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- | | |
|-------------------------|---|
| 1. 仕事が忙しいから |) |
| 2. 参加したいと思うものがないから | |
| 3. 家庭で病人・高齢者等の介護をしているから | |
| 4. 家事や子育てに忙しいから | |
| 5. 家族の理解・協力が得られないから | |
| 6. 人間関係がわずらわしいから | |
| 7. その他（具体的に：) | |
| 8. 特に理由はない | |

問 28 【問 26 で「1.～9.」を選択された方のみお答えください。】

あなたが現在活動されている団体で、次のようなことはありますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1. 団体の長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある |) |
| 2. 女性が役職に就きたがらない | |
| 3. 活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある | |
| 4. 女性の参加が少ない | |
| 5. 男性の参加が少ない | |
| 6. 女性が表に出るべきでないという雰囲気がある | |
| 7. 男性が女性を対等なパートナーとして見ていない | |
| 8. 女性の意見が聞き入れられない | |
| 9. その他（具体的に：) | |
| 10. わからない | |
| 11. 特にない | |

6. ドメスティック・バイオレンス（配偶者・恋人などからの暴力）などについておたずねします。

問 29 【すべての方におたずねします。】

次のような行為を、配偶者等（※）又は交際相手にしたり、あるいは配偶者等又は交際相手から受けたりしたことがありますか。（各項目につきA欄とB欄で○は1つ）

※配偶者等には、恋人、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手・事実婚を解消した相手）も含まれます。	A 自分でした ことがある			B 相手から 受けたことがある		
	何 度 も し た	し た 一 、 二 度	と が な い 全 く し た こ と	た 何 度 も 受 け	受 け た 一 、 二 度	こ と が な い 全 く 受 け た
（例）何を言っても（言われても）長期間無視する	1	2	③	1	②	3
1. 何を言っても（言われても）長期間無視する	1	2	3	1	2	3
2. 交友関係や電話・メールをチェックする	1	2	3	1	2	3
3. 行動を制限する	1	2	3	1	2	3
4. 暴言を言う、大声でどなる	1	2	3	1	2	3
5. 避妊に協力しない	1	2	3	1	2	3
6. 意に反した性的な行為を強要する	1	2	3	1	2	3
7. 無理やりポルノビデオや雑誌等を見せる	1	2	3	1	2	3
8. 口汚くののしる	1	2	3	1	2	3
9. 大切にしているものをわざと壊したり捨てたりする	1	2	3	1	2	3
10. 殴るふりをする等して脅す	1	2	3	1	2	3
11. 首を絞める・刃物を持ち出す等命に危険を感じる行為をする	1	2	3	1	2	3
12. 殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をする	1	2	3	1	2	3
13. 自由になるお金を制限する	1	2	3	1	2	3

問 30 【問 29 の「A 自分でしたことがある」で、13 の項目中 1 つ以上「1」又は「2」と回答された方のみお答えください。】

そのような行為をしたとき、あなたは、どなたかに相談しましたか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

1. 家族に相談した
2. 友人・知人に相談した
3. 同じような経験をした人に相談した
4. 市の相談窓口相談した
5. 警察に相談した
6. 民間の機関の相談窓口（弁護士・カウンセラー・民間シェルター・NPO等）に相談した
7. 国・県の相談窓口相談した
8. 人権擁護委員に相談した
9. 医療関係機関（医師・看護師等）に相談した
10. 学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）に相談した
11. その他（具体的に： _____）
12. 相談しなかった（できなかった）⇒（問 31 へ）

問 31 【問 30 で「12. 相談しなかった（できなかった）」と回答された方のみお答えください。】
相談しなかったのは、なぜですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

1. 相談する人がいなかったから
2. どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
3. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
4. 相談してもむだだと思ったから
5. 世間体が悪いから
6. 相談するほどのことではないと思ったから
7. その他（具体的に： _____)
8. わからない

問 32 【問 29 の「B 相手から受けたことがある」で、13 の項目中1つ以上「1」又は「2」と回答された方のみお答えください。】
そのような行為を受けたとき、あなたは、どなたかに相談しましたか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

1. 家族に相談した
2. 友人・知人に相談した
3. 同じような経験をした人に相談した
4. 市の相談窓口で相談した
5. 警察に相談した
6. 民間の機関の相談窓口（弁護士・カウンセラー・民間シェルター・NPO等）に相談した
7. 国・県の相談窓口で相談した
8. 人権擁護委員に相談した
9. 医療関係機関（医師・看護師等）に相談した
10. 学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）に相談した
11. その他（具体的に： _____)
12. 相談しなかった（できなかった）⇒（問 33 へ）

問 33 【問 32 で「12. 相談しなかった（できなかった）」と回答された方のみお答えください。】
相談しなかったのは、なぜですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

1. 相談する人がいなかったから
2. どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
3. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
4. 相談したことがわかると、仕返しを受けたりもっとひどい暴力を受けると思ったから
5. 加害者に「誰にも言うな」と脅されたから
6. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
7. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっているとと思ったから
8. 世間体が悪いから
9. 他人を巻き込みたくなかったから
10. 他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
11. そのことについて思い出したくなかったから
12. 自分も悪いところがあると思ったから
13. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
14. 相談するほどのことではないと思ったから
15. その他（具体的に： _____)
16. わからない

問 34 【問 29 の「B 相手から受けたことがある」で、13 の項目中 1 つ以上「1」又は「2」と回答された方のみお答えください。】

あなたは、配偶者等又は交際相手からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。次の中から、1 つだけ選んで○印をつけてください。

1. 相手と別れた
2. 別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった ⇒ (問 35 へ)
3. 別れたい（別れよう）とは思わなかった

問 35 【問 34 で「2. 別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」と回答された方のみお答えください。】

別れなかったのは、なぜですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで○印をつけてください。

1. 仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）
2. 経済的な不安があったから
3. 世間体が悪いと思ったから
4. 周囲の人から、別れることに反対されたから
5. 相手が別れることに同意しなかったから
6. 相手が変わってくれるかもしれないと思ったから
7. これ以上は繰り返されないとと思ったから
8. 相手には自分が必要だと思ったから
9. 子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから
10. その他（具体的に： _____)
11. わからない

問 36 【問 35 で「9. 子どもがいる（妊娠した）から、子どものことを考えたから」と回答された方のみお答えください。】

あなたが、子どものことで配偶者と別れなかった主な理由は何ですか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

1. 子どもをひとり親にしたくなかったから
2. 子どもにこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから
3. 相手と子どもだけで暮らすことになった場合、子どもに危害が加えられる恐れがあったから
4. 子どもが反対したから
5. 出ていくなら子どもを置いていけと言われたから
6. 相手に親権を奪われ、子どもと離ればなれになる恐れがあったから
7. 子どもの保育所や学校の問題（子どもが転校を嫌がる、保育所への転入が難しいなど）
8. 養育しながら生活していく自信がなかったから
9. その他（具体的に： _____）

問 37 【すべての方におたずねします。】

配偶者や恋人などの間で、相手から暴力を受けたときに相談できる機関や関係者のうち知っているものを、次の中から、あてはまるものすべてを選んで○印をつけてください。

- | | |
|--------------------------------|-------------------------|
| 1. 四日市市男女共同参画センター
（はもりあ四日市） | 5. 民間支援団体 |
| 2. 配偶者暴力支援センター
（三重県女性相談所） | 6. 医師その他医療関係者 |
| 3. 警察 | 7. その他
（具体的に： _____） |
| 4. 人権擁護委員 | 8. 相談窓口として知っているところはない |

7. 性の多様性についておたずねします。

問 38 【すべての方におたずねします。】

あなたは「性的指向」、「性自認」という言葉をご存知ですか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

- | | |
|--------------|---------|
| 1. 内容まで知っている | 3. 知らない |
| 2. 聞いたことはある | |

説明

【性の多様性】

性のあり方は多様であり、LGBTをはじめ多様な性的指向・性自認などの要素の組み合わせによって、さまざまなセクシュアリティ（性のあり方）が形作られています。

【性的指向】

人の恋愛・性愛がどういう対象に向かうのかを示す概念をいいます。具体的には、恋愛・性愛の対象が異性に向かう異性愛（ヘテロセクシュアル）、同性に向かう同性愛（ホモセクシュアル）、男女両方に向かう両性愛（バイセクシュアル）を指します。

【性自認】

自分の性をどのように認識しているのか、どのような性のアイデンティティ（性同一性）を自分の感覚として持っているかを示す概念です。「こころの性」と呼ばれることもあります。

問 39 【すべての方におたずねします。】

あなたは、今までに自分の恋愛対象の性について悩んだり、自分の性に違和感を覚えたりしたことはありますか。次の中から、あてはまるものを選んで○印をつけてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問 40 【すべての方におたずねします。】

あなたは、性の多様性を認め合う社会を作るために、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、3つまでを選んで○印をつけてください。

- | |
|--|
| 1. 教育現場での啓発活動や配慮（性の多様性の講演会や授業、制服やトイレの配慮） |
| 2. 社会制度の見直し（パートナーシップ証明書の発行、性別移行の手続き等） |
| 3. 専門の相談窓口の設置 |
| 4. 市の広報誌やホームページ、講演会などの啓発活動 |
| 5. 性の多様性についての交流を行うコミュニティスペース |
| 6. その他（具体的に： _____) |
| 7. わからない |

8. 男女共同参画社会についておたずねします。

説明

【男女共同参画社会】とは、男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会のことをいいます。

問 41 【すべての方におたずねします。】

あなたは、政治や行政において、政策の立案や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。次の中から、あてはまるものをすべてを選んで○印をつけてください。

- | |
|---------------------------------|
| 1. 家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識 |
| 2. 男性優位の組織運営 |
| 3. 家族の支援・協力が得られない |
| 4. 女性の能力開発の機会が不十分 |
| 5. 女性側の積極性が十分でない |
| 6. 女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない |
| 7. その他（具体的に： _____) |
| 8. わからない |

問 42 【すべての方におたずねします。】

男女共同参画社会の実現のために、市はどのような施策を推進すべきだと思いますか。次の中から、3つまで選んで○印をつけてください。

1. 各種審議会など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
2. 民間企業・団体等の管理職などに女性の活用が進むよう啓発する
3. 女性があまり進出していない分野において、一時的に女性の優先枠を設けるなど特別な措置を講じて、男女の実質的な機会の均等を確保する
4. 地域や職場で女性が能力を伸ばせるような学習の場を充実する
5. 学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
6. 企業におけるワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の支援を進める
7. 公的サービス（保育所・放課後児童クラブ・介護施設、保育サービスなど）を充実する
8. 男性の家事、育児、介護などへの参加を促進する
9. 男女共同参画センターの機能を充実する
10. 男女共同参画やワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について広報・PRをする
11. 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する
12. 女性の悩みや人権侵害などに対する相談機能を充実する
13. その他（具体的に： _____)

9. 男女共同参画センターについておたずねします。

問 43 【すべての方におたずねします。】

あなたは、四日市市男女共同参画センター「はもりあ」をご存じですか。次の中から、1つだけ選んで○印をつけてください。

1. 利用したことがある
2. 知っているが利用したことはない
3. 知らない

問 44 【すべての方におたずねします。】

四日市市男女共同参画センターで行っている、次のような事業をご存じですか。次の中から、ご存じのものをすべて選んで○印をつけてください。

1. さんかくカレッジ
2. こどもさんかくカレッジ
3. はもりあフェスタ（登録グループの情報発信と発表の場）
4. 情報紙「はもりあ」の発行
5. ホームページ「はもりあ四日市」での情報提供
6. 女性起業家支援講座
7. 女性のための相談
8. 男性のための電話相談
9. 働く女性、働きたい女性のための相談
10. 図書・資料などの貸出
11. どれも知らない

